

シニア層を中心とした食品安全に関する意識調査
報告書

令和8年3月

<目次>

I	調査概要	3
1	調査目的	3
2	調査対象	3
3	調査期間	3
4	調査方法	3
5	調査結果を見る上での注意点	3
II	調査結果の要約	4
1	食品安全に関する意識	4
2	食中毒に関する意識・知識	4
3	健康食品に関する意識	5
4	食品安全に関する情報収集について	6
5	東京都の食品安全に関する情報発信について	7
III	インターネットアンケート調査結果	8
1	回答者の属性	8
2	食品安全に関する意識	13
	(1) 料理をする頻度	13
	(2) 自炊しない場合の食事方法	15
	(3) 食品購入時や外食の際に気にしていること	17
3	食中毒に関する意識・知識	22
	(1) 食中毒になった経験	22
	(2) 食中毒予防のために気を付けていること	24
	(3) ノロウイルス食中毒についての知識	32
	(4) 食中毒に対する認識	36
	(5) 食中毒予防についての認知経路	39
4	健康食品に関する意識	42
	(1) 健康食品の利用	42
	(2) 健康食品の利用種類	44
	(3) 健康食品を利用しはじめたきっかけ	46
	(4) 健康食品の利用目的	49
	(5) 健康食品の利用による効果	52
	(6) 健康食品の利用に関する医療従事者への相談	55
	(7) 健康食品の利用について相談しなかった理由	57
	(8) 健康食品に関する知識	60

5	食品安全に関する情報収集について	64
(1)	情報入手手段.....	64
(2)	インターネットにおける情報源	67
(3)	わかりやすい情報提示方法.....	85
(4)	ポスターやリーフレットをよく目にする場所.....	95
(5)	食品安全に関し、特に関心を持てる情報源	98
6	東京都の食品安全に関する情報発信について	100
(1)	東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの.....	100
(2)	食品安全に関し、東京都のホームページ等に載っていたらよいと思うもの	103
7	自由記述	107
IV	街頭アンケート調査結果	116
1	回答者の属性.....	116
2	食品安全に関する意識	121
(1)	料理をする頻度	121
(2)	自炊しない場合の食事方法.....	122
3	食中毒に関する意識.....	123
(1)	食中毒予防のために気を付けていること	123
4	食品安全に関する情報収集について	125
(1)	情報入手手段.....	125
(2)	インターネットにおける情報源	127
(3)	わかりやすい情報提示方法.....	133
(4)	ポスターやリーフレットをよく目にする場所.....	139
(5)	食品安全に関し、特に関心を持てる情報源	141
5	東京都の食品安全に関する情報発信について	143
(1)	東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの.....	143
(2)	食品安全に関し、東京都のホームページ等に載っていたらよいと思うもの	145
6	自由記述	147
V	資料.....	150
•	ネットアンケート調査・街頭アンケート調査の比較.....	150
•	調査票（インターネットアンケート調査）	167
•	調査票（街頭アンケート調査）	182

I 調査概要

1 調査目的

シニア層を中心とした食品安全の普及啓発を実施するにあたり、対象となる層の持つ食品安全に対する意識や情報取得手段などの実態を把握し、今後の普及啓発施策を検討するための基礎資料とする。

本調査では、インターネットアンケートを主調査とし、同手法では把握が難しい層の傾向を確認するため、一部の設問について補足調査として対面による街頭アンケートを実施した。

また、本調査結果の一部については、世代間における意識や情報取得手段の違いを把握するため、前回調査である令和6年12月実施の「若年層の食品安全に関する意識調査」との比較を行った。

2 調査対象

55歳以上の都民

3 調査期間

- ・インターネットアンケート調査：令和8年2月2日（月）から令和8年2月4日（水）まで
- ・街頭アンケート調査：令和8年2月16日（月）から令和8年2月20日（金）まで

4 調査方法

アンケートモニターに対するインターネットアンケートおよび街頭アンケート

※街頭アンケートは、23区内1か所（品川区内）、および多摩地域1か所（立川市内）の計2か所で実施し、各地点において80件ずつ回収した。

5 調査結果を見る上での注意点

- ① 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示している。
- ② 回答の比率（%）は小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合や、複数の項目を合計した数値が表・グラフの数値の合計と一致しない場合がある。
- ③ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- ④ 図表において、順序性のある選択肢を除き、「全体」の割合が高い順に選択肢を並べている。
- ⑤ 表示の都合上、帯グラフの0%については表示を省略している。
- ⑥ 数表において、比率が「全体」よりも10ポイント以上高いセルを濃い赤色、5ポイント以上高いセルを薄い赤色、5ポイント以上低いセルを薄い青色、10ポイント以上低いセルを濃い青色で色付けしている。ただし、回答者数（n）が30未満の場合は参考値としているため、色付けをしていない。

【比率の差】（n=30以上）

「全体」 +10ポイント以上	■	「全体」 -10ポイント以上	■
「全体」 +5ポイント以上	■	「全体」 -5ポイント以上	■

II 調査結果の要約

本調査のうち、主調査であるインターネットアンケート（以下、ネットアンケートとする。）による回収結果について、以下のとおり要点を取りまとめる。なお、街頭アンケート調査については、「活動状況（週2回以上の活動）」（図表177）や「情報入手手段」（図表181）など一部の項目においてネットアンケート結果との差異が見られたものの、全体として結果は概ね近い傾向を示しており、調査方法による大きな差は確認されなかった。そのため、本節の要約はネットアンケートの結果に限定して記載し、街頭アンケートの回答結果については、該当ページ（「IV 街頭アンケート調査結果（P116～149）」）を参照されたい。

1 食品安全に関する意識

- ・ふだん自分で料理をする頻度は、「ほぼ毎日する」が4割半ばで最も高かった。また、「週に3～5日する」、「週に1～2日する」がそれぞれ1割程度であり、「週1日以上」は6割後半であった（図表12）。
- ・自炊しない場合の食事方法は、「夫、妻、パートナーが料理をする」が7割前半で最も高かった。次いで「スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入」が1割後半であった（図表16）。
- ・食品購入時や外食の際に気にしていることは、「食品価格」が4割半ばで最も高く、次いで「塩分量」が3割前半、「食品ロス」と「食品添加物（保存料、着色料など）」がそれぞれ2割後半の順となった（図表19）。性別に見ると、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「糖質の量」の割合は、男性よりも女性の方が高く、料理頻度別に見ると、「ほとんどしない」人は「特になし」の割合が高かった（図表20・23）。

若年層調査との比較では、「食品価格」、「塩分量」、「食品ロス」、「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合は若年層調査より高く、「特になし」の割合は低かった（図表25）。

2 食中毒に関する意識・知識

- ・食中毒になった経験は、「あった」が2割前半、「なかった」が7割前半であった（図表26）。
- ・食中毒予防のために気を付けていることは、「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「調理の前や食事の前などには手を洗う」がそれぞれ6割台、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」が5割前半で上位となった。また、「特に気を付けていることはない」の割合は1割前半であった（図表30）。性別に見ると、「特に気を付けていることはない」は、女性よりも男性の方が高かった。また、年齢別に見ると、ほとんどの項目は年齢が上がるほど割合が高くなった（図表31）。お住まいの状況別に見ると、「一人暮らし」の人は「特に気を付けていることはない」を除いた8項目中5項目は全体より割合が低かった（図表32）。活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動をしていない）」の人はほとんどの項目で全体より割合が低かった（図表33）。料理頻度別に見ると、「特に気を付けていることはない」の割合は「ほぼ毎日する」人は低く、「週に1～2日する」、「ほとんどしない」人は高かった（図表34）。

若年層調査との比較では、「特に気を付けていることはない」を除く全ての項目で若年層調査より割合が高く、特に「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「調理の前や食事の前などには手を洗う」は若年層調査より大幅に高い結果となった（図表 37）。

- ・ノロウイルス食中毒について正しいと思うものは、「ノロウイルス食中毒は、夏も起きることがある」（正解）が7割前半で最も高かった。次いで「ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである」（正解）が6割後半、「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」（正解）が4割前半の順となった（図表 38）。料理頻度別に見ると、「ほぼ毎日する」人は「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」（正解）の割合が高かった（図表 40）。食中毒経験別に見ると、食中毒経験が「あった」人は「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」（正解）の割合が高かった（図表 41）。食中毒予防の認知経路別に見ると、「習っていない」人は「正しいと思う選択肢はない」の割合が高かった（図表 42）。

- ・[食中毒にかかると、時には死ぬこともある]については約9割が「そう思う」（正解）と回答した（図表 43）。

若年層調査との比較では、「そう思う」の割合は若年層調査より高かった（図表 48）。

- ・食中毒予防についての認知経路は、「学校で習った」が2割半ば、「祖父母又は親から教わった」が約2割であった。一方で、「覚えていない」と「習っていない」の合計が約6割を占めた（図表 49）。

3 健康食品に関する意識

- ・健康食品の利用については、「時々、利用している」が2割前半、「毎日、利用している」、「以前は利用していたが、現在は利用していない」がそれぞれ1割台であった。一方、「一度も利用していない」が約5割を占めた（図表 53）。
- ・健康食品の利用種類は、「1種類」が3割後半で最も高く、次いで「2種類」が2割半ばであった。また、「3種類」、「4種類」、「5種類以上」はそれぞれ1割未満であった（図表 57）。
- ・健康食品を利用しはじめたきっかけは、「テレビやラジオの番組やCM」が4割後半で最も高く、次いで「商品のチラシやパンフレット」が約3割、「家族から勧められた」が2割前半の順となった（図表 61）。性別に見ると、男性は「家族から勧められた」、「新聞・雑誌の広告」の割合が高く、年齢別に見ると、75歳～は「テレビやラジオの番組やCM」、「商品のチラシやパンフレット」、「新聞・雑誌の広告」の割合が高かった（図表 62）。
- ・健康食品の利用目的は、「健康維持・増進」が8割前半で突出した。次いで、「免疫力アップ」と「栄養補給」がそれぞれ3割半ば、「疲労回復」が2割前半の順となった（図表 65）。年齢別に見ると、「健康維持・増進」、「病気の予防・治療」の割合は年齢が上がるほどが高かった（図表 66）。基礎疾患の有無別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「免疫力アップ」、「栄養補給」の割合が高かった（図表 67）。
- ・健康食品の利用による効果については、「効果があるような気がするため、継続している」が3割前半で最も高かった。一方、「効果がなくて、やめた」が2割前半、「わからない」が1割後半であった（図表 69）。
- ・健康食品の利用に関する医療従事者への相談については、「相談した」が約1割、「相談していない」が約9割であった（図表 73）。

- 健康食品の利用について相談しなかった理由は、「健康食品は食品のため、相談する必要がないと思ったため」が4割前半で最も高く、次いで「相談するタイミングがなかったため」が3割前半、「基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった」が約2割の順となった（図表76）。基礎疾患の有無別、薬（医薬品）の服用別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「相談するタイミングがなかったため」の割合が高く、薬（医薬品）を「飲んでいる」人は「健康食品は食品のため、相談する必要がないと思ったため」の割合が高かった（図表78）。
- 健康食品について正しいと思うものは、「健康食品を利用していて具合が悪くなったら、すぐに利用を中止し病院を受診する」が6割前半で最も高く、次いで「健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよい」が約4割、「治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなることがある」が約3割の順となった（図表79）。基礎疾患の有無別、薬（医薬品）の服用別に見ると、基礎疾患が「ある」人と薬（医薬品）を「飲んでいる」人は「健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよい」の割合が高かった（図表81）。

4 食品安全に関する情報収集について

- ふだん何かを調べるときの情報入手手段は、「インターネット」が9割前半で突出した。次いで「テレビ」、「家族」がそれぞれ2割前半の順となった（図表83）。
若年層調査との比較では、「インターネット」、「新聞」の割合は若年層調査より高く、「友人・知人」の割合は低かった（図表85）。
- インターネットにおける情報源は、「ホームページ」が7割前半、「ニュースサイト」が5割前半で上位となった。一方、「生成AI」、「ソーシャルネットワーキングサービス（以下SNSという）」、「動画配信サービス」はそれぞれ1割台に留まった（図表86）。インターネットから得た情報の信頼度としては、「ホームページ」、「ニュースサイト」、「生成AI」、「その他」は《信頼できる》（「かなり信頼できている」と「ある程度信頼できている」の合計）が8割を上回った。一方で、「SNS」、「動画配信サービス」は《信頼できない》（「あまり信頼できない」と「ほとんど信頼できない」と「ほとんど信頼できない」と「ほとんど信頼できない」の合計）が4割を上回った（図表89）。
若年層調査との比較では、「ホームページ」の割合は若年層調査より高かった。一方、「動画配信サービス」割合は若年層調査より低く、特に「SNS」の割合は大幅に低い結果であった。（図表88）。
- 情報を得ているSNSは、「YouTube」が約8割で最も高く、次いで「LINE」が約5割、「Instagram」と「X（旧Twitter）」がそれぞれ3割台の順となった（図表103）。
若年層調査との比較では、「YouTube」、「LINE」の割合は若年層調査より高かった一方で、「Instagram」、「X（旧Twitter）」、「TikTok」の割合は低かった（図表105）。
- わかりやすい情報提示方法は、「文字」が3割後半で最も高く、次いで「動画」が3割前半、「グラフや図」が1割後半、「絵や漫画」が約1割の順となった（図表113）。インターネットにおける情報源別では、「SNS」、「動画配信サービス」を利用している人と「Q22 インターネット非選択者」は「動画」の割合が高く、「文字」の割合が低かった（図表115）。情報を得ているSNS別では、「YouTube」を利用している人は「動画」の割合が高く、「文字」と「グラフや図」の割合が低かった（図表116）。

若年層調査との比較では、「文字」の割合は若年層調査より高く、「グラフや図」、「絵や漫画」の割合は低かった（図表 117）。

- ・「動画」について最後まで見ようと思う長さは「1 分以下」が 2 割後半で最も高く、次いで「30 秒以下」と「3 分以下」がそれぞれ 2 割前半、「15 秒以下」が 1 割後半の順となった（図表 118）。若年層調査との比較では、「1 分以下」、「3 分以下」の割合は若年層調査より高かった。一方、「6 秒以下」、「15 秒以下」、「30 秒以下」、「3 分より長い」の割合は低かった（図表 120）。
- ・「文字」について適切な文字数は「500 字以下（Threads、Bluesky の 1 投稿分）（スマホ約 1 画面分）」が 5 割半ばで最も高く、次いで「140 字以下（X の 1 投稿分）」が 3 割前半の順となった（図表 121）。
- ・ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所は、「スーパーマーケット・商店街」、「駅やバス停などの公共交通機関」、「病院・クリニック」がそれぞれ 4 割台、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」が 3 割半ばで上位となった（図表 124）。年齢別に見ると、「病院・クリニック」、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」、「薬局」の割合は 75 歳～で高かった（図表 125）。
- ・食品安全に関する情報について、特に関心を持てる情報源は、「ホームページ」が 6 割前半で突出した。次いで「ポスター」が約 3 割、「リーフレット」がそれぞれ 2 割半ば、「YouTube などの動画」が 1 割後半の順となった（図表 127）。年齢別に見ると、「ホームページ」、「ポスター」、「リーフレット」、「講習会、セミナーなど」の割合は 75 歳～で高かった（図表 128）。

5 東京都の食品安全に関する情報発信について

- ・東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるものは、「広報東京都」や「ホームページ」が上位となったが、いずれも 2 割台に留まった。一方で、「見たことがない」は 5 割超を占めた（図表 129）。年齢別に見ると、「広報東京都」、「ホームページ」の割合は 75 歳～で高かった。また、「見たことがない」は年齢が上がるほど低かった（図表 130）。若年層調査との比較では、「広報東京都」の割合は若年層調査より高かったが、「X（旧 Twitter）、LINE などの SNS」の割合は低かった（図表 131）。
- ・食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うものは、「食中毒」が 5 割で最も高く、次いで「食品添加物（保存料、着色料など）」が 3 割半ば、「健康食品（サプリメントなど）」と「カビ・カビ毒」がそれぞれ 2 割台の順となった（図表 132）。年齢別に見ると、「食中毒」、「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合は 75 歳～で高かった（図表 133）。食中毒予防の認知経路別に見ると、「祖父母又は親から教わった」人は、「新規食品」、「その他」、「特にない」を除く全ての項目で割合が高かった（図表 134）。若年層調査との比較では、「食中毒」、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「健康食品（サプリメントなど）」の割合は若年層調査より高かった。一方、「特にない」の割合は低かった（図表 135）。

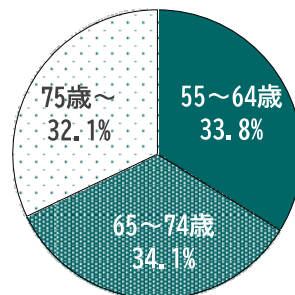
Ⅲ インターネットアンケート調査結果

1 回答者の属性

(1) 年齢

	実数	構成比
55歳～64歳	153	33.8%
65歳～74歳	154	34.1%
75歳～	145	32.1%
回答者数 (n)	452	100.0%

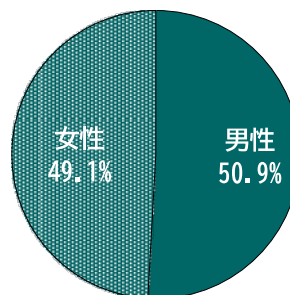
図表1：年齢（3区分）



(2) 性別

	実数	構成比
男性	230	50.9%
女性	222	49.1%
回答者数 (n)	452	100.0%

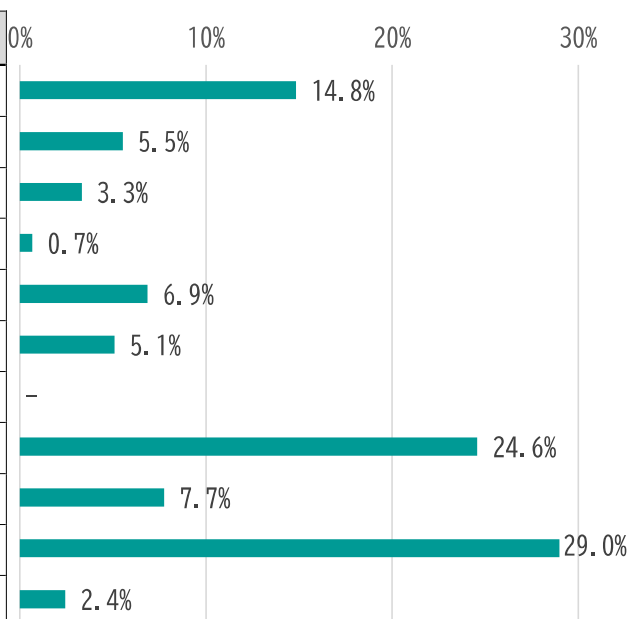
図表2：性別



(3) 職業

	実数	構成比
会社員(正社員)	67	14.8%
会社員(契約・派遣社員)	25	5.5%
経営者・役員	15	3.3%
公務員(教職員を除く)	3	0.7%
自営業	31	6.9%
自由業	23	5.1%
医師・医療関係者	0	-
専業主婦	111	24.6%
パート・アルバイト	35	7.7%
無職	131	29.0%
その他	11	2.4%
回答者数 (n)	452	100.0%

図表3：職業

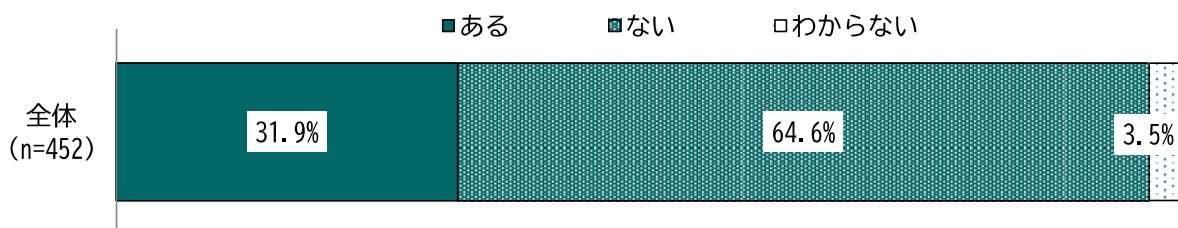


(4) 基礎疾患の有無

Q2 あなたは基礎疾患がありますか。

基礎疾患の有無については、「ある」が31.9%、「ない」が64.6%、「わからない」が3.5%であった。

図表4：基礎疾患の有無



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「ある」の割合が21.6%と全体(31.9%)を10.3ポイント下回った。一方、75歳～は「ある」の割合が40.7%と全体(31.9%)を8.8ポイント上回った。

図表5：【性別・年齢別】基礎疾患の有無

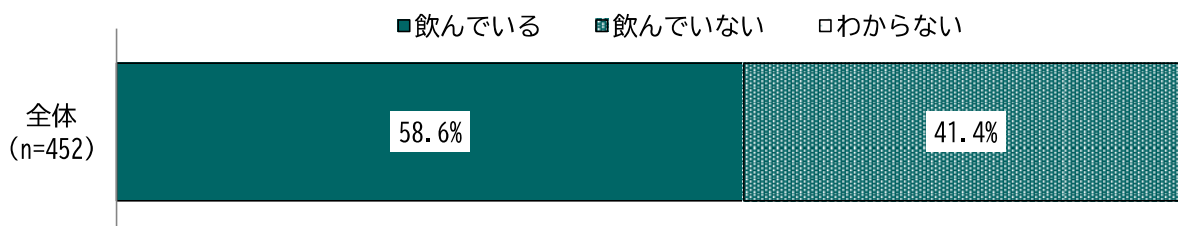
		回答者数 (n)	ある	ない	わからない
全体		452	31.9%	64.6%	3.5%
性別	男性	230	31.7%	63.5%	4.8%
	女性	222	32.0%	65.8%	2.3%
年齢	55歳～64歳	153	21.6%	75.2%	3.3%
	65歳～74歳	154	33.8%	62.3%	3.9%
	75歳～	145	40.7%	55.9%	3.4%

(5) 薬（医薬品）の服用

Q3 現在、薬（医薬品）を服用していますか。

薬（医薬品）の服用については、「飲んでいる」が58.6%、「飲んでいない」が41.4%であった。

図表6：薬（医薬品）の服用



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「飲んでいる」の割合が45.8%と全体（58.6%）を12.8ポイント下回った。一方、75歳～は「飲んでいる」の割合が70.3%と全体（58.6%）を11.7ポイント上回った。

図表7：【性別・年齢別】薬（医薬品）の服用

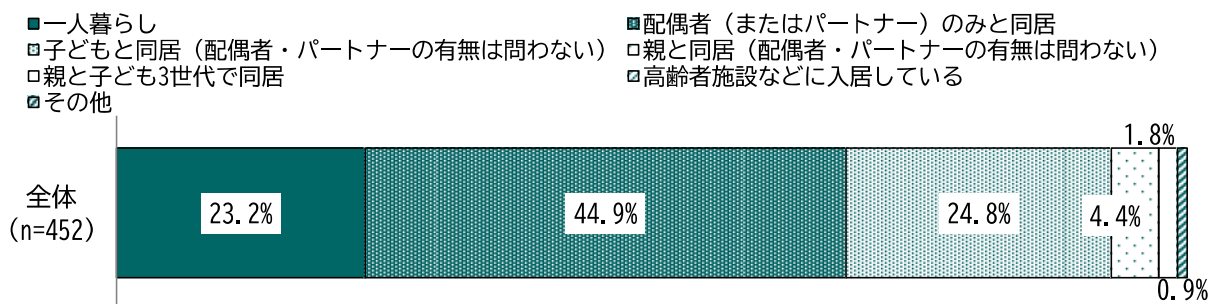
		回答者数 (n)	飲 ん で い る	飲 ん で い な い	わ か ら な い
全体		452	58.6%	41.4%	-
性別	男性	230	60.9%	39.1%	-
	女性	222	56.3%	43.7%	-
年齢	55歳～64歳	153	45.8%	54.2%	-
	65歳～74歳	154	60.4%	39.6%	-
	75歳～	145	70.3%	29.7%	-

(6) お住まいの状況

Q4 現在のお住まいの状況について、最も近いものをお選びください。

お住まいの状況については、「一人暮らし」が 23.2%、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」が 44.9%、「子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）」が 24.8%であった。上記以外の項目は各 5%未満であった。

図表 8：お住まいの状況



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「一人暮らし」の割合が 30.7%と全体（23.2%）を 7.5 ポイント上回り、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」の割合が 28.8%と全体（44.9%）を 16.1 ポイント下回った。一方、75歳～は「一人暮らし」の割合が 15.9%と全体（23.2%）を 7.3 ポイント下回り、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」の割合が 57.9%と全体（44.9%）を 13.0 ポイント上回った。

図表 9：【性別・年齢別】 お住まいの状況

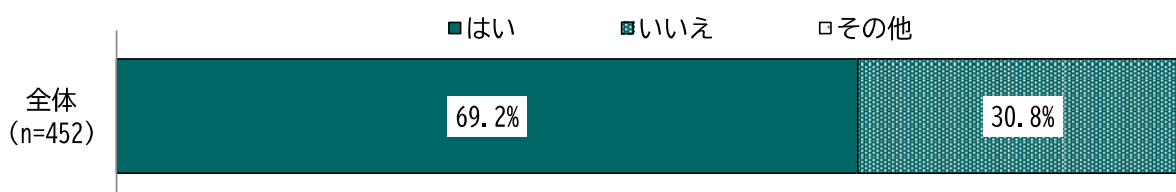
		回答者数 (n)	一人暮らし	配偶者（またはパートナー）のみと同居	子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	親と同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	親と子ども3世代で同居	高齢者施設などに入居している	その他
全体		452	23.2%	44.9%	24.8%	4.4%	1.8%	-	0.9%
性別	男性	230	20.9%	47.8%	22.6%	5.2%	2.6%	-	0.9%
	女性	222	25.7%	41.9%	27.0%	3.6%	0.9%	-	0.9%
年齢	55歳～64歳	153	30.7%	28.8%	26.8%	9.2%	3.3%	-	1.3%
	65歳～74歳	154	22.7%	48.7%	24.0%	3.9%	0.6%	-	-
	75歳～	145	15.9%	57.9%	23.4%	-	1.4%	-	1.4%

(7) 活動状況（週2回以上の活動）

Q5 あなたは、週に2回以上、仕事・趣味・運動・学習・地域活動・友人との交流、または健康を意識した行動（例：散歩、体操、食事管理など）をしていますか。

活動状況については、「はい（週に2回以上活動している）」が69.2%、「いいえ（週に2回以上活動していない）」が30.8%であった。

図表 10：活動状況（週2回以上の活動）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「はい（週2回以上活動している）」の割合が59.5%と全体（69.2%）を9.7ポイント下回った。一方、75歳～は「はい（週2回以上活動している）」の割合が77.2%と全体（69.2%）を8.0ポイント上回った。

図表 11：【性別・年齢別】 活動状況（週2回以上の活動）

		回答者数 (n)	はい	いいえ	その他
全体		452	69.2%	30.8%	-
性別	男性	230	69.1%	30.9%	-
	女性	222	69.4%	30.6%	-
年齢	55歳～64歳	153	59.5%	40.5%	-
	65歳～74歳	154	71.4%	28.6%	-
	75歳～	145	77.2%	22.8%	-

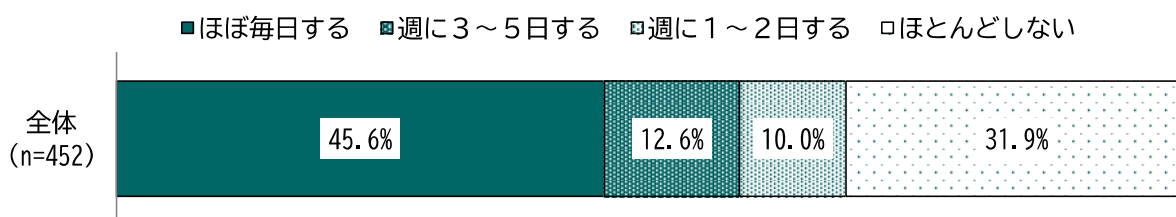
2 食品安全に関する意識

(1) 料理をする頻度

Q6 あなたはふだん自分で料理をしますか。

ふだん自分で料理をする頻度については、「ほぼ毎日する」、「週に3～5日する」、「週に1～2日する」を合計した《週1日以上》の割合が68.1%であった。一方、「ほとんどしない」が31.9%であった。

図表 12：料理をする頻度



性別に見ると、「ほぼ毎日する」の割合は、男性よりも女性の方が60.0ポイント高かった。一方、「週に1～2日する」の割合は、女性よりも男性の方が12.5ポイント高く、「ほとんどしない」の割合は女性よりも男性の方が49.3ポイント高かった。

年齢別では大きな差は見られなかった。

図表 13：【性別・年齢別】料理をする頻度

		回答者数 (n)	ほぼ毎日する	週に3～5日する	週に1～2日する	ほとんどしない	《週1日以上》
全体		452	45.6%	12.6%	10.0%	31.9%	68.1%
性別	男性	230	16.1%	11.7%	16.1%	56.1%	43.9%
	女性	222	76.1%	13.5%	3.6%	6.8%	93.2%
年齢	55歳～64歳	153	43.8%	14.4%	12.4%	29.4%	70.6%
	65歳～74歳	154	50.0%	9.7%	9.7%	30.5%	69.5%
	75歳～	145	42.8%	13.8%	7.6%	35.9%	64.1%

Q4のお住まいの状況別に見ると、「一人暮らし」の人は《週1日以上》の割合が81.9%と全体(68.1%)を13.8ポイント上回り、特に「週に3~5日する」の割合が22.9%と全体(12.6%)を10.3ポイント上回った。一方、「配偶者(またはパートナー)のみと同居」の人は《週1日以上》の割合が61.6%と全体(68.1%)を6.5ポイント下回り、特に「週に3~5日する」の割合が7.4%と全体(12.6%)を5.2ポイント下回った。

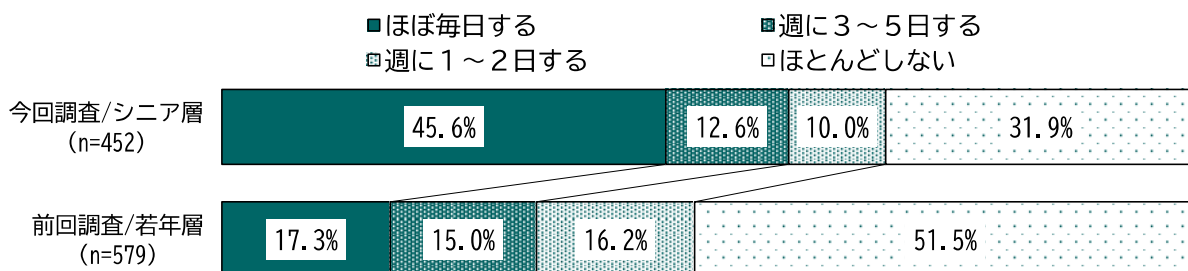
図表14：【お住まいの状況別】料理をする頻度

		回答者数 (n)	ほぼ毎日する	週に3~5日する	週に1~2日する	ほとんどしない	《週1日以上》
全体		452	45.6%	12.6%	10.0%	31.9%	68.1%
お住まいの状況	一人暮らし	105	50.5%	22.9%	8.6%	18.1%	81.9%
	配偶者(またはパートナー)のみと同居	203	45.8%	7.4%	8.4%	38.4%	61.6%
	子どもと同居(配偶者・パートナーの有無は問わない)	112	43.8%	13.4%	11.6%	31.3%	68.8%
	親と同居(配偶者・パートナーの有無は問わない)	20	40.0%	10.0%	10.0%	40.0%	60.0%
	親と子ども3世代で同居	8	25.0%	-	37.5%	37.5%	62.5%
	高齢者施設などに入居している	0	-	-	-	-	-
	その他	4	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	75.0%

【前回調査(令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」)との比較】

前回(若年層)調査との比較では、《週1日以上》の割合は前回調査で48.5%であったのに対し、今回調査では68.1%(+19.6ポイント)であった。特に、「ほぼ毎日する」の割合は前回調査で17.3%であったのに対し、今回調査では45.6%(+28.3ポイント)であった。

図表15：【前回(若年層)調査比較】料理をする頻度

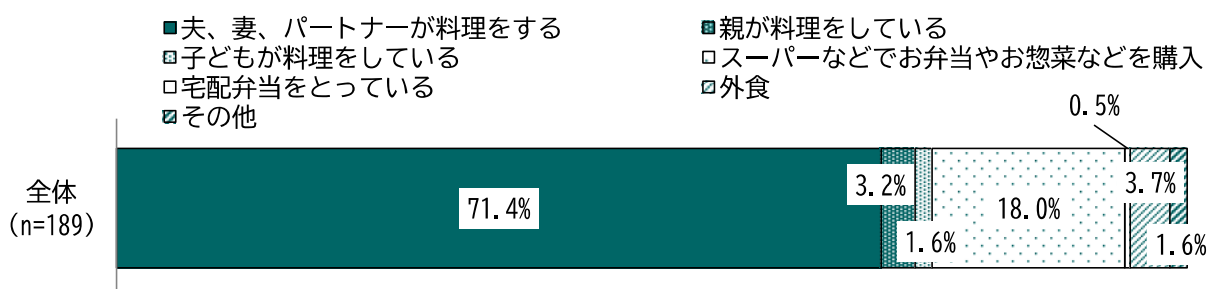


(2) 自炊しない場合の食事方法

Q7 Q6で「週に1～2日する」「ほとんどしない」と回答した方にうかがいます。
自炊しない場合、食事はどのようにされていますか。最も当てはまるものをお選びください。

自炊しない場合の食事方法については、「夫、妻、パートナーが料理をする」の割合が71.4%、「スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入」が18.0%であった。上記以外の項目は各5%未満であった。

図表 16：自炊しない場合の食事方法



性別に見ると、「夫、妻、パートナーが料理をする」の割合は、女性よりも男性の方が61.5ポイント高かった。

年齢別に見ると、「夫、妻、パートナーが料理をする」の割合は、55歳～64歳よりも65～74歳、75歳～の方が30ポイント以上高かった。一方、「スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入」の割合は、65～74歳、75歳～よりも55歳～64歳の方が20ポイント以上高かった。

図表 17：【性別・年齢別】 自炊しない場合の食事方法

		回答者数 (n)	夫、妻、パートナーが料理をする	親が料理をしている	子どもが料理をしている	スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入	宅配弁当をとっている	外食	その他
全体		189	71.4%	3.2%	1.6%	18.0%	0.5%	3.7%	1.6%
性別	男性	166	78.9%	3.0%	-	14.5%	-	3.0%	0.6%
	女性	23	17.4%	4.3%	13.0%	43.5%	4.3%	8.7%	8.7%
年齢	55歳～64歳	64	48.4%	9.4%	-	34.4%	1.6%	3.1%	3.1%
	65歳～74歳	62	80.6%	-	1.6%	9.7%	-	6.5%	1.6%
	75歳～	63	85.7%	-	3.2%	9.5%	-	1.6%	-

Q4 のお住まいの状況別に見ると、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」、「子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）」の人は「夫、妻、パートナーが料理をする」で全体（71.4%）を5ポイント以上上回り、「スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入」で全体（18.0%）を5ポイント以上下回った。

図表 18：【お住まいの状況別】 自炊しない場合の食事方法

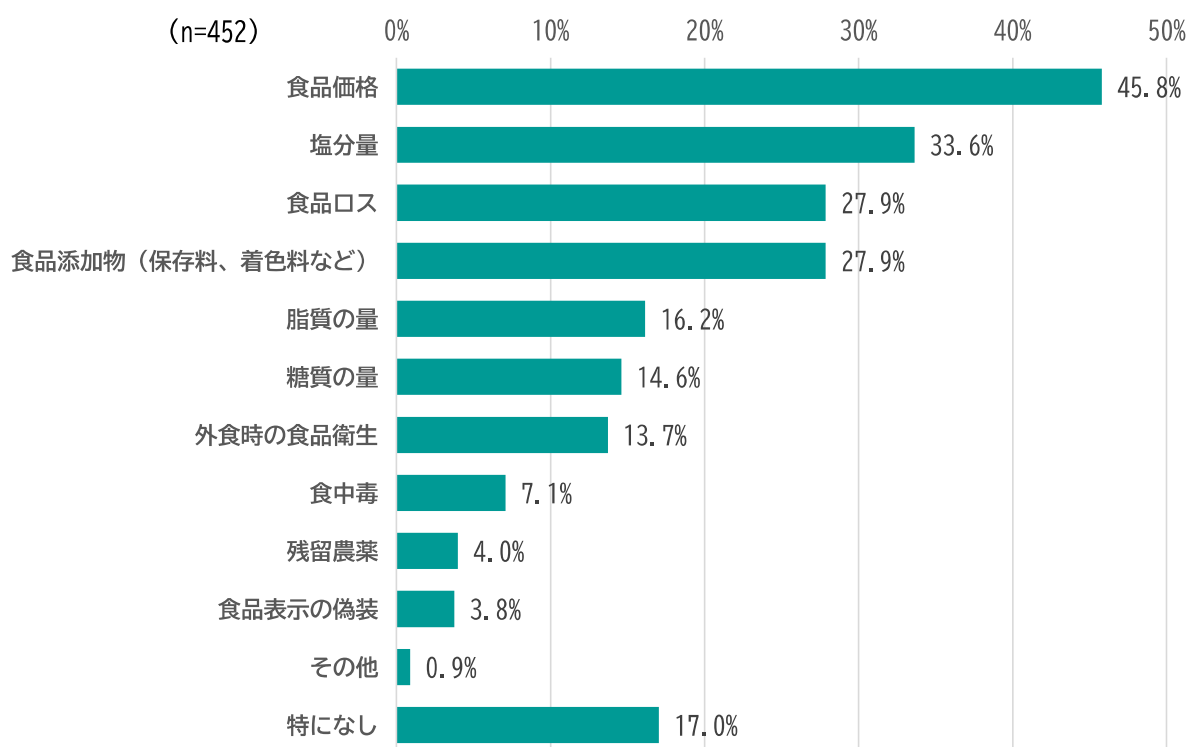
		回答者数 (n)	夫、妻、 パートナーが 料理をする	親が料理を している	子どもが料理 をしている	スーパーなど でお惣菜など を購入	宅配弁当を とっている	外食	その他
全体		189	71.4%	3.2%	1.6%	18.0%	0.5%	3.7%	1.6%
お 住 ま い の 状 況	一人暮らし	28	-	-	-	75.0%	3.6%	14.3%	7.1%
	配偶者（またはパートナー）のみ と同居	95	93.7%	-	-	6.3%	-	-	-
	子どもと同居（配偶者・パート ナーの有無は問わない）	48	81.3%	-	6.3%	12.5%	-	-	-
	親と同居（配偶者・パートナーの 有無は問わない）	10	-	60.0%	-	10.0%	-	20.0%	10.0%
	親と子ども3世代で同居	6	100.0%	-	-	-	-	-	-
	高齢者施設などに入居している	0	-	-	-	-	-	-	-
	その他	2	50.0%	-	-	-	-	50.0%	-

(3) 食品購入時や外食の際に気にしていること

Q8 次のうち、あなたがふだん食品を購入したり、外食の際に特に気にしていることは何ですか。
(最大3つまで)

食品購入時や外食の際に気にしていることについては、「食品価格」が45.8%と最も高く、次いで「塩分量」が33.6%、「食品ロス」、「食品添加物（保存料、着色料など）」が各27.9%、「脂質の量」が16.2%と続いた。なお、「特になし」は17.0%であった。

図表 19：食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）



性別に見ると、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「糖質の量」の割合は、男性よりも女性の方が10ポイント以上高かった。

年齢別に見ると、「塩分量」の割合は年齢が上がるほど高く、75歳～は44.8%と全体（33.6%）を11.2ポイント上回った。また、75歳～は「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合が33.1%と全体（27.9%）を5.2ポイント上回り、「特になし」の割合が11.7%と全体（17.0%）を5.3ポイント下回った。

図表 20：【性別・年齢別】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）

	回答者数（n）	食品価格	塩分量	食品ロス	食品添加物（保存料、着色料など）	脂質の量	糖質の量	外食時の食品衛生	食中毒	残留農薬	食品表示の偽装	その他	特になし	
全体	452	45.8%	33.6%	27.9%	27.9%	16.2%	14.6%	13.7%	7.1%	4.0%	3.8%	0.9%	17.0%	
性別	男性	230	47.8%	30.4%	27.4%	20.9%	13.0%	8.7%	12.6%	7.8%	1.7%	3.0%	0.4%	20.9%
	女性	222	43.7%	36.9%	28.4%	35.1%	19.4%	20.7%	14.9%	6.3%	6.3%	4.5%	1.4%	13.1%
年齢	55歳～64歳	153	49.7%	22.2%	28.8%	26.8%	11.8%	9.8%	11.8%	3.9%	4.6%	5.9%	0.7%	20.9%
	65歳～74歳	154	46.1%	34.4%	26.0%	24.0%	20.8%	16.9%	13.0%	7.8%	3.2%	1.3%	0.6%	18.2%
	75歳～	145	41.4%	44.8%	29.0%	33.1%	15.9%	17.2%	16.6%	9.7%	4.1%	4.1%	1.4%	11.7%

Q4のお住まいの状況別に見ると、「一人暮らし」の人は「塩分量」、「食品ロス」の割合がそれぞれ23.8%、21.9%と全体（33.6%、27.9%）を5ポイント以上下回った。また、「子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）」の人は「食品添加物（保存料、着色料など）」、「特になし」の割合がそれぞれ21.4%、11.6%と全体（27.9%、17.0%）を5ポイント以上下回った。

図表 21：【お住まいの状況別】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）

	回答者数（n）	食品価格	塩分量	食品ロス	食品添加物（保存料、着色料など）	脂質の量	糖質の量	外食時の食品衛生	食中毒	残留農薬	食品表示の偽装	その他	特になし	
全体	452	45.8%	33.6%	27.9%	27.9%	16.2%	14.6%	13.7%	7.1%	4.0%	3.8%	0.9%	17.0%	
お住まいの状況	一人暮らし	105	50.5%	23.8%	21.9%	28.6%	16.2%	14.3%	17.1%	5.7%	1.0%	2.9%	-	21.0%
	配偶者（またはパートナー）のみと同居	203	42.9%	38.4%	29.1%	31.0%	16.3%	13.3%	9.4%	7.9%	3.0%	4.4%	1.5%	17.7%
	子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	112	47.3%	35.7%	29.5%	21.4%	17.0%	15.2%	17.9%	4.5%	8.9%	1.8%	0.9%	11.6%
	親と同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	20	45.0%	20.0%	35.0%	30.0%	15.0%	15.0%	10.0%	20.0%	5.0%	10.0%	-	20.0%
	親と子ども3世代で同居	8	50.0%	50.0%	25.0%	37.5%	-	25.0%	12.5%	-	-	-	-	25.0%
	高齢者施設などに入居している	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	4	25.0%	25.0%	50.0%	-	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	-	25.0%	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合が20.1%と全体（27.9%）を7.8ポイント下回り、「特になし」の割合が23.0%と全体（17.0%）を6.0ポイント上回った。

図表 22：【活動状況別】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）

	回答者数（n）	食品価格	塩分量	食品ロス	食品添加物（保存料、着色料など）	脂質の量	糖質の量	外食時の食品衛生	食中毒	残留農薬	食品表示の偽装	その他	特になし
全体	452	45.8%	33.6%	27.9%	27.9%	16.2%	14.6%	13.7%	7.1%	4.0%	3.8%	0.9%	17.0%
の活動 以上 週2回	はい	313	45.4%	35.8%	29.7%	31.3%	17.3%	14.4%	6.4%	4.8%	4.8%	0.6%	14.4%
	いいえ	139	46.8%	28.8%	23.7%	20.1%	13.7%	12.2%	8.6%	2.2%	1.4%	1.4%	23.0%

Q6の料理をする頻度別に見ると、「食品価格」、「塩分量」、「食品ロス」、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「脂質の量」、「糖質の量」の6項目は、「ほとんどしない」と比べて《週1日以上》する人の方が5ポイント以上高くなった。また、「ほとんどしない」人は「特になし」が29.9%と全体（17.0%）を12.9ポイント上回った。

図表 23：【料理頻度別】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）

	回答者数（n）	食品価格	塩分量	食品ロス	食品添加物（保存料、着色料など）	脂質の量	糖質の量	外食時の食品衛生	食中毒	残留農薬	食品表示の偽装	その他	特になし
全体	452	45.8%	33.6%	27.9%	27.9%	16.2%	14.6%	13.7%	7.1%	4.0%	3.8%	0.9%	17.0%
料理頻度	ほぼ毎日する	206	46.6%	38.3%	29.1%	36.9%	18.4%	20.4%	14.6%	6.8%	5.3%	3.9%	10.7%
	週に3～5日する	57	45.6%	29.8%	31.6%	21.1%	17.5%	15.8%	15.8%	12.3%	7.0%	1.8%	15.8%
	週に1～2日する	45	57.8%	37.8%	33.3%	26.7%	20.0%	6.7%	15.6%	-	4.4%	8.9%	6.7%
	ほとんどしない	144	41.0%	27.1%	22.9%	18.1%	11.1%	8.3%	11.1%	7.6%	0.7%	2.8%	29.9%
	《週1日以上》	308	48.1%	36.7%	30.2%	32.5%	18.5%	17.5%	14.9%	6.8%	5.5%	4.2%	1.0%

Q13 の食中毒予防についての認知経路別に見ると、「学校で習った」、「祖父母又は親から教わった」人は「外食時の食品衛生」、「食中毒」の割合が全体（13.7%、7.1%）を5ポイント以上上回り、「特になし」の割合が全体（17.0%）を5ポイント以上下回った。また、「習っていない」人は「特になし」の割合が全体（17.0%）を7.8ポイント上回った。

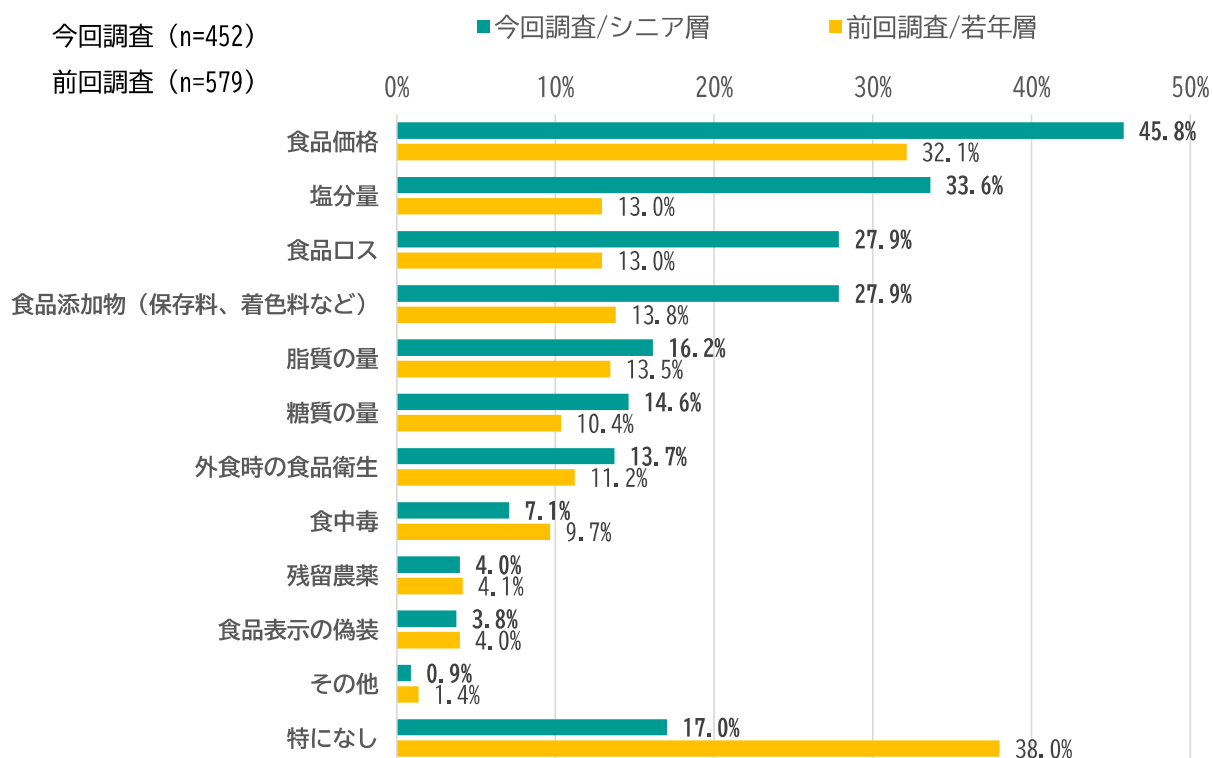
図表 24：【食中毒予防の認知経路別】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）

	回答者数 (n)	食品 価格	塩 分量	食品 ロス	着色料 添加物 (保存料、 香料など)	脂 質の 量	糖 質の 量	外 食時 の食 品衛 生	食 中 毒	残 留農 薬	食 品表 示の 偽装	そ の 他	特 に な し	
全体	452	45.8%	33.6%	27.9%	27.9%	16.2%	14.6%	13.7%	7.1%	4.0%	3.8%	0.9%	17.0%	
食 中 毒 予 防 に つ い て の 認 知 経 路	学校で習った	114	39.5%	37.7%	29.8%	35.1%	27.2%	17.5%	23.7%	12.3%	6.1%	5.3%	0.9%	11.4%
	祖父母又は親から教わった	88	43.2%	39.8%	40.9%	42.0%	27.3%	14.8%	23.9%	12.5%	8.0%	4.5%	3.4%	5.7%
	兄弟・子どもから教わった	8	37.5%	37.5%	25.0%	25.0%	37.5%	62.5%	37.5%	12.5%	25.0%	-	-	-
	友人から教わった	18	27.8%	44.4%	33.3%	50.0%	33.3%	33.3%	27.8%	16.7%	5.6%	-	-	-
	その他	40	60.0%	37.5%	20.0%	27.5%	27.5%	30.0%	17.5%	7.5%	5.0%	15.0%	-	5.0%
	覚えていない	137	50.4%	27.7%	30.7%	26.3%	7.3%	10.9%	8.8%	5.1%	2.9%	2.2%	-	20.4%
	習っていない	129	44.2%	32.6%	19.4%	20.9%	11.6%	11.6%	7.8%	3.9%	3.1%	2.3%	0.8%	24.8%

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「食品価格」、「塩分量」、「食品ロス」、「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合は前回調査より10ポイント以上高かった。一方、「特になし」の割合は前回調査（38.0%）より21.0ポイント低かった。

図表 25：【前回（若年層）調査比較】 食品購入時や外食の際に気にしていること（3つまで）



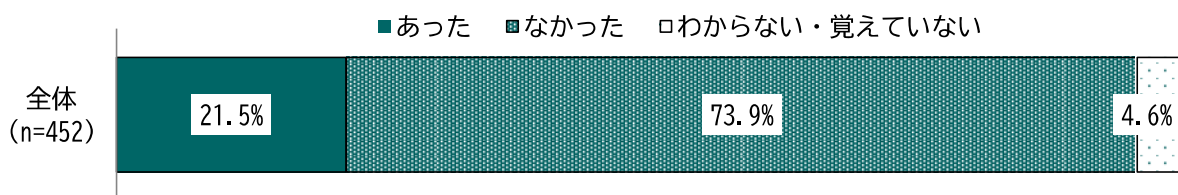
3 食中毒に関する意識・知識

(1) 食中毒になった経験

Q9 あなたは、今までに食中毒（食品が原因の体調不良のこと。疑いを含む）になったことがありますか。

食中毒になった経験については、「あった」が21.5%、「なかった」が73.9%、「わからない・覚えていない」が4.6%であった。

図表 26：食中毒になった経験



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「あった」の割合が30.1%と全体（21.5%）を8.6ポイント上回った。一方、65歳～74歳は「あった」の割合が16.2%と全体（21.5%）を5.3ポイント下回った。

図表 27：【性別・年齢別】 食中毒になった経験

		回答者数 (n)	あ っ た	な か っ た	覚 わ え か て ら い な い ・
全体		452	21.5%	73.9%	4.6%
性別	男性	230	18.7%	74.3%	7.0%
	女性	222	24.3%	73.4%	2.3%
年齢	55歳～64歳	153	30.1%	67.3%	2.6%
	65歳～74歳	154	16.2%	76.0%	7.8%
	75歳～	145	17.9%	78.6%	3.4%

Q6の料理をする頻度別に見ると、「あった」の割合は「ほとんどしない」人と比べて《週1日以上》する人の方が9.1ポイント高くなった。

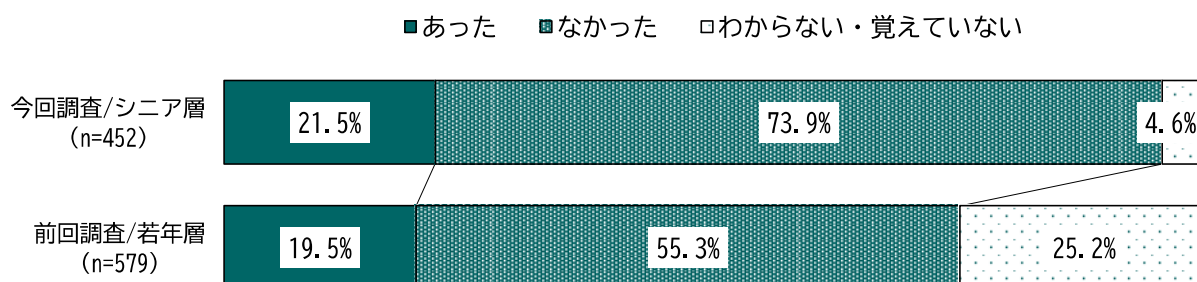
図表 28：【料理頻度別】 食中毒になった経験

		回答者数 (n)	あつた	なかつた	覚えていない・ わからない
全体		452	21.5%	73.9%	4.6%
料理頻度	ほぼ毎日する	206	25.2%	70.9%	3.9%
	週に3～5日する	57	26.3%	71.9%	1.8%
	週に1～2日する	45	17.8%	80.0%	2.2%
	ほとんどしない	144	15.3%	77.1%	7.6%
	《週1日以上》	308	24.4%	72.4%	3.2%

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「なかつた」の割合は前回調査で55.3%であったのに対し、今回調査では73.9%（+18.6ポイント）であった。また、「わからない・覚えていない」の割合は前回調査で25.2%であったのに対し、今回調査では4.6%（-20.6ポイント）であった。

図表 29：【前回（若年層）調査比較】 食中毒になった経験

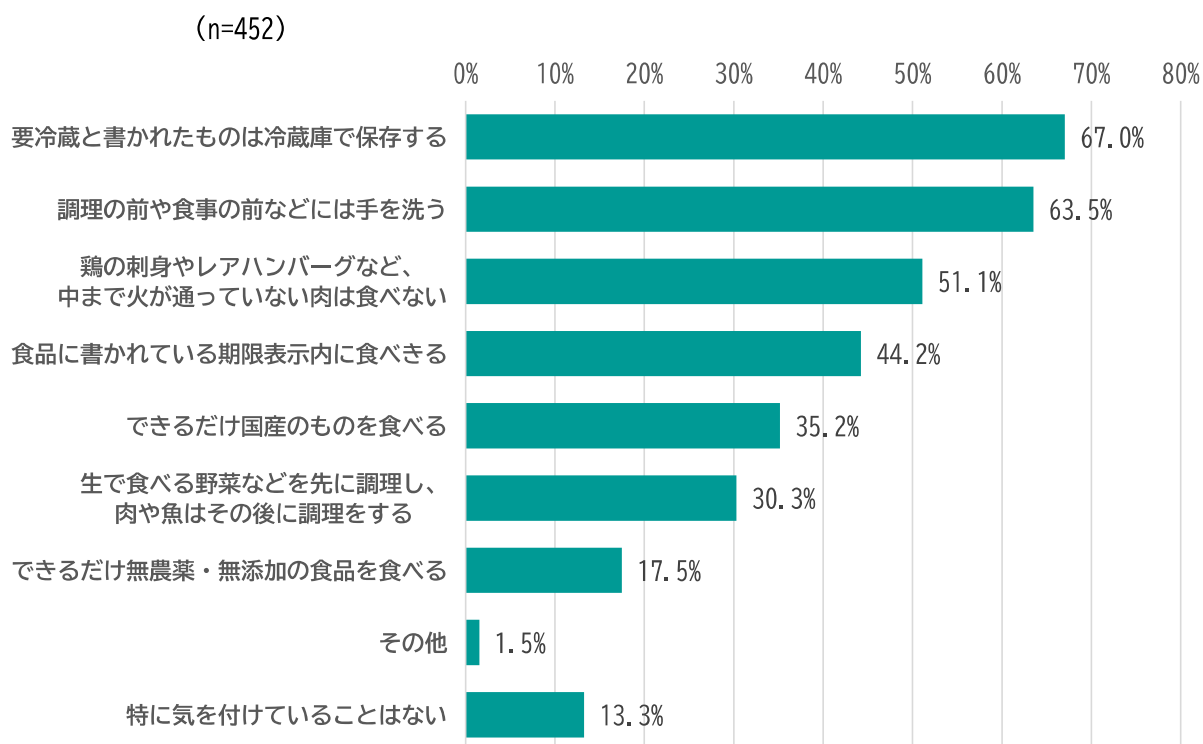


(2) 食中毒予防のために気を付けていること

Q10 あなたが食中毒予防のために特に気を付けていることは何ですか。(複数回答)

食中毒予防のために気を付けていることについては、「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」が67.0%と最も高く、次いで「調理の前や食事の前などには手を洗う」が63.5%、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」が51.1%と続いた。なお、「特に気を付けていることはない」は13.3%であった。

図表 30：食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）



性別に見ると、「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「調理の前や食事の前などには手を洗う」、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「できるだけ国産のものを食べる」、「生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする」の5項目の割合は、男性よりも女性の方が10ポイント以上高かった。一方、「特に気を付けていることはない」の割合は、女性よりも男性の方が11.9ポイント高かった。

年齢別に見ると、「生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする」、「その他」、「特に気を付けていることはない」を除く全ての項目の割合は年齢が上がるほど高く、75歳～は全体を5ポイント以上上回った。

図表 31：【性別・年齢別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

		回答者数（n）	要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する	調理の前や食事の前などに手を洗う	鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない	食品内に書かれている期限	できるだけ国産のものを食べる	生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする	できるだけ食品を食べる無農薬・無添加	その他	特に気を付けていることはない
全体		452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%
性別	男性	230	56.1%	53.0%	45.7%	44.3%	28.3%	17.0%	15.2%	1.7%	19.1%
	女性	222	78.4%	74.3%	56.8%	44.1%	42.3%	44.1%	19.8%	1.4%	7.2%
年齢	55歳～64歳	153	61.4%	59.5%	43.8%	33.3%	20.3%	27.5%	9.2%	3.3%	15.0%
	65歳～74歳	154	66.9%	61.7%	52.6%	45.5%	34.4%	31.8%	18.8%	1.3%	15.6%
	75歳～	145	73.1%	69.7%	57.2%	54.5%	51.7%	31.7%	24.8%	-	9.0%

Q4のお住まいの状況別に見ると、「一人暮らし」の人は「調理の前や食事の前などには手を洗う」、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「食品に書かれている期限表示内に食べきる」、「できるだけ国産のものを食べる」、「できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる」の5項目が全体を5ポイント以上上回った。また、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」の人は「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「食品に書かれている期限表示内に食べきる」、「できるだけ国産のものを食べる」の3項目がそれぞれ全体（51.1%、44.2%、35.2%）を5ポイント以上上回った。

図表 32：【お住まいの状況別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

	回答者数（n）	冷蔵・冷凍で保存されたものは	調理の手を洗う食事の前など	鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない	食品に書かれている期限	できるだけ国産のものを食べる	後に調理する肉や魚はその先	生で食べる野菜などはその先	加えるだけ無農薬・無添加の食品を食べる	その他	は特に気を付けていること
全体	452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%	
お住まいの状況	一人暮らし	105	64.8%	57.1%	44.8%	35.2%	28.6%	29.5%	12.4%	1.9%	17.1%
	配偶者（またはパートナー）のみと同居	203	70.9%	67.0%	56.2%	50.7%	40.9%	34.0%	20.2%	2.0%	10.3%
	子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	112	65.2%	63.4%	48.2%	42.9%	33.0%	26.8%	17.9%	0.9%	15.2%
	親と同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	20	65.0%	60.0%	50.0%	40.0%	30.0%	30.0%	25.0%	-	15.0%
	親と子ども3世代で同居	8	37.5%	50.0%	75.0%	37.5%	25.0%	12.5%	-	-	12.5%
	高齢者施設などに入居している	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	4	50.0%	100.0%	-	25.0%	25.0%	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「その他」、「特に気を付けていることはない」を除く全ての項目が全体を5ポイント以上下回り、「特に気を付けていることはない」の割合が全体（13.3%）を8.3ポイント上回った。また、「はい（週2回以上活動している）」の人は「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」が56.2%と全体（51.1%）を5.1ポイント上回った。

図表 33：【活動状況別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

		回答者数（n）	冷蔵庫と書き入れたものは	調理の手を洗う食事の前など	鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない	食品に書かれてある期限	食べられるだけ国産のものを	後に調理する肉や魚はその先	生で食べる野菜などはその先	加える食品を無農薬・無添加	その他	特に気を付けていること
全体		452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%	
の活動週2回以上	はい	313	71.9%	68.4%	56.2%	48.9%	39.9%	32.6%	20.1%	1.3%	9.6%	
	いいえ	139	56.1%	52.5%	39.6%	33.8%	24.5%	25.2%	11.5%	2.2%	21.6%	

Q6の料理をする頻度別に見ると、「ほぼ毎日する」人は「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「調理の前や食事の前などには手を洗う」、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「できるだけ国産のものを食べる」、「生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする」の5項目が全体を5ポイント以上上回り、「特に気を付けていることはない」の割合が全体（13.3%）を5ポイント以上下回った。また、「週に1～2回する」、「ほとんどしない」人は「特に気を付けていることはない」の割合が全体（13.3%）を5ポイント以上上回った。

図表 34：【料理頻度別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

		回答者数 (n)	要冷蔵と書かれたものは	調理の手を洗う食事の前など	鶏の刺身やレアハンバーグ	食品内に書かれている期限	できるだけ国産のものを	生で調理する野菜などはその先	できるだけの食糧・無農薬・無添加	その他	特に気を付けていること
全体		452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%
料理頻度	ほぼ毎日する	206	79.1%	76.2%	58.7%	42.7%	42.7%	46.1%	20.9%	1.9%	6.3%
	週に3～5日する	57	75.4%	64.9%	49.1%	49.1%	31.6%	33.3%	17.5%	5.3%	12.3%
	週に1～2日する	45	55.6%	53.3%	42.2%	42.2%	28.9%	20.0%	13.3%	-	22.2%
	ほとんどしない	144	50.0%	47.9%	43.8%	45.1%	27.8%	9.7%	13.9%	-	20.8%
	《週1日以上》	308	75.0%	70.8%	54.5%	43.8%	38.6%	39.9%	19.2%	2.3%	9.7%

Q9 の食中毒経験別に見ると、「あった」人は「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする」の割合が全体を5ポイント以上上回り、「できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる」、「特に気を付けていることはない」の割合が全体を5ポイント以上下回った。

図表 35：【食中毒経験別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

		回答者数（n）	要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する	調理の手を洗う食事の前など	鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない	食品に書かれている期限	できるだけ国産のものを食べる	後に調理する肉や魚は生で調理し、野菜などを先に調理する	できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる	その他	特に気を付けていることはない
全体		452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%
食中毒経験	あった	97	72.2%	66.0%	64.9%	45.4%	34.0%	40.2%	11.3%	4.1%	5.2%
	なかった	334	66.5%	63.5%	47.0%	43.7%	36.5%	27.8%	19.8%	0.9%	16.2%
	わからない・覚えていない	21	52.4%	52.4%	52.4%	47.6%	19.0%	23.8%	9.5%	-	4.8%

Q13 の食中毒予防についての認知経路別に見ると、「学校で習った」、「祖父母又は親から教わった」人は「その他」、「特に気を付けていることはない」を除く全ての項目が全体を 10 ポイント以上上回り、「特に気を付けていることはない」の割合が全体（13.3%）を 5 ポイント以上下回った。また、「習っていない」人は「特に気を付けていることはない」の割合が全体（13.3%）を 10.0 ポイント上回った。

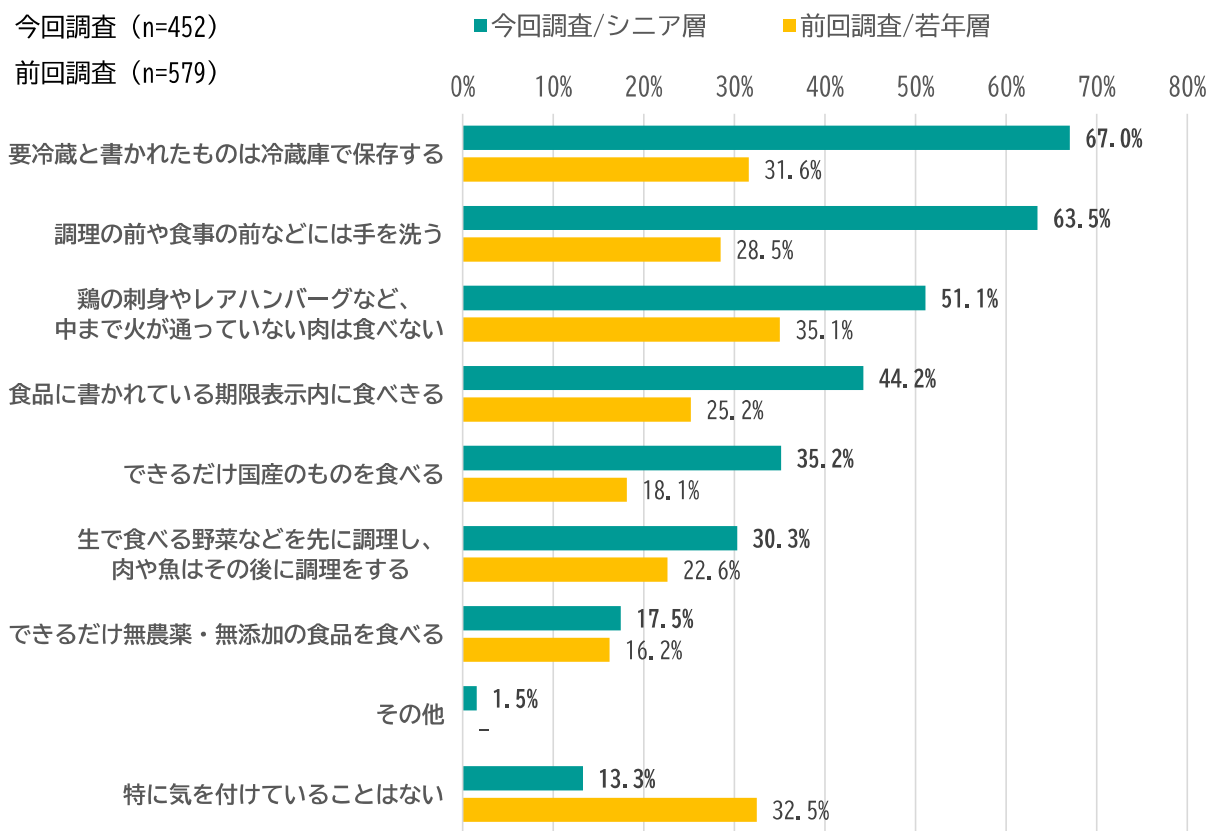
図表 36：【食中毒予防の認知経路別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

		回答者数（n）	冷蔵・冷凍で保存されたものは	調理の前や食事前などに手を洗う	鶏肉、刺身、生肉、生卵、生魚、生野菜、生果物、生野菜、生果物、生野菜、生果物	食品に書かれている賞味期限	食べられるだけ国産のものを	後に調理する肉や魚は先	生で食べる野菜などは先	加工食品は農薬・無添加	その他	特に気を付けていること
全体		452	67.0%	63.5%	51.1%	44.2%	35.2%	30.3%	17.5%	1.5%	13.3%	
食中毒予防の認知経路について	学校で習った	114	78.9%	73.7%	64.9%	54.4%	45.6%	41.2%	28.9%	2.6%	4.4%	
	祖父母又は親から教わった	88	81.8%	83.0%	75.0%	64.8%	54.5%	44.3%	29.5%	2.3%	2.3%	
	兄弟・子どもから教わった	8	75.0%	87.5%	100.0%	87.5%	75.0%	37.5%	62.5%	-	-	
	友人から教わった	18	77.8%	83.3%	88.9%	83.3%	77.8%	38.9%	44.4%	-	-	
	その他	40	85.0%	82.5%	70.0%	52.5%	47.5%	42.5%	32.5%	5.0%	-	
	覚えていない	137	66.4%	57.7%	43.1%	39.4%	26.3%	24.8%	15.3%	-	17.5%	
	習っていない	129	52.7%	51.9%	34.9%	34.9%	28.7%	23.3%	7.8%	1.6%	23.3%	

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」、「調理の前や食事の前などには手を洗う」、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「食品に書かれている期限表示内に食べきる」、「できるだけ国産のものを食べる」の割合は前回調査より10ポイント以上高かった。一方、「特に気を付けていることはない」の割合は前回調査（32.5%）より19.2ポイント低かった。

図表 37：【前回（若年層）調査比較】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

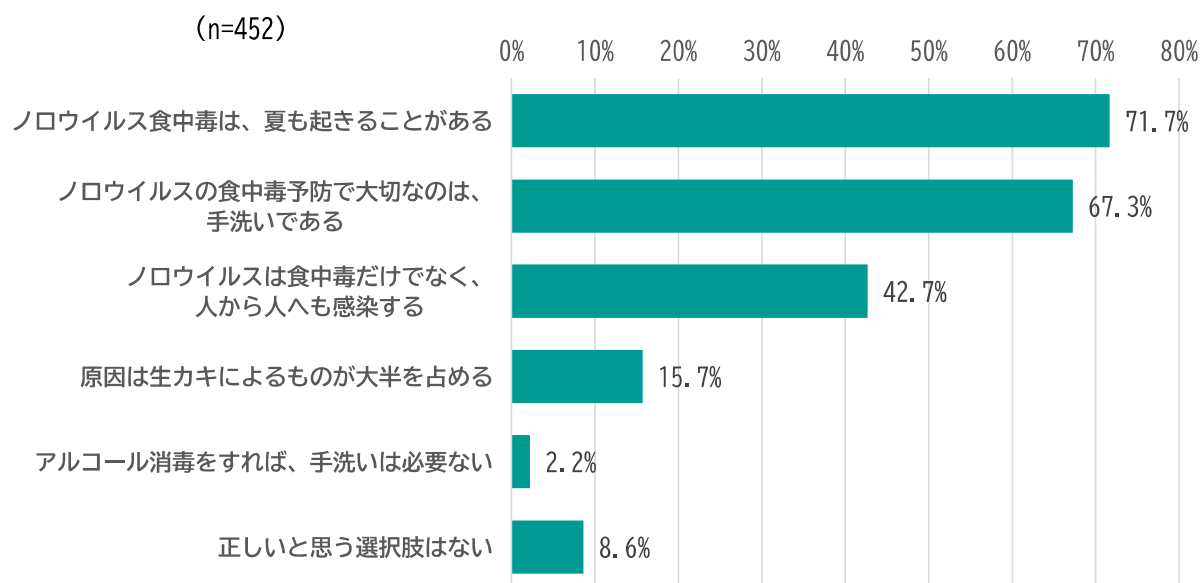


(3) ノロウイルス食中毒についての知識

Q11 ノロウイルス食中毒について正しいと思うものを全てお選びください。(複数回答)

ノロウイルス食中毒について正しいと思うものは、「ノロウイルス食中毒は、夏も起きることがある」が 71.7%と最も高く、次いで「ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである」が 67.3%、「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」が 42.7%と続いた。なお、「正しいと思う選択肢はない」は 8.6%であった。

図表 38：ノロウイルス食中毒についての知識（複数回答）



性別に見ると、「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」の割合は、男性よりも女性の方が19.7ポイント高かった。

年齢別に見ると、「ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである」の割合は年齢が上がるほど高く、75歳～は全体（67.3%）を7.9ポイント上回った。

図表 39：【性別・年齢別】 ノロウイルス食中毒についての知識（複数回答）

		回答者数（n）	ノロウイルス食中毒は、夏も起きることがある	ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである	ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する	原因は生カキによるものが大半を占める	アルコール消毒をすれば、手洗いは必要ない	正しいと思う選択肢はない
全体		452	71.7%	67.3%	42.7%	15.7%	2.2%	8.6%
性別	男性	230	73.0%	67.0%	33.0%	12.2%	2.2%	10.0%
	女性	222	70.3%	67.6%	52.7%	19.4%	2.3%	7.2%
年齢	55歳～64歳	153	75.2%	60.1%	43.8%	13.1%	1.3%	8.5%
	65歳～74歳	154	72.1%	66.9%	44.2%	16.2%	1.9%	11.0%
	75歳～	145	67.6%	75.2%	40.0%	17.9%	3.4%	6.2%

Q6の料理をする頻度別に見ると、「ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである」、「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」は、「ほとんどしない」人と比べて《週1日以上》する人の方が10ポイント以上高くなった。

図表 40：【料理頻度別】 ノロウイルス食中毒についての知識（複数回答）

		回答者数（n）	起ノロウイルス食中毒は、夏も	大ノロウイルスの食中毒予防で	なく、ノロウイルスは食中毒感染だけでなく、人から人へも感染する	原因は生カキによるものが大半を占める	洗アルはアルコール消毒をすれば、手	正しいと思う選択肢はない
全体		452	71.7%	67.3%	42.7%	15.7%	2.2%	8.6%
料理頻度	ほぼ毎日する	206	74.3%	71.4%	54.9%	19.4%	2.4%	5.3%
	週に3～5日する	57	70.2%	66.7%	33.3%	15.8%	1.8%	8.8%
	週に1～2日する	45	68.9%	71.1%	35.6%	13.3%	2.2%	8.9%
	ほとんどしない	144	69.4%	60.4%	31.3%	11.1%	2.1%	13.2%
	《週1日以上》	308	72.7%	70.5%	48.1%	17.9%	2.3%	6.5%

Q9の食中毒経験別に見ると、「あった」人は「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」の割合が55.7%と全体（42.7%）を13.0ポイント上回った。

図表 41：【食中毒経験別】 ノロウイルス食中毒についての知識（複数回答）

		回答者数（n）	起ノロウイルス食中毒は、夏も	大ノロウイルスの食中毒予防で	なく、ノロウイルスは食中毒感染だけでなく、人から人へも感染する	原因は生カキによるものが大半を占める	洗アルはアルコール消毒をすれば、手	正しいと思う選択肢はない
全体		452	71.7%	67.3%	42.7%	15.7%	2.2%	8.6%
食中毒経験	あった	97	75.3%	69.1%	55.7%	20.6%	2.1%	6.2%
	なかった	334	69.5%	67.1%	39.5%	15.0%	2.4%	9.6%
	わからない・覚えていない	21	90.5%	61.9%	33.3%	4.8%	-	4.8%

Q13 の食中毒予防についての認知経路別に見ると、「学校で習った」、「祖父母又は親から教わった」人は「ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである」、「ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する」の割合が全体（67.3%、42.7%）を5ポイント以上上回った。また、「習っていない」人は「正しいと思う選択肢はない」の割合が全体（8.6%）を6.9ポイント上回った。

図表 42：【食中毒予防の認知経路別】 ノロウイルス食中毒についての知識（複数回答）

		回答者数（n）	起ノロウイルス食中毒は、夏も	大切なのは、手洗いで予防で	なく、人から人へも感染するで	半原因は生カキによるものが大	洗アルコール消毒をすれば、手	正しいと思う選択肢はない
全体		452	71.7%	67.3%	42.7%	15.7%	2.2%	8.6%
食中毒予防の認知経路について	学校で習った	114	74.6%	76.3%	55.3%	15.8%	2.6%	5.3%
	祖父母又は親から教わった	88	78.4%	81.8%	52.3%	15.9%	2.3%	4.5%
	兄弟・子どもから教わった	8	100.0%	100.0%	37.5%	50.0%	-	-
	友人から教わった	18	94.4%	83.3%	50.0%	27.8%	-	-
	その他	40	85.0%	77.5%	62.5%	25.0%	5.0%	2.5%
	覚えていない	137	66.4%	62.8%	32.1%	15.3%	0.7%	8.0%
	習っていない	129	68.2%	57.4%	37.2%	12.4%	2.3%	15.5%

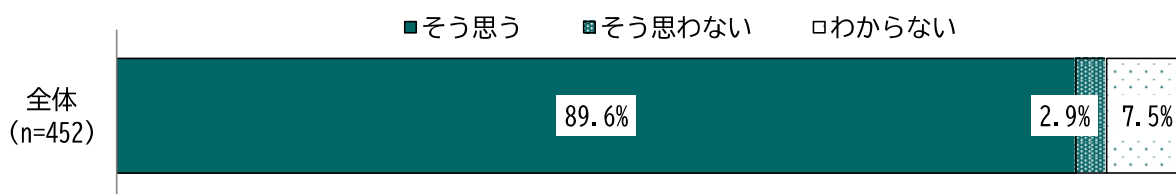
(4) 食中毒に対する認識

Q12 次の内容について、どのように思いますか。

食中毒にかかると、時には死ぬこともある。

〔食中毒にかかると、時には死ぬこともある。〕については、「そう思う」が89.6%、「そう思わない」が2.9%、「わからない」が7.5%であった。

図表 43：食中毒に対する認識 [食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]



性別、年齢別ともに大きな差は見られなかった。

図表 44：【性別・年齢別】 食中毒に対する認識 [食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]

		回答者数 (n)	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い
全体		452	89.6%	2.9%	7.5%
性別	男性	230	90.0%	3.5%	6.5%
	女性	222	89.2%	2.3%	8.6%
年齢	55歳～64歳	153	91.5%	1.3%	7.2%
	65歳～74歳	154	87.7%	5.2%	7.1%
	75歳～	145	89.7%	2.1%	8.3%

Q6の料理をする頻度別に見ると、「週に1~2日する」人は「わからない」の割合が全体（7.5%）を5.8ポイント上回った。

図表 45：【料理頻度別】 食中毒に対する認識 [食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]

		回答者数 (n)	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い
全体		452	89.6%	2.9%	7.5%
料理 頻 度	ほぼ毎日する	206	90.8%	2.4%	6.8%
	週に3~5日する	57	89.5%	5.3%	5.3%
	週に1~2日する	45	86.7%	-	13.3%
	ほとんどしない	144	88.9%	3.5%	7.6%
	《週1日以上》	308	89.9%	2.6%	7.5%

性別、年齢別ともに大きな差は見られなかった。

図表 46：【食中毒経験別】 食中毒に対する認識 [食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]

		回答者数 (n)	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い
全体		452	89.6%	2.9%	7.5%
食 中 毒 経 験	あった	97	86.6%	3.1%	10.3%
	なかった	334	90.7%	3.0%	6.3%
	わからない・ 覚えていない	21	85.7%	-	14.3%

Q13の食中毒予防についての認知経路別に見ると、「その他」の人は「そう思う」の割合が97.5%と全体(89.6%)を7.9ポイント上回り、「わからない」の割合が2.5%と全体(7.5%)を5.0ポイント下回った。

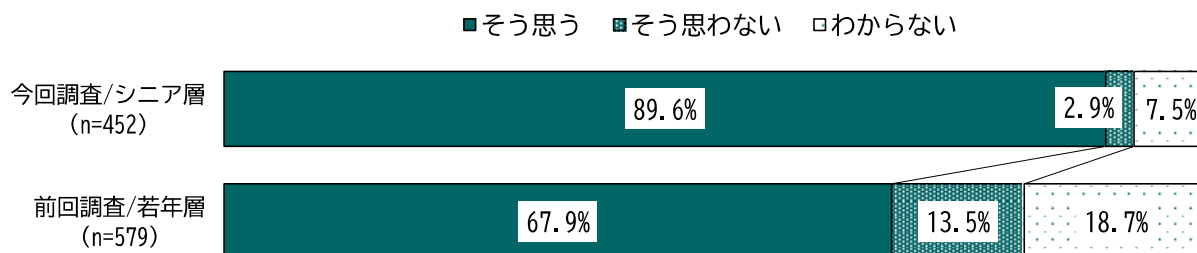
図表 47：【食中毒予防の認知経路別】 食中毒に対する認識
[食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]

		回答者数 (n)	そう 思う	そう 思わ ない	わ か ら な い
全体		452	89.6%	2.9%	7.5%
食 中 毒 予 防 の 認 知 経 路 に つ い て	学校で習った	114	91.2%	2.6%	6.1%
	祖父母又は親から教わった	88	93.2%	1.1%	5.7%
	兄弟・子どもから教わった	8	100.0%	-	-
	友人から教わった	18	94.4%	-	5.6%
	その他	40	97.5%	-	2.5%
	覚えていない	137	88.3%	2.9%	8.8%
	習っていない	129	86.8%	3.9%	9.3%

【前回調査(令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」)との比較】

前回(若年層)調査との比較では、「そう思う」の割合は前回調査で67.9%であったのに対し、今回調査では89.6%(+21.7ポイント)であった。また、「わからない」の割合は前回調査で18.7%であったのに対し、今回調査では7.5%(-11.2ポイント)であった。

図表 48：【前回(若年層)調査比較】 食中毒に対する認識
[食中毒にかかると、時には死ぬこともある。]

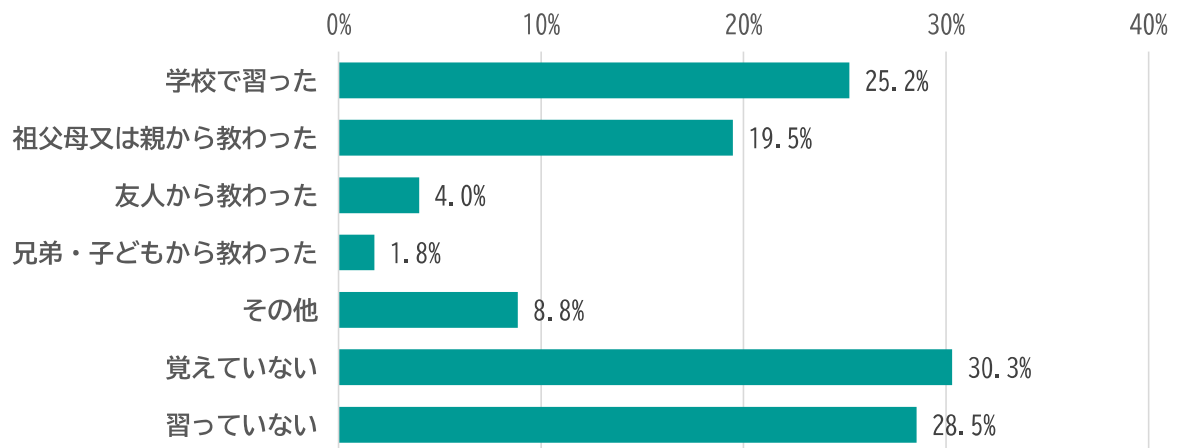


(5) 食中毒予防についての認知経路

Q13 あなたは、食中毒予防などについて、どこで習いましたか。(複数回答)

食中毒予防についての認知経路は、「学校で習った」が25.2%、「祖父母又は親から教わった」が19.5%であった。なお、「覚えていない」は30.3%、「習っていない」は28.5%であった。

(n=452) 図表 49：食中毒予防についての認知経路（複数回答）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、「学校で習った」、「祖父母又は親から教わった」の割合は、55歳～64歳よりも75歳～の方が10ポイント以上高かった。また、「習っていない」の割合は、75歳～よりも55歳～64歳の方が10ポイント以上高かった。

図表 50：【性別・年齢別】 食中毒予防についての認知経路（複数回答）

		回答者数 (n)	学校 で習 った	教祖 わ父 つ母 た又 は親 から	友 人 か ら 教 わ つ た	教兄 わ弟 つ・ た子 ども か ら	そ の 他	覚 え て い な い	習 つ て い な い
全体		452	25.2%	19.5%	4.0%	1.8%	8.8%	30.3%	28.5%
性 別	男性	230	20.9%	16.5%	3.0%	1.3%	7.4%	32.2%	31.3%
	女性	222	29.7%	22.5%	5.0%	2.3%	10.4%	28.4%	25.7%
年 齢	55歳～64歳	153	17.6%	13.1%	1.3%	0.7%	6.5%	35.3%	35.3%
	65歳～74歳	154	26.6%	19.5%	2.6%	1.9%	10.4%	27.9%	27.9%
	75歳～	145	31.7%	26.2%	8.3%	2.8%	9.7%	27.6%	22.1%

Q9の食中毒経験別に見ると、「あった」人は「祖父母又は親から教わった」の割合が30.9%と全体(19.5%)を11.4ポイント上回り、「覚えていない」の割合が20.6%と全体(30.3%)を9.7ポイント下回った。

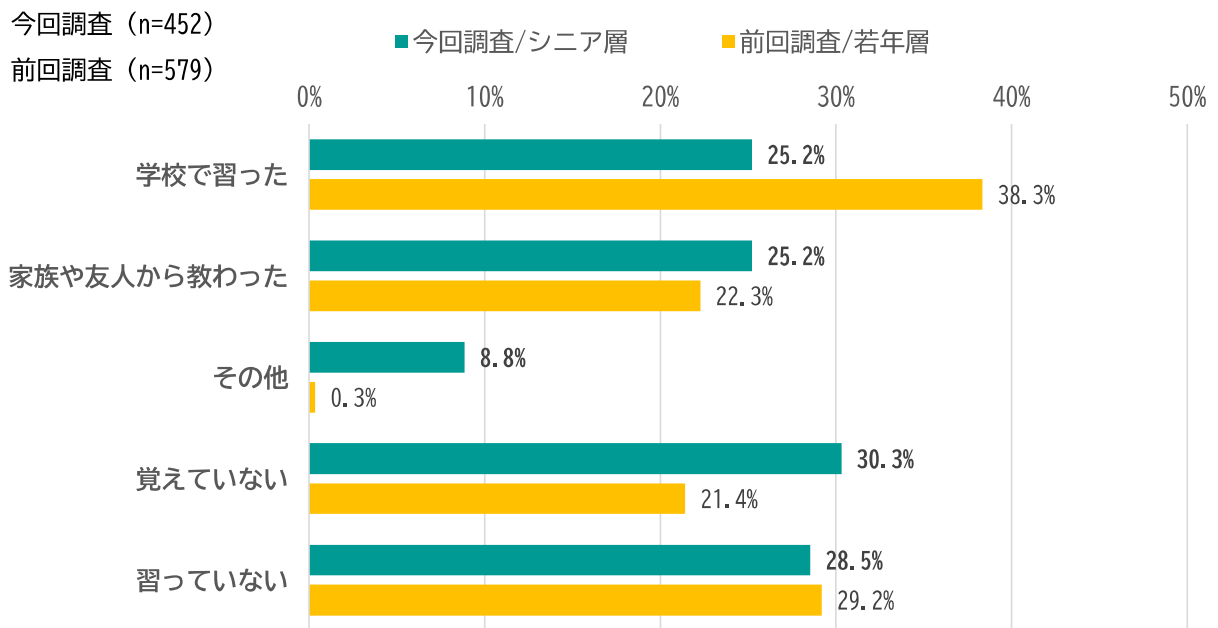
図表 51：【食中毒経験別】 食中毒予防についての認知経路（複数回答）

		回答者数 (n)	学校 で習 った	教祖 わ父 つ母 た又 は親 から	友 人 か ら 教 わ つ た	教兄 わ弟 つ・ た子 ども か ら	そ の 他	覚 え て い な い	習 つ て い な い
全体		452	25.2%	19.5%	4.0%	1.8%	8.8%	30.3%	28.5%
食 中 毒 経 験	あった	97	29.9%	30.9%	3.1%	-	11.3%	20.6%	30.9%
	なかった	334	25.1%	16.8%	4.2%	2.4%	7.5%	32.9%	27.8%
	わからない・ 覚えていない	21	4.8%	9.5%	4.8%	-	19.0%	33.3%	28.6%

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「学校で習った」の割合は前回調査（38.3%）より13.1ポイント低かった。一方、「その他」、「覚えていない」の割合は前回調査（0.3%、21.4%）より5ポイント以上高かった。

図表 52：【前回（若年層）調査比較】 食中毒予防についての認知経路（複数回答）



※比較のため、前回調査に合わせた選択肢に変更（「祖父母または親から教わった」、「兄弟・子どもから教わった」、「友人から教わった」を「家族や友人から教わった」に統一）

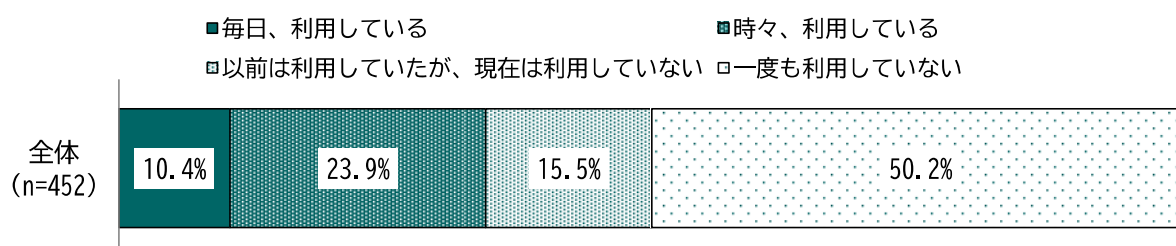
4 健康食品に関する意識

(1) 健康食品の利用

Q14 あなたは現在、健康食品を利用していますか。

健康食品の利用については、「毎日、利用している」が 10.4%、「時々、利用している」が 23.9%、「以前は利用していたが、現在は利用していない」が 15.5%であった。一方、「一度も利用していない」は 50.2%であった。

図表 53：健康食品の利用



性別に見ると、「一度も利用していない」の割合は、女性よりも男性の方が 12.0 ポイント高かった。年齢別に見ると、「時々、利用している」の割合は年齢が上がるほど高く、75 歳～は 29.7%と全体 (23.9%) を 5.8 ポイント上回った。一方、「一度も利用していない」の割合は年齢が上がるほど低く、75 歳～は 42.1%と全体 (50.2%) を 8.1 ポイント下回った。

図表 54：【性別・年齢別】健康食品の利用

		回答者数 (n)	毎日、利用している	時々、利用している	以前は利用していたが、	一度も利用していない
全体		452	10.4%	23.9%	15.5%	50.2%
性別	男性	230	8.3%	24.8%	10.9%	56.1%
	女性	222	12.6%	23.0%	20.3%	44.1%
年齢	55歳～64歳	153	9.2%	15.7%	18.3%	56.9%
	65歳～74歳	154	9.7%	26.6%	12.3%	51.3%
	75歳～	145	12.4%	29.7%	15.9%	42.1%

基礎疾患の有無別、薬（医薬品）の服用別ともに大きな差は見られなかった。

図表 55：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品の利用

		回答者数 (n)	毎日、 利用している	時々、 利用している	現以 前は 利用 して いた が、	一 度 も 利 用 し て い な い
全体		452	10.4%	23.9%	15.5%	50.2%
基 礎 疾 患 有 無	ある	144	9.7%	27.1%	13.9%	49.3%
	ない	292	11.0%	22.9%	15.8%	50.3%
	わからない	16	6.3%	12.5%	25.0%	56.3%
薬 （ 医 薬 品 ） の 服 用	飲んでいる	265	11.7%	23.8%	14.7%	49.8%
	飲んでいない	187	8.6%	24.1%	16.6%	50.8%
	わからない	0	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「時々、利用している」の割合が18.7%と全体（23.9%）を5.2ポイント下回り、「一度も利用していない」の割合が59.7%と全体（50.2%）を9.5ポイント上回った。

図表 56：【活動状況別】 健康食品の利用

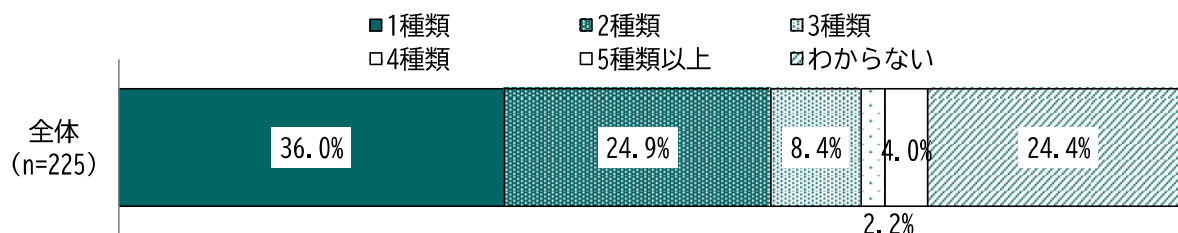
		回答者数 (n)	毎日、 利用している	時々、 利用している	現以 前は 利用 して いた が、	一 度 も 利 用 し て い な い
全体		452	10.4%	23.9%	15.5%	50.2%
の 活 動 上 週 2 回	はい	313	12.1%	26.2%	15.7%	46.0%
	いいえ	139	6.5%	18.7%	15.1%	59.7%

(2) 健康食品の利用種類

Q15 何種類の健康食品を利用されていますか（利用されていましたか）。

健康食品の利用種類については、「1種類」が36.0%、「2種類」が24.9%、「3種類」が8.4%、「4種類」、「5種類以上」の項目は各5%未満であった。なお、「わからない」が24.4%であった。

図表 57：健康食品の利用種類



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「1種類」の割合が48.5%と全体（36.0%）を12.5ポイント上回り、「2種類以上」の割合が28.8%と全体（39.5%）を10.7ポイント下回った。一方、75歳～は「1種類」の割合が28.6%と全体（36.0%）を7.4ポイント下回った。

図表 58：【性別・年齢別】 健康食品の利用種類

		回答者数 (n)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	わからない
全体		225	36.0%	24.9%	8.4%	2.2%	4.0%	24.4%
性別	男性	101	32.7%	25.7%	7.9%	1.0%	5.0%	27.7%
	女性	124	38.7%	24.2%	8.9%	3.2%	3.2%	21.8%
年齢	55歳～64歳	66	48.5%	15.2%	10.6%	1.5%	1.5%	22.7%
	65歳～74歳	75	33.3%	32.0%	8.0%	2.7%	2.7%	21.3%
	75歳～	84	28.6%	26.2%	7.1%	2.4%	7.1%	28.6%

基礎疾患の有無別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「2種類」の割合が30.1%と全体（24.9%）を5.2ポイント上回った。

薬（医薬品）の服用別に見ると、薬（医薬品）を「飲んでいない」人は「1種類」の割合が42.4%と全体（36.0%）を6.4ポイント上回った。

図表 59：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品の利用種類

		回答者数 (n)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	わからない
全体		225	36.0%	24.9%	8.4%	2.2%	4.0%	24.4%
基礎疾患の有無	ある	73	32.9%	30.1%	6.8%	5.5%	2.7%	21.9%
	ない	145	38.6%	22.8%	9.7%	0.7%	4.1%	24.1%
	わからない	7	14.3%	14.3%	-	-	14.3%	57.1%
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	133	31.6%	27.8%	8.3%	3.8%	3.8%	24.8%
	飲んでいない	92	42.4%	20.7%	8.7%	-	4.3%	23.9%
	わからない	0	-	-	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「1種類」の割合が44.6%と全体（36.0%）を8.6ポイント上回り、「2種類以上」の割合が30.3%と全体（39.5%）を9.2ポイント下回った。

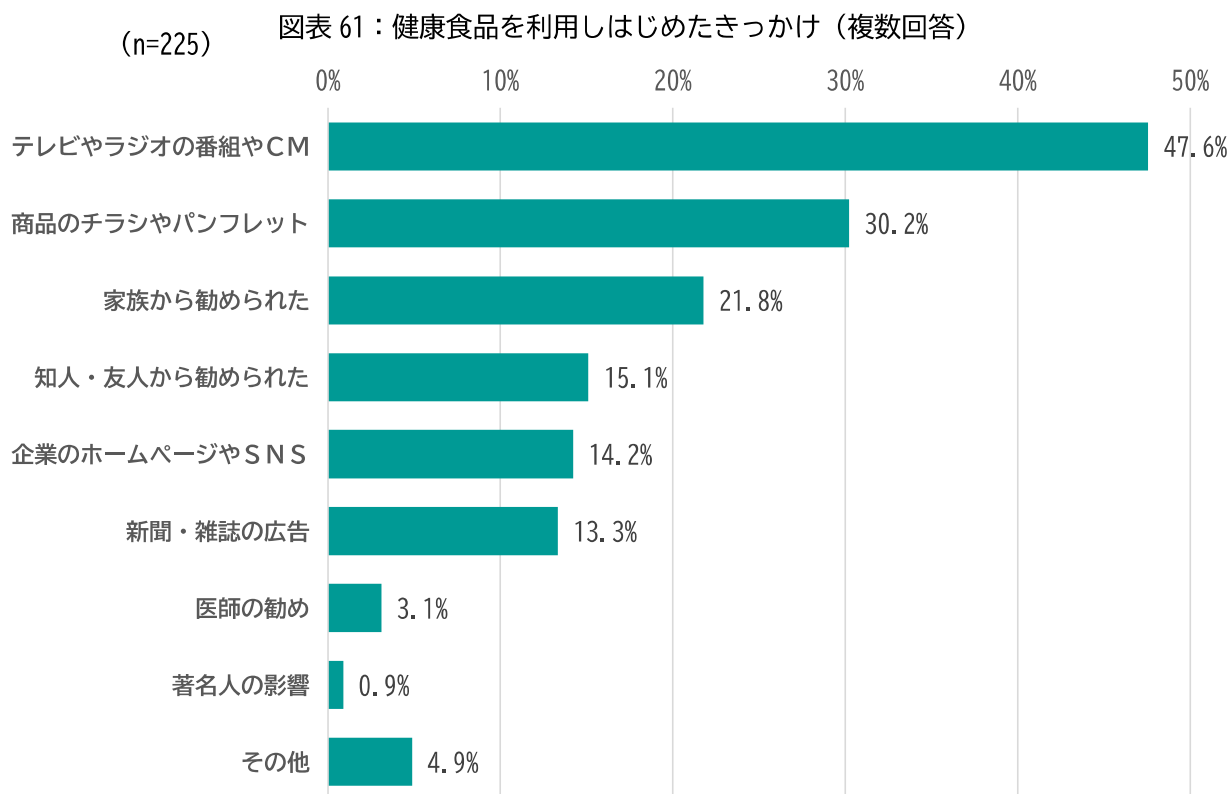
図表 60：【活動状況別】 健康食品の利用種類

		回答者数 (n)	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	わからない
全体		225	36.0%	24.9%	8.4%	2.2%	4.0%	24.4%
週2回以上の活動	はい	169	33.1%	26.6%	8.9%	2.4%	4.7%	24.3%
	いいえ	56	44.6%	19.6%	7.1%	1.8%	1.8%	25.0%

(3) 健康食品を利用しはじめたきっかけ

Q16 何がきっかけで健康食品を利用しはじめましたか。(複数回答)

健康食品を利用しはじめたきっかけについては、「テレビやラジオの番組やCM」が47.6%と最も高く、次いで「商品のチラシやパンフレット」が30.2%、「家族から勧められた」が21.8%と続いた。



性別に見ると、「家族から勧められた」、「新聞・雑誌の広告」の割合は、女性よりも男性の方が5ポイント以上高かった。

年齢別に見ると、75歳～は「テレビやラジオの番組やCM」、「商品のチラシやパンフレット」、「新聞・雑誌の広告」の3項目がそれぞれ全体（47.6%、30.2%、13.3%）を5ポイント以上上回った。

図表 62：【性別・年齢別】 健康食品を利用しはじめたきっかけ（複数回答）

		回答者数 (n)	テレビやラジオの番組 やCM	商品のチラシやパンフレットの チラシやパンフ	家族から勧められた	知人・友人から勧められた	企業のホームページやSNS	新聞・雑誌の広告	医師の勧め	著名人の影響	その他
全体		225	47.6%	30.2%	21.8%	15.1%	14.2%	13.3%	3.1%	0.9%	4.9%
性別	男性	101	50.5%	25.7%	29.7%	15.8%	13.9%	18.8%	5.0%	1.0%	5.0%
	女性	124	45.2%	33.9%	15.3%	14.5%	14.5%	8.9%	1.6%	0.8%	4.8%
年齢	55歳～64歳	66	43.9%	21.2%	19.7%	15.2%	16.7%	6.1%	6.1%	3.0%	7.6%
	65歳～74歳	75	40.0%	32.0%	22.7%	12.0%	14.7%	9.3%	2.7%	-	6.7%
	75歳～	84	57.1%	35.7%	22.6%	17.9%	11.9%	22.6%	1.2%	-	1.2%

基礎疾患の有無別では大きな差は見られなかった。

薬（医薬品）の服用別に見ると、「商品のチラシやパンフレット」の割合は、薬（医薬品）を「飲んでいない」人よりも「飲んでいる」人の方が14.4ポイント高かった。

図表 63：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品を利用しはじめたきっかけ（複数回答）

		回答者数（n）	テレビやラジオの番組	商品のチラシやパンフレット	家族から勧められた	知人・友人から勧められた	企業のホームページ	新聞・雑誌の広告	医師の勧め	著名人の影響	その他
全体		225	47.6%	30.2%	21.8%	15.1%	14.2%	13.3%	3.1%	0.9%	4.9%
基礎疾患の有無	ある	73	43.8%	32.9%	20.5%	16.4%	13.7%	17.8%	5.5%	1.4%	4.1%
	ない	145	48.3%	29.0%	22.1%	13.8%	15.2%	11.0%	2.1%	0.7%	5.5%
	わからない	7	71.4%	28.6%	28.6%	28.6%	-	14.3%	-	-	-
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	133	46.6%	36.1%	21.8%	16.5%	14.3%	16.5%	3.8%	1.5%	6.0%
	飲んでいない	92	48.9%	21.7%	21.7%	13.0%	14.1%	8.7%	2.2%	-	3.3%
	わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「商品のチラシやパンフレット」、「家族から勧められた」、「新聞・雑誌の広告」の3項目がそれぞれ全体（30.2%、21.8%、13.3%）を5ポイント以上下回った。

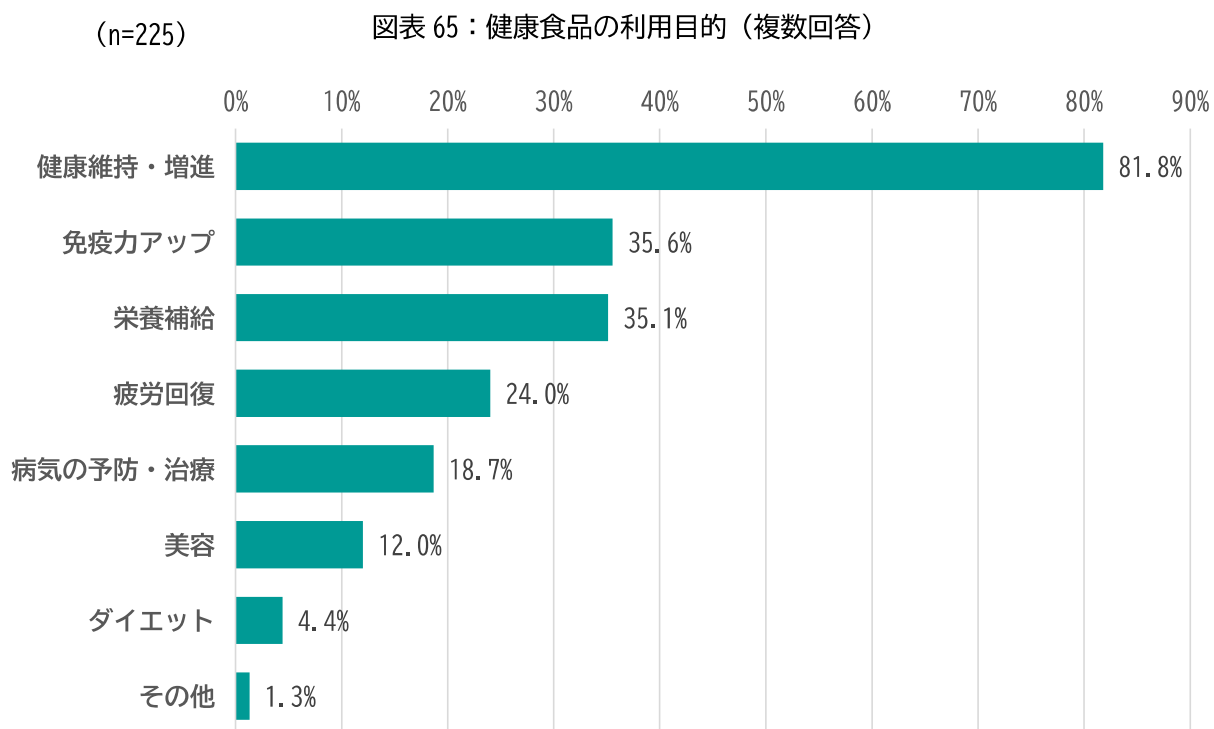
図表 64：【活動状況別】 健康食品を利用しはじめたきっかけ（複数回答）

		回答者数（n）	テレビやラジオの番組	商品のチラシやパンフレット	家族から勧められた	知人・友人から勧められた	企業のホームページ	新聞・雑誌の広告	医師の勧め	著名人の影響	その他
全体		225	47.6%	30.2%	21.8%	15.1%	14.2%	13.3%	3.1%	0.9%	4.9%
週2回以上の活動	はい	169	48.5%	33.7%	23.7%	16.6%	15.4%	15.4%	3.0%	1.2%	3.6%
	いいえ	56	44.6%	19.6%	16.1%	10.7%	10.7%	7.1%	3.6%	-	8.9%

(4) 健康食品の利用目的

Q17 健康食品を利用する目的は何ですか。(複数回答)

健康食品の利用目的については、「健康維持・増進」が 81.8%と最も高く、次いで「免疫力アップ」が 35.6%、「栄養補給」が 35.1%と続いた。



性別に見ると、「美容」の割合は、男性よりも女性の方が 14.5 ポイント高かった。

年齢別に見ると、「健康維持・増進」、「病気の予防・治療」の割合は年齢が上がるほど高く、75 歳～はそれぞれ 89.3%、25.0%と全体（81.8%、18.7%）を 5 ポイント以上上回った。一方、55 歳～64 歳は「美容」、「ダイエット」の割合がそれぞれ 21.2%、10.6%と全体（12.0%、4.4%）を 5 ポイント以上上回った。

図表 66：【性別・年齢別】健康食品の利用目的（複数回答）

		回答者数 (n)	健康維持・ 増進	免疫力ア ップ	栄養補 給	疲労回 復	病気の予 防・治 療	美容	ダイ エツ ト	そ の 他
全体		225	81.8%	35.6%	35.1%	24.0%	18.7%	12.0%	4.4%	1.3%
性別	男性	101	86.1%	39.6%	39.6%	28.7%	16.8%	4.0%	5.0%	-
	女性	124	78.2%	32.3%	31.5%	20.2%	20.2%	18.5%	4.0%	2.4%
年齢	55歳～64歳	66	71.2%	30.3%	31.8%	25.8%	13.6%	21.2%	10.6%	-
	65歳～74歳	75	82.7%	41.3%	34.7%	25.3%	16.0%	9.3%	4.0%	4.0%
	75歳～	84	89.3%	34.5%	38.1%	21.4%	25.0%	7.1%	-	-

基礎疾患の有無別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「免疫力アップ」、「栄養補給」の割合がそれぞれ41.1%、41.1%と全体（35.6%、35.1%）を5ポイント以上上回った。

薬（医薬品）の服用別に見ると、薬（医薬品）を「飲んでいない」人は「免疫力アップ」の割合が29.3%と全体（35.6%）を6.3ポイント下回った。

図表 67：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品の利用目的（複数回答）

		回答者数 (n)	健康維持・増進	免疫力アップ	栄養補給	疲労回復	病気の予防・治療	美容	ダイエット	その他
全体		225	81.8%	35.6%	35.1%	24.0%	18.7%	12.0%	4.4%	1.3%
基礎疾患の有無	ある	73	80.8%	41.1%	41.1%	26.0%	19.2%	12.3%	6.8%	1.4%
	ない	145	82.8%	32.4%	31.0%	22.1%	18.6%	12.4%	3.4%	1.4%
	わからない	7	71.4%	42.9%	57.1%	42.9%	14.3%	-	-	-
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	133	80.5%	39.8%	36.8%	24.8%	18.8%	12.0%	5.3%	1.5%
	飲んでいない	92	83.7%	29.3%	32.6%	22.8%	18.5%	12.0%	3.3%	1.1%
	わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「健康維持・増進」、「免疫力アップ」、「疲労回復」、「病気の予防・治療」の4項目が全体を5ポイント以上下回った。

図表 68：【活動状況別】 健康食品の利用目的（複数回答）

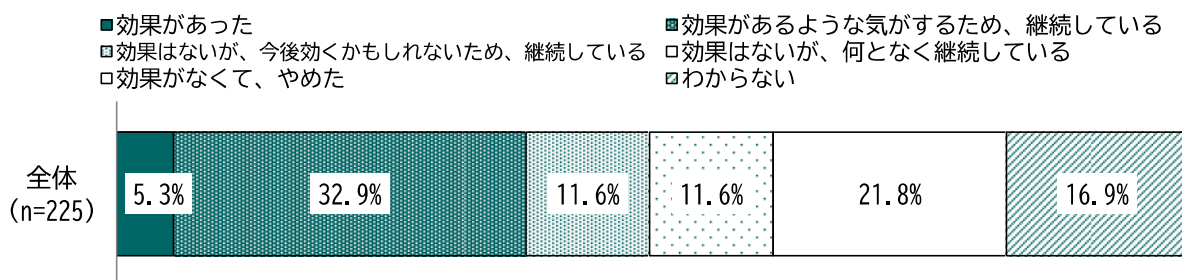
		回答者数 (n)	健康維持・増進	免疫力アップ	栄養補給	疲労回復	病気の予防・治療	美容	ダイエット	その他
全体		225	81.8%	35.6%	35.1%	24.0%	18.7%	12.0%	4.4%	1.3%
週2回以上の活動	はい	169	85.2%	39.6%	33.7%	26.0%	20.7%	12.4%	3.6%	1.2%
	いいえ	56	71.4%	23.2%	39.3%	17.9%	12.5%	10.7%	7.1%	1.8%

(5) 健康食品の利用による効果

Q18 健康食品を利用して、目的に合った効果はありましたか。

健康食品の利用による効果については、「効果があった」が5.3%、「効果があるような気がするため、継続している」が32.9%であった。また、「効果はないが、今後効くかもしれないため、継続している」、「効果はないが、何となく継続している」が各11.6%、「効果がなくて、やめた」が21.8%であった。なお、「わからない」は16.9%であった。

図表 69：健康食品の利用による効果



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、「効果がなくて、やめた」の割合は年齢が上がるほど低く、75歳～は14.3%と全体(21.8%)を7.5ポイント下回った。

図表 70：【性別・年齢別】健康食品の利用による効果

		回答者数 (n)	効果があった	効果があるため、継続しようとしている	効果はないが、継続しようがない気がする	効果はないが、今後効くかもしれないため、継続している	効果はないが、何となく継続している	効果がなくて、やめた	わからない
全体		225	5.3%	32.9%	11.6%	11.6%	21.8%	16.9%	
性別	男性	101	5.9%	30.7%	9.9%	13.9%	18.8%	20.8%	
	女性	124	4.8%	34.7%	12.9%	9.7%	24.2%	13.7%	
年齢	55歳～64歳	66	4.5%	30.3%	7.6%	12.1%	31.8%	13.6%	
	65歳～74歳	75	6.7%	33.3%	14.7%	8.0%	21.3%	16.0%	
	75歳～	84	4.8%	34.5%	11.9%	14.3%	14.3%	20.2%	

基礎疾患の有無別、薬（医薬品）の服用別ともに大きな差は見られなかった。

図表 71：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品の利用による効果

		回答者数（n）	効果があつた	効果がある、継続してない気がする	効果はないが、今後継続しない	効果はないが、何となく継続している	効果がなくて、やめた	わからない
全体		225	5.3%	32.9%	11.6%	11.6%	21.8%	16.9%
基礎疾患の有無	ある	73	4.1%	28.8%	13.7%	13.7%	21.9%	17.8%
	ない	145	5.5%	35.9%	11.0%	10.3%	20.7%	16.6%
	わからない	7	14.3%	14.3%	-	14.3%	42.9%	14.3%
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	133	6.0%	33.1%	12.0%	12.8%	20.3%	15.8%
	飲んでいない	92	4.3%	32.6%	10.9%	9.8%	23.9%	18.5%
	わからない	0	-	-	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「効果があるような気がするため、継続している」の割合が19.6%と全体（32.9%）を13.3ポイント下回り、「効果がなくて、やめた」、「わからない」の割合がそれぞれ26.8%、23.2%と全体（21.8%、16.9%）を5ポイント以上上回った。

図表 72：【活動状況別】 健康食品の利用による効果

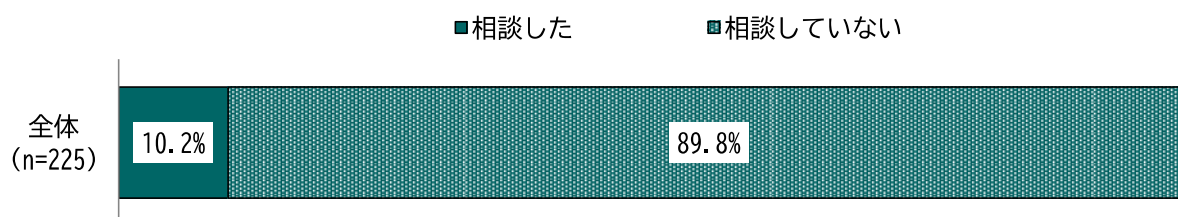
		回答者数 (n)	効果があつた	効果があるため、継続していきやすい	効果はないが、今後継続してもいいが、ため、後継続	効果はないが、何となく継続している	効果がなくて、やめた	わからない
全体		225	5.3%	32.9%	11.6%	11.6%	21.8%	16.9%
週2回以上の活動	はい	169	5.9%	37.3%	11.2%	10.7%	20.1%	14.8%
	いいえ	56	3.6%	19.6%	12.5%	14.3%	26.8%	23.2%

(6) 健康食品の利用に関する医療従事者への相談

Q19 健康食品を利用することについて、医師・薬剤師などの医療従事者へ相談をしましたか。

健康食品の利用に関する医療従事者への相談については、「相談した」が10.2%、「相談していない」が89.8%であった。

図表 73：健康食品の利用に関する医療従事者への相談



性別、年齢別ともに大きな差は見られなかった。

図表 74：【性別・年齢別】健康食品の利用に関する医療従事者への相談

		回答者数 (n)	相談した	相談していない
全体		225	10.2%	89.8%
性別	男性	101	9.9%	90.1%
	女性	124	10.5%	89.5%
年齢	55歳～64歳	66	9.1%	90.9%
	65歳～74歳	75	9.3%	90.7%
	75歳～	84	11.9%	88.1%

基礎疾患の有無別に見ると、「相談した」は基礎疾患が「ない」人よりも「ある」人の方が7.5ポイント高かった。

薬（医薬品）の服用別に見ると、薬（医薬品）を「飲んでいない」人は「相談した」の割合が4.3%と全体（10.2%）を5.9ポイント下回った。

図表 75：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品の利用に関する医療従事者への相談

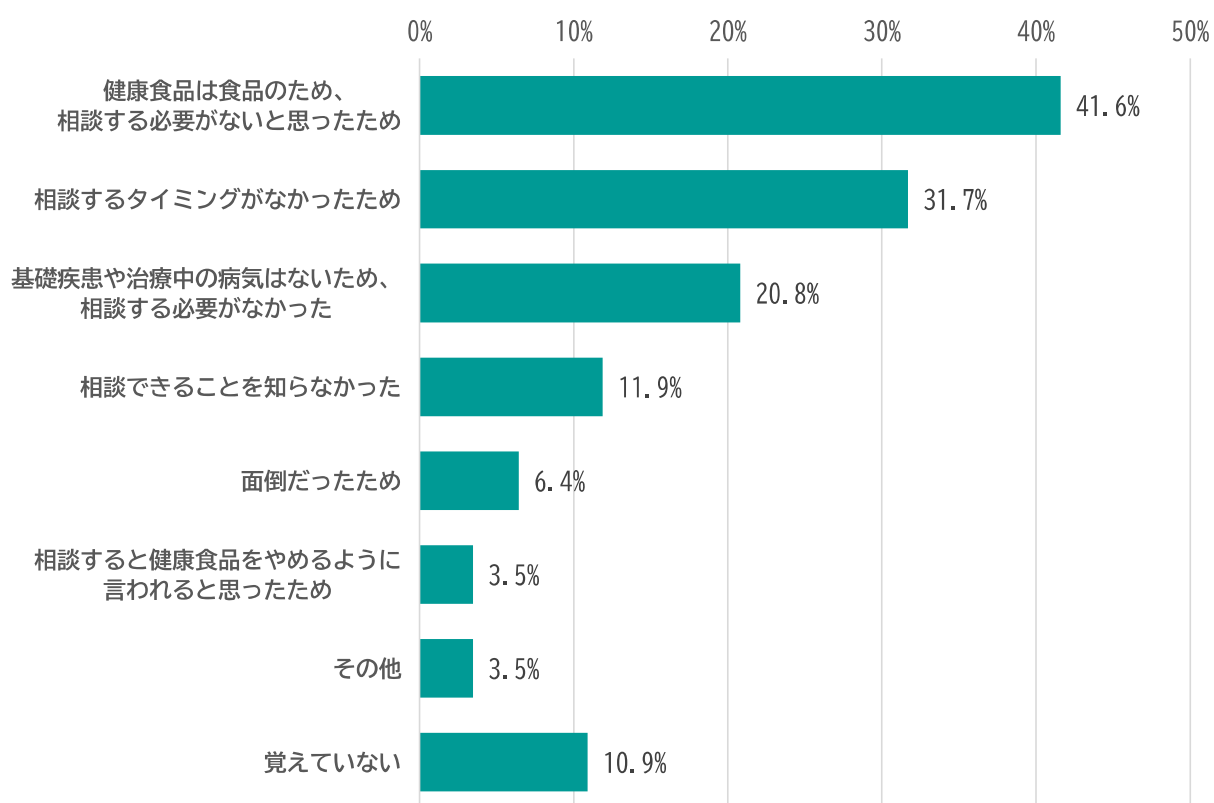
		回答者数 (n)	相談した	相談していない
全体		225	10.2%	89.8%
基礎疾患の有無	ある	73	15.1%	84.9%
	ない	145	7.6%	92.4%
	わからない	7	14.3%	85.7%
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	133	14.3%	85.7%
	飲んでいない	92	4.3%	95.7%
	わからない	0	-	-

(7) 健康食品の利用について相談しなかった理由

Q20 Q19で「相談していない」と回答した方にうかがいます。
相談しなかった理由について教えてください。(複数回答)

健康食品の利用について相談しなかった理由は、「健康食品は食品のため、相談する必要がないと思ったため」が41.6%と最も高く、次いで「相談するタイミングがなかったため」が31.7%、「基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった」が20.8%と続いた。なお、「覚えていない」は10.9%であった。

(n=202) 図表 76：健康食品の利用について相談しなかった理由（複数回答）



性別に見ると、「面倒だったため」は女性よりも男性の方が8.3ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「相談するタイミングがなかったため」の割合が26.7%と全体(31.7%)を5.0ポイント下回り、「覚えていない」の割合が18.3%と全体(10.9%)を7.4ポイント上回った。また、65歳～74歳は「基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった」の割合が14.7%と全体(20.8%)を6.1ポイント下回った。

図表 77：【性別・年齢別】健康食品の利用について相談しなかった理由（複数回答）

		回答者数（n）	た健康食品は必要がないと思つた	か相談するタイミングがな	な基礎疾患や治療中の病気は	か相談できることを知らな	面倒だったため	た相談すると言われると思つたため	その他	覚えていない
全体		202	41.6%	31.7%	20.8%	11.9%	6.4%	3.5%	3.5%	10.9%
性別	男性	91	41.8%	34.1%	18.7%	8.8%	11.0%	2.2%	3.3%	12.1%
	女性	111	41.4%	29.7%	22.5%	14.4%	2.7%	4.5%	3.6%	9.9%
年齢	55歳～64歳	60	40.0%	26.7%	23.3%	15.0%	1.7%	1.7%	1.7%	18.3%
	65歳～74歳	68	44.1%	30.9%	14.7%	11.8%	5.9%	1.5%	5.9%	8.8%
	75歳～	74	40.5%	36.5%	24.3%	9.5%	10.8%	6.8%	2.7%	6.8%

基礎疾患の有無別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「相談するタイミングがなかったため」の割合が38.7%と全体（31.7%）を7.0ポイント上回った。また、基礎疾患が「ない」人は、「基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった」の割合が29.9%と全体（20.8%）を9.1ポイント上回った。

薬（医薬品）の服用別に見ると、「健康食品は食品のため、相談する必要がないと思ったため」の割合は薬（医薬品）を「飲んでいない」人よりも「飲んでいる」人の方が17.3ポイント高かった。また、「基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった」の割合は薬（医薬品）を「飲んでいる」人よりも「飲んでいない」人の方が27.6ポイント高かった。

図表 78：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】
健康食品の利用について相談しなかった理由（複数回答）

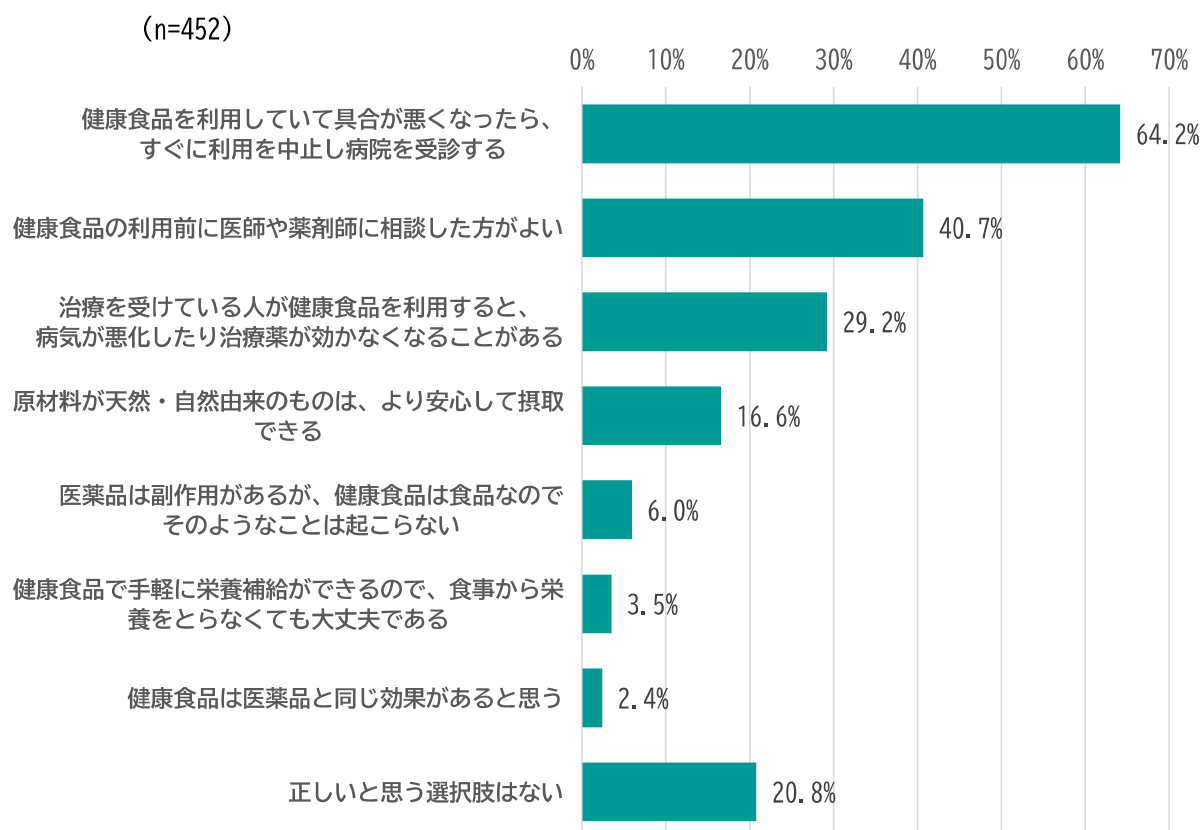
		回答者数（n）	ためす健康食品は食品のため、相談する必要がなかった	か相談するタイミングがな	なない基礎疾患や治療中の病気がは	か相談できることを知らな	面倒だったため	ためよると健康食品をつや	その他	覚えていない
全体		202	41.6%	31.7%	20.8%	11.9%	6.4%	3.5%	3.5%	10.9%
基礎疾患の有無	ある	62	45.2%	38.7%	1.6%	9.7%	3.2%	3.2%	4.8%	12.9%
	ない	134	40.3%	28.4%	29.9%	12.7%	7.5%	3.0%	3.0%	9.7%
	わからない	6	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	-	16.7%
薬（医薬品）の服用	飲んでいる	114	49.1%	31.6%	8.8%	11.4%	7.0%	4.4%	4.4%	10.5%
	飲んでいない	88	31.8%	31.8%	36.4%	12.5%	5.7%	2.3%	2.3%	11.4%
	わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-

(8) 健康食品に関する知識

Q21 健康食品について、正しいと思うものを全て選んでください。(複数回答)

健康食品について正しいと思うものは、「健康食品を利用して具合が悪くなったら、すぐに利用を中止し病院を受診する」が64.2%と最も高く、次いで「健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよい」が40.7%、「治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなることがある」が29.2%と続いた。なお、「正しいと思う選択肢はない」は20.8%であった。

図表 79：健康食品に関する知識（複数回答）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、「治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある」の割合は年齢が上がるほど低く、75歳～は22.1%と全体（29.2%）を7.1ポイント下回った。

図表 80：【性別・年齢別】 健康食品に関する知識（複数回答）

		回答者数（n）	病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなる可能性がある	正しいと思う選択肢はない
全体		452	64.2%	40.7%	29.2%	16.6%	6.0%	3.5%	2.4%	20.8%	
性別	男性	230	63.9%	41.3%	26.1%	20.0%	4.3%	2.6%	2.2%	21.3%	
	女性	222	64.4%	40.1%	32.4%	13.1%	7.7%	4.5%	2.7%	20.3%	
年齢	55歳～64歳	153	68.0%	36.6%	35.9%	12.4%	3.3%	3.3%	3.3%	16.3%	
	65歳～74歳	154	64.3%	41.6%	29.2%	18.8%	5.8%	1.9%	2.6%	21.4%	
	75歳～	145	60.0%	44.1%	22.1%	18.6%	9.0%	5.5%	1.4%	24.8%	

基礎疾患の有無別に見ると、基礎疾患が「ある」人は「健康食品を利用して具合が悪くなった
ら、すぐに利用を中止し病院を受診する」、「健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよ
い」、「治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなることが
ある」の3項目がそれぞれ全体（64.2%、40.7%、29.2%）を5ポイント以上上回った。

薬（医薬品）の服用別に見ると、「健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよい」の割合
は薬（医薬品）を「飲んでいない」人よりも「飲んでいる」人の方が15.6ポイント高かった。

図表 81：【基礎疾患有無別・薬（医薬品）の服用別】 健康食品に関する知識（複数回答）

		回答者数（n）	病なく健康食品を利用する 病院を受診する	健康食品の利用がよい に相談した方がよい	治療薬が効かなく、病気が悪化したり治 療利用が効かなく、病気が悪化したり治	治療を受けている人が健康食品を 利用が効かなく、病気が悪化したり治	は、材料が天然・自然由来のもの は、より安心して摂取できるもの	起ころない 品は食品なので、そのようが、健康食 品は食品なので、そのようが、健康食	ても大丈夫である 健康食品で手軽に栄養補給が 健康食品で手軽に栄養補給が 健康食品で手軽に栄養補給が	る健康食品は医薬品と同じ効果があ る健康食品は医薬品と同じ効果があ	正しいと思う選択肢はない
全体		452	64.2%	40.7%	29.2%	16.6%	6.0%	3.5%	2.4%	20.8%	
基礎疾患 有無	ある	144	72.2%	52.1%	34.7%	18.1%	9.0%	2.8%	2.1%	16.0%	
	ない	292	59.2%	34.6%	26.4%	16.4%	4.5%	3.8%	2.7%	23.6%	
	わからない	16	81.3%	50.0%	31.3%	6.3%	6.3%	6.3%	-	12.5%	
薬（医薬品） の服用	飲んでいる	265	67.2%	47.2%	29.8%	16.2%	6.0%	3.4%	2.3%	18.9%	
	飲んでいない	187	59.9%	31.6%	28.3%	17.1%	5.9%	3.7%	2.7%	23.5%	
	わからない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「健康食品を利用して具合が悪くなったら、すぐに利用を中止し病院を受診する」、「治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなることがある」、「原材料が天然・自然由来のものは、より安心して摂取できる」の3項目がそれぞれ全体（64.2%、29.2%、16.6%）を5ポイント以上回った。また、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「正しいと思う選択肢はない」の割合が30.2%と全体（20.8%）を9.4ポイント上回った。

図表 82：【活動状況別】 健康食品に関する知識（複数回答）

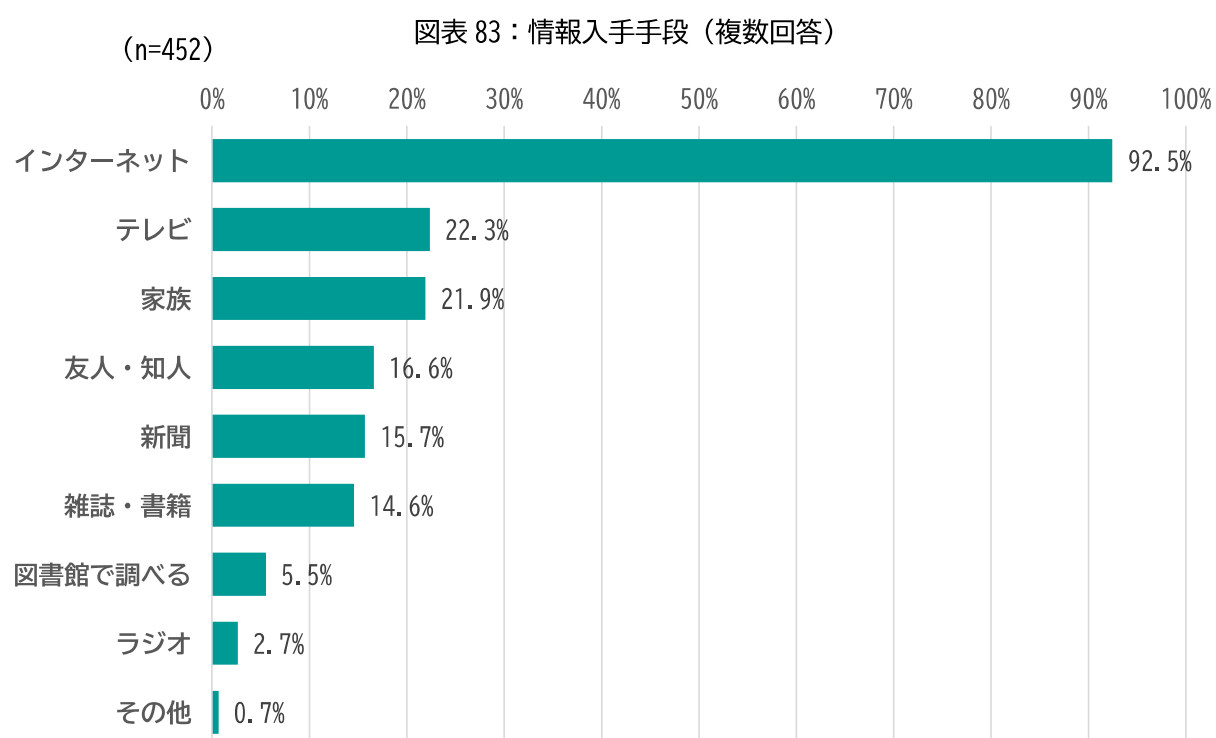
		回答者数（n）	病気が悪くなったら、すぐに利用を中止し悪く健康食品を利用している人が悪化したり治療薬が効かなくなることがある	健康食品の利用がよいに健康食品を利用する人が悪化したり治療薬が効かなくなることがある	治療を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり治療薬が効かなくなることがある	は、原材料が天然・自然由来のものは、より安心して摂取できる	起ころない	医薬品は副作用があるが、健康食品は副作用がない	ても大丈夫である	健康食品で手軽に栄養補給ができて、食事から栄養をとらなく	健康食品は医薬品と同じ効果があると思う	正しいと思う選択肢はない
全体		452	64.2%	40.7%	29.2%	16.6%	6.0%	3.5%	2.4%	20.8%		
の活動週2回以上	はい	313	68.7%	41.9%	31.9%	19.2%	6.1%	3.2%	2.9%	16.6%		
	いいえ	139	54.0%	38.1%	23.0%	10.8%	5.8%	4.3%	1.4%	30.2%		

5 食品安全に関する情報収集について

(1) 情報入手手段

Q22 あなたはふだん、何かを調べようとするときに、どのような手段をよく利用しますか。
(複数回答)

何かを調べようとするときの情報入手手段については、「インターネット」が92.5%と最も高く、次いで「テレビ」が22.3%、「家族」が21.9%、「友人・知人」が16.6%と続いた。



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「新聞」の割合が7.2%と全体（15.7%）を8.5ポイント下回った。また、75歳～は「家族」、「新聞」の割合がそれぞれ29.0%、28.3%と全体（21.9%、15.7%）を5ポイント以上上回った。

図表 84：【性別・年齢別】 情報入手手段（複数回答）

		回答者数 (n)	インターネット	テレビ	家族	友人・知人	新聞	雑誌・書籍	図書館で調べる	ラジオ	その他
全体		452	92.5%	22.3%	21.9%	16.6%	15.7%	14.6%	5.5%	2.7%	0.7%
性別	男性	230	93.0%	21.3%	19.1%	13.5%	17.4%	13.9%	4.8%	1.7%	0.4%
	女性	222	91.9%	23.4%	24.8%	19.8%	14.0%	15.3%	6.3%	3.6%	0.9%
年齢	55歳～64歳	153	95.4%	19.0%	18.3%	17.6%	7.2%	13.7%	3.3%	1.3%	-
	65歳～74歳	154	92.2%	22.1%	18.8%	16.2%	12.3%	13.6%	6.5%	3.2%	0.6%
	75歳～	145	89.7%	26.2%	29.0%	15.9%	28.3%	16.6%	6.9%	3.4%	1.4%

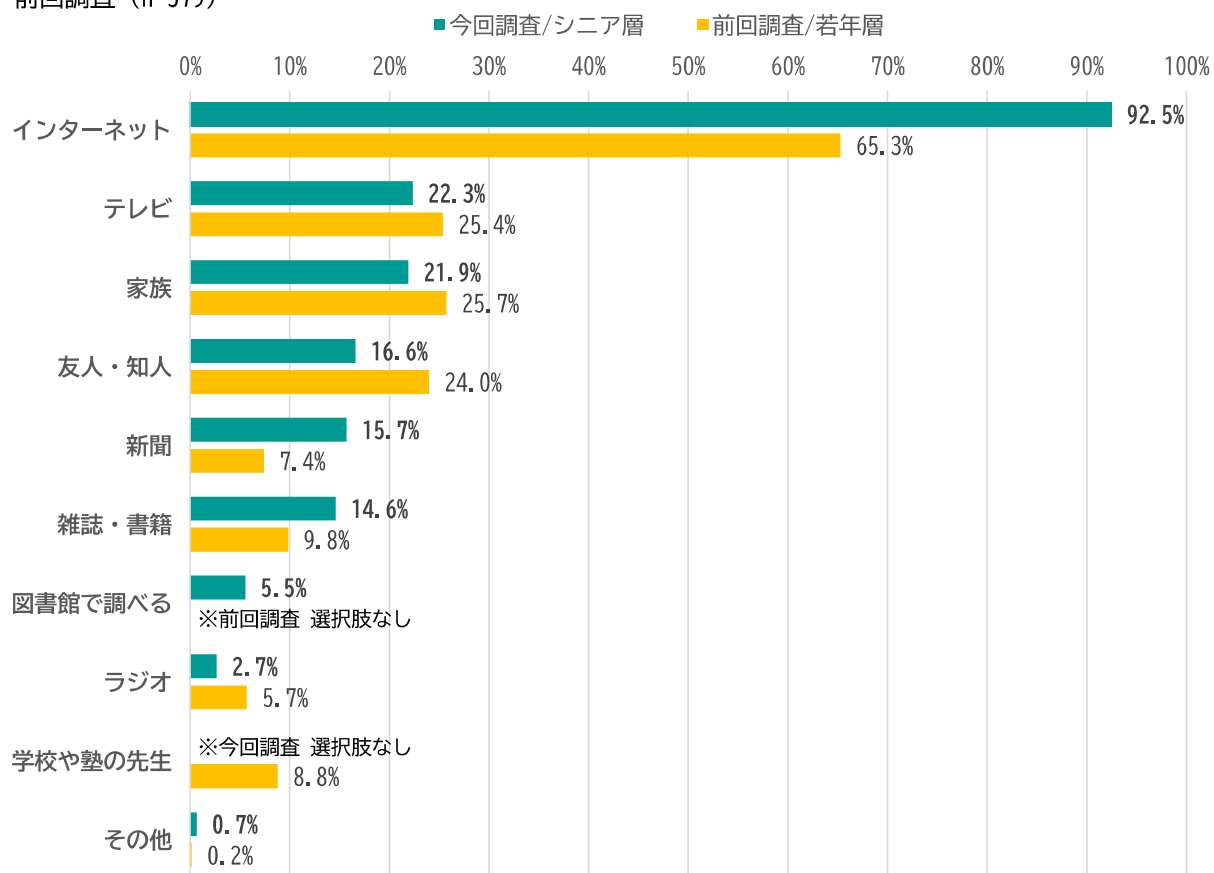
【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「インターネット」の割合は前回調査（65.3%）より27.2ポイント高く、「新聞」の割合は前回調査（7.4%）より8.3ポイント高かった。一方、「友人・知人」の割合は前回調査（24.0%）より7.4ポイント低かった。

図表 85：【前回（若年層）調査比較】 情報入手手段（複数回答）

今回調査（n=452）

前回調査（n=579）

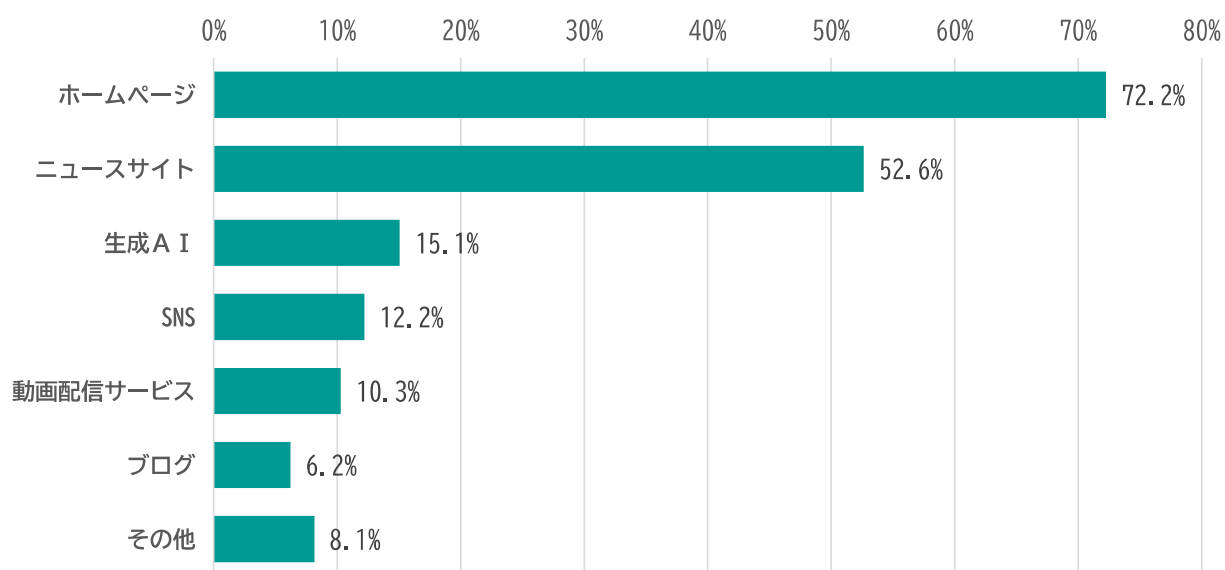


(2) インターネットにおける情報源

Q23 Q22で「インターネット」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どこから情報を得ていますか。(複数回答)

情報入手手段として「インターネット」と回答した方に、具体的な情報源についてたずねたところ、「ホームページ」が72.2%と最も高く、次いで「ニュースサイト」が52.6%、「生成AI」が15.1%、「SNS」が12.2%と続いた。

(n=418) 図表 86：インターネットにおける情報源（複数回答）



性別、年齢別ともに大きな差は見られなかった。

図表 87：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源（複数回答）

		回答者数 (n)	ホーム ページ	ニ ュ ー ス サ イ ト	生 成 A I	S N S	動 画 配 信 サ ー ビ ス	ブ ロ グ	そ の 他
全体		418	72.2%	52.6%	15.1%	12.2%	10.3%	6.2%	8.1%
性別	男性	214	73.8%	50.9%	17.8%	9.8%	11.2%	5.6%	7.5%
	女性	204	70.6%	54.4%	12.3%	14.7%	9.3%	6.9%	8.8%
年齢	55歳～64歳	146	69.9%	51.4%	14.4%	13.0%	12.3%	7.5%	9.6%
	65歳～74歳	142	76.1%	54.9%	16.2%	11.3%	6.3%	3.5%	9.2%
	75歳～	130	70.8%	51.5%	14.6%	12.3%	12.3%	7.7%	5.4%

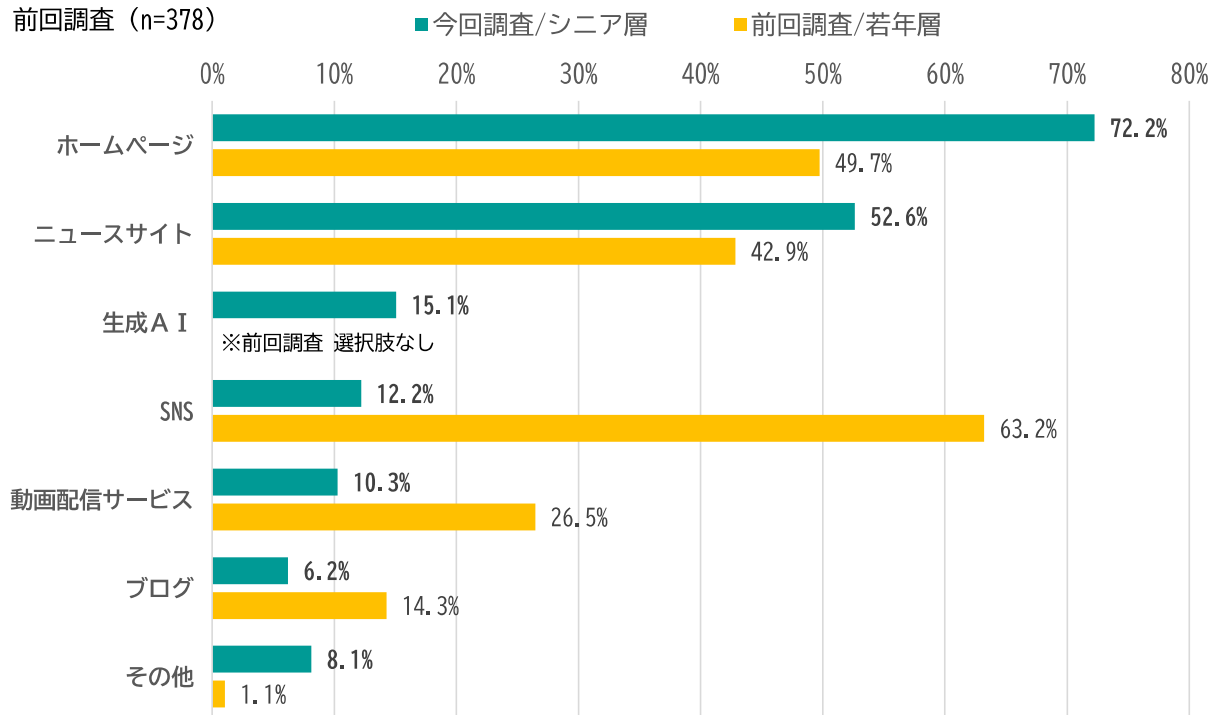
【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「ホームページ」の割合は前回調査（49.7%）より22.5ポイント高く、「ニュースサイト」の割合は前回調査（42.9%）より9.7ポイント高かった。一方、「SNS」の割合は前回調査（63.2%）より51.0ポイント低く、「動画配信サービス」の割合は前回調査（26.5%）より16.2ポイント低かった。

図表 88：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源（複数回答）

今回調査（n=418）

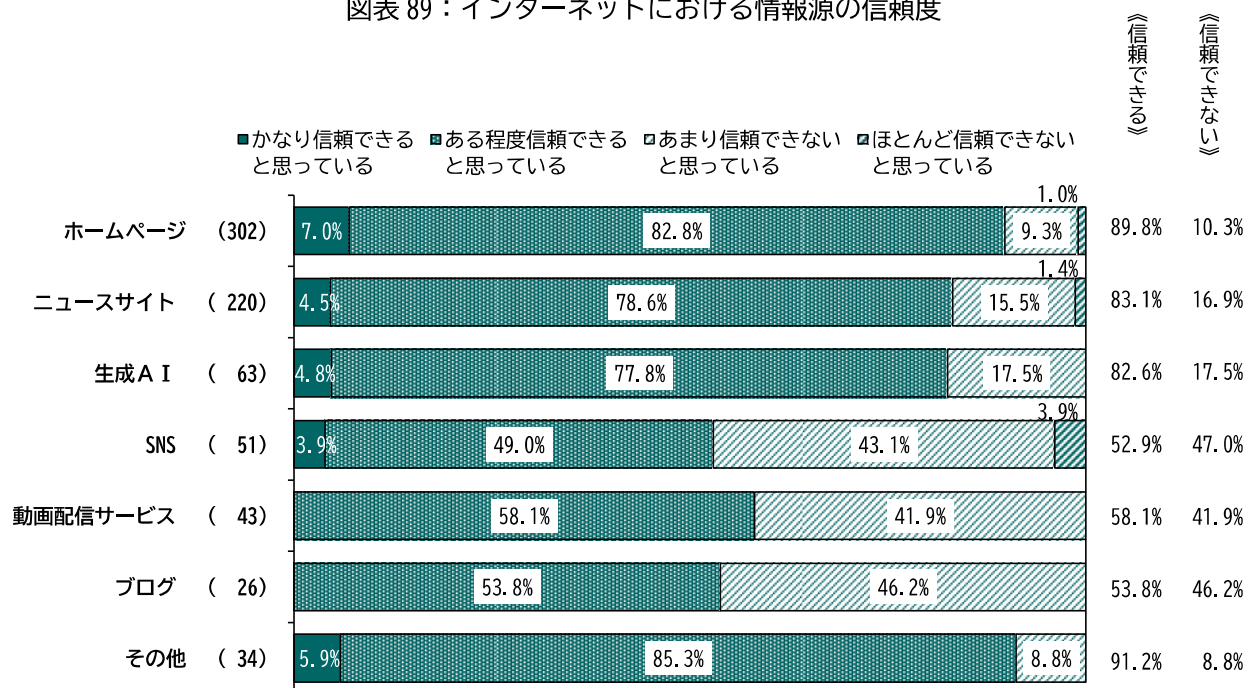
前回調査（n=378）



Q24 Q23で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

インターネットにおける情報源の信頼度については、「SNS」を除いた全項目で、「ある程度信頼できていると思っている」が50%を上回った。また、「かなり信頼できている」と「ある程度信頼できている」を合計した《信頼できる》の割合は「ホームページ」、「ニュースサイト」、「生成AI」、「その他」が80%を上回った。

図表 89：インターネットにおける情報源の信頼度



※「ブログ」は回答者数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

① ホームページ

「ホームページ」について、性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、75歳～は「かなり信頼できている」の割合が13.0%と全体（7.0%）を6.0ポイント上回った。

図表 90：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [ホームページ]

		回答者数（n）	思 か つ た り 信 頼 で き る と	思 あ る 程 度 信 頼 で き る と	思 あ ま り 信 頼 で き な い と	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い と	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		302	7.0%	82.8%	9.3%	1.0%	89.7%	10.3%
性別	男性	158	5.7%	81.6%	11.4%	1.3%	87.3%	12.7%
	女性	144	8.3%	84.0%	6.9%	0.7%	92.4%	7.6%
年齢	55歳～64歳	102	6.9%	79.4%	11.8%	2.0%	86.3%	13.7%
	65歳～74歳	108	1.9%	86.1%	11.1%	0.9%	88.0%	12.0%
	75歳～	92	13.0%	82.6%	4.3%	-	95.7%	4.3%

② ニュースサイト

「ニュースサイト」について、性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、75歳～は《信頼できる》の割合が97.0%と全体（83.2%）を13.8ポイント上回った。

図表 91：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [ニュースサイト]

		回答者数（n）	思 か つ た り 信 頼 で き る と	思 あ る 程 度 信 頼 で き る と	思 あ ま り 信 頼 で き な い と	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い と	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		220	4.5%	78.6%	15.5%	1.4%	83.2%	16.8%
性別	男性	109	5.5%	76.1%	15.6%	2.8%	81.7%	18.3%
	女性	111	3.6%	81.1%	15.3%	-	84.7%	15.3%
年齢	55歳～64歳	75	1.3%	72.0%	24.0%	2.7%	73.3%	26.7%
	65歳～74歳	78	2.6%	78.2%	17.9%	1.3%	80.8%	19.2%
	75歳～	67	10.4%	86.6%	3.0%	-	97.0%	3.0%

③ 生成 AI

「生成 AI」について、性別に見ると、男性は「あまり信頼できないと思っている」の割合が 26.3%と全体（17.5%）を 8.8 ポイント上回った。

年齢別では回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 92：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [生成 AI]

		回答者数 (n)	か つ な り 信 頼 で き る と 思 っ て い る	あ る 程 度 信 頼 で き る と 思 っ て い る	あ ま り 信 頼 で き な い と 思 っ て い る	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い と 思 っ て い る	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		63	4.8%	77.8%	17.5%	-	82.5%	17.5%
性別	男性	38	7.9%	65.8%	26.3%	-	73.7%	26.3%
	女性	25	-	96.0%	4.0%	-	96.0%	4.0%
年齢	55歳～64歳	21	4.8%	71.4%	23.8%	-	76.2%	23.8%
	65歳～74歳	23	4.3%	73.9%	21.7%	-	78.3%	21.7%
	75歳～	19	5.3%	89.5%	5.3%	-	94.7%	5.3%

④ SNS

「SNS」について、性別に見ると、女性は「あまり信頼できないと思っている」の割合が 50.0%と全体（43.1%）を 6.9 ポイント上回った。

年齢別では回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 93：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [SNS]

		回答者数 (n)	か つ な り 信 頼 で き る と 思 っ て い る	あ る 程 度 信 頼 で き る と 思 っ て い る	あ ま り 信 頼 で き な い と 思 っ て い る	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い と 思 っ て い る	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		51	3.9%	49.0%	43.1%	3.9%	52.9%	47.1%
性別	男性	21	4.8%	61.9%	33.3%	-	66.7%	33.3%
	女性	30	3.3%	40.0%	50.0%	6.7%	43.3%	56.7%
年齢	55歳～64歳	19	-	36.8%	57.9%	5.3%	36.8%	63.2%
	65歳～74歳	16	12.5%	37.5%	43.8%	6.3%	50.0%	50.0%
	75歳～	16	-	75.0%	25.0%	-	75.0%	25.0%

⑤ 動画配信サービス

「動画配信サービス」については回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 94：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [動画配信サービス]

		回答者数 (n)	思 か つ つ て い る	思 あ る 程 度 信 頼 で き る と	思 あ ま り 信 頼 で き な い と	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		43	-	58.1%	41.9%	-	58.1%	41.9%
性別	男性	24	-	62.5%	37.5%	-	62.5%	37.5%
	女性	19	-	52.6%	47.4%	-	52.6%	47.4%
年齢	55歳～64歳	18	-	66.7%	33.3%	-	66.7%	33.3%
	65歳～74歳	9	-	33.3%	66.7%	-	33.3%	66.7%
	75歳～	16	-	62.5%	37.5%	-	62.5%	37.5%

⑥ ブログ

「ブログ」については回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 95：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [ブログ]

		回答者数 (n)	思 か つ つ て い る	思 あ る 程 度 信 頼 で き る と	思 あ ま り 信 頼 で き な い と	と ほ と ん ど 信 頼 で き な い	《 信 頼 で き る 》	《 信 頼 で き な い 》
全体		26	-	53.8%	46.2%	-	53.8%	46.2%
性別	男性	12	-	58.3%	41.7%	-	58.3%	41.7%
	女性	14	-	50.0%	50.0%	-	50.0%	50.0%
年齢	55歳～64歳	11	-	45.5%	54.5%	-	45.5%	54.5%
	65歳～74歳	5	-	100.0%	-	-	100.0%	-
	75歳～	10	-	40.0%	60.0%	-	40.0%	60.0%

⑦ その他

「その他」については回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 96：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源の信頼度 [その他]

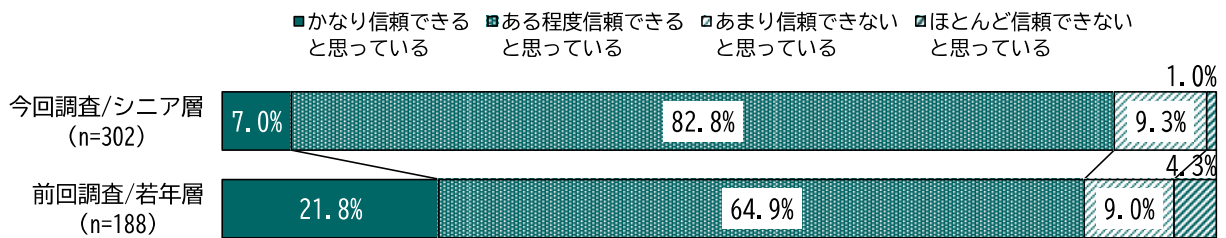
		回答者数 (n)	かなり信頼できると 思っている	ある程度信頼できると 思っている	あまり信頼できないと 思っている	ほとんど信頼できない と 思っている	《信頼できる》	《信頼できない》
全体		34	5.9%	85.3%	8.8%	-	91.2%	8.8%
性別	男性	16	12.5%	87.5%	-	-	100.0%	-
	女性	18	-	83.3%	16.7%	-	83.3%	16.7%
年齢	55歳～64歳	14	-	85.7%	14.3%	-	85.7%	14.3%
	65歳～74歳	13	7.7%	84.6%	7.7%	-	92.3%	7.7%
	75歳～	7	14.3%	85.7%	-	-	100.0%	-

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

① ホームページ

「ホームページ」について、前回（若年層）調査との比較では、「かなり信頼できている」の割合は前回調査（21.8%）より14.8ポイント低く、「ある程度信頼できている」の割合は前回調査（64.9%）より17.9ポイント高かった。

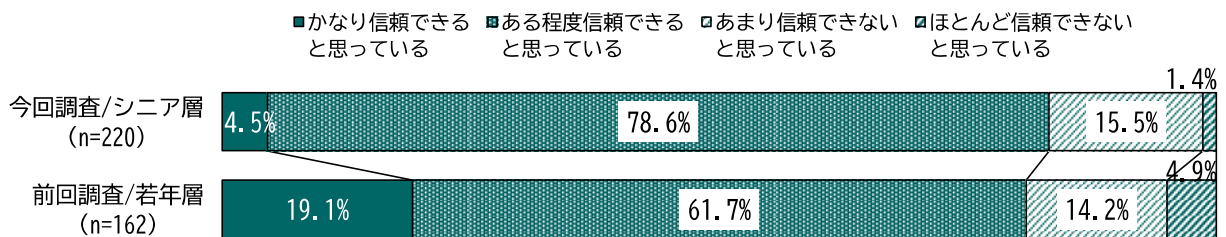
図表 97：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度 [ホームページ]



② ニュースサイト

「ニュースサイト」について、前回（若年層）調査との比較では、「かなり信頼できている」の割合は前回調査（19.1%）より14.6ポイント低く、「ある程度信頼できている」の割合は前回調査（61.7%）より16.9ポイント高かった。

図表 98：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度 [ニュースサイト]



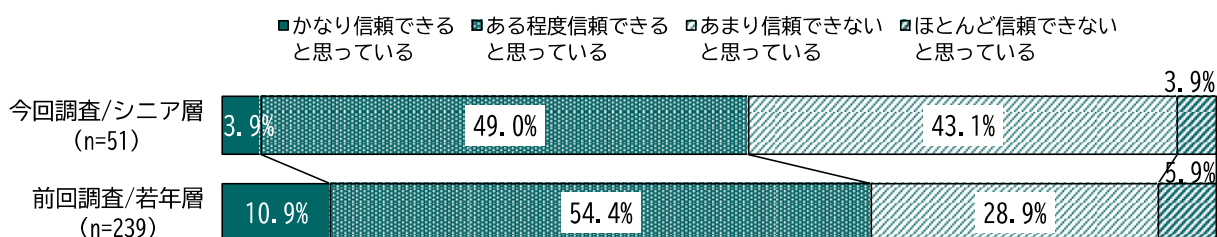
③ 生成 AI

「生成 AI」については、前回（若年層）調査では選択肢を設けていないため比較なし。

④ SNS

「SNS」について、前回（若年層）調査との比較では、「かなり信頼できている」、「ある程度信頼できている」の割合は前回調査（10.9%、54.4%）より5ポイント以上低く、「あまり信頼できないと思っている」の割合は前回調査（28.9%）より14.2ポイント高かった。

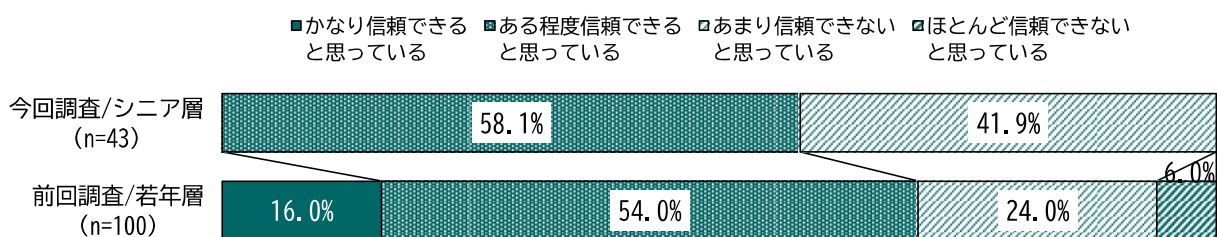
図表 99：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度 [SNS]



⑤ 動画配信サービス

「動画配信サービス」について、前回（若年層）調査との比較では、「かなり信頼できている」の割合は前回調査（16.0%）より16.0ポイント低く、「あまり信頼できないと思っている」の割合は前回調査（24.0%）より17.9ポイント高かった。

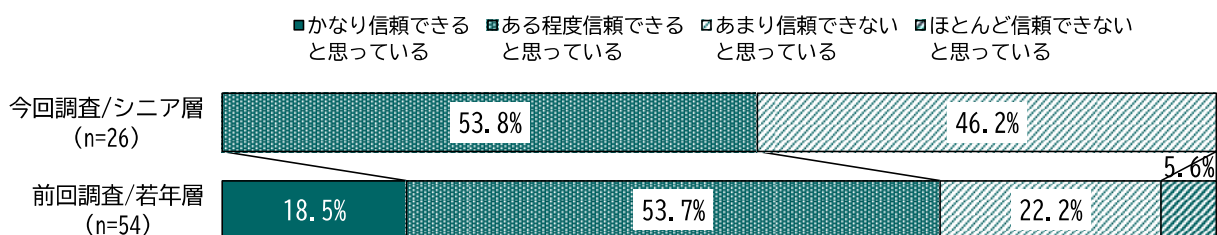
図表 100：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度 [動画配信サービス]



⑥ ブログ

「ブログ」については今回（シニア層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

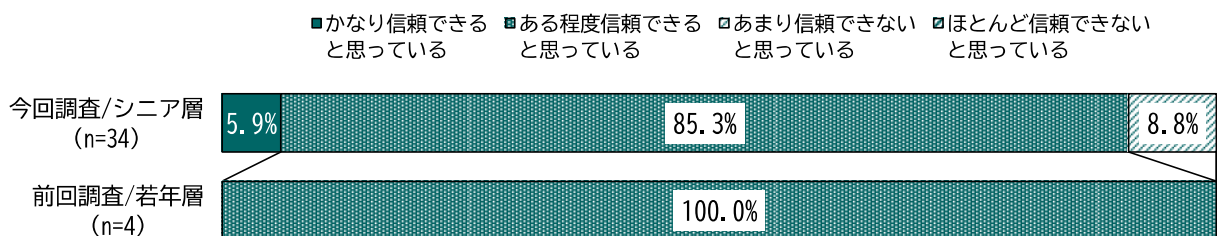
図表 101：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度【ブログ】



⑦ その他

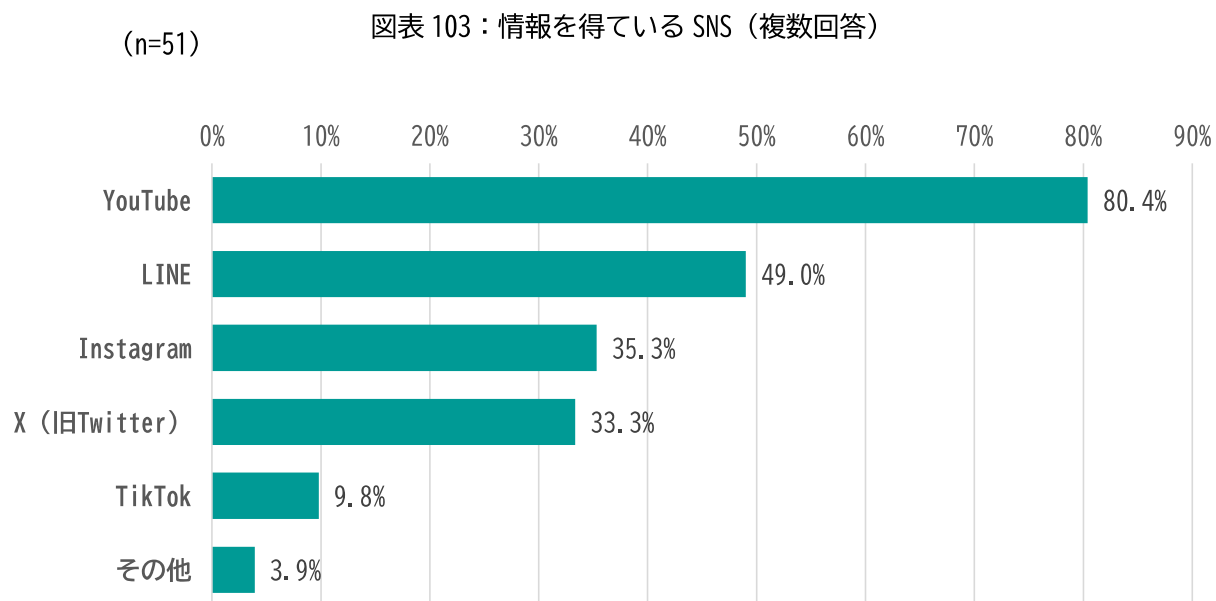
「その他」については前回（若年層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 102：【前回（若年層）調査比較】 インターネットにおける情報源の信頼度【その他】



Q25 Q23で「SNS」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どの媒体から情報を得ていますか。(複数回答)

インターネットにおける情報源として「SNS」と回答した方に、具体的な SNS の種類についてたずねたところ、「YouTube」が 80.4%と最も高く、次いで「LINE」が 49.0%、「Instagram」が 35.3%、「X (旧 Twitter)」が 33.3%と続いた。



性別に見ると、女性は「LINE」、「Instagram」の割合がそれぞれ56.7%、43.3%と全体（49.0%、35.3%）を5ポイント以上上回り、「TikTok」の割合が3.3%と全体（9.8%）を6.5ポイント下回った。

年齢別では回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 104：【性別・年齢別】 情報を得ている SNS（複数回答）

		回答者数 (n)	Y o u T u b e	L I N E	I n s t a g r a m	X (旧 T w i t t e r)	T i k T o k	そ の 他
全体		51	80.4%	49.0%	35.3%	33.3%	9.8%	3.9%
性別	男性	21	81.0%	38.1%	23.8%	38.1%	19.0%	4.8%
	女性	30	80.0%	56.7%	43.3%	30.0%	3.3%	3.3%
年齢	55歳～64歳	19	84.2%	42.1%	42.1%	36.8%	15.8%	5.3%
	65歳～74歳	16	87.5%	37.5%	31.3%	50.0%	6.3%	6.3%
	75歳～	16	68.8%	68.8%	31.3%	12.5%	6.3%	-

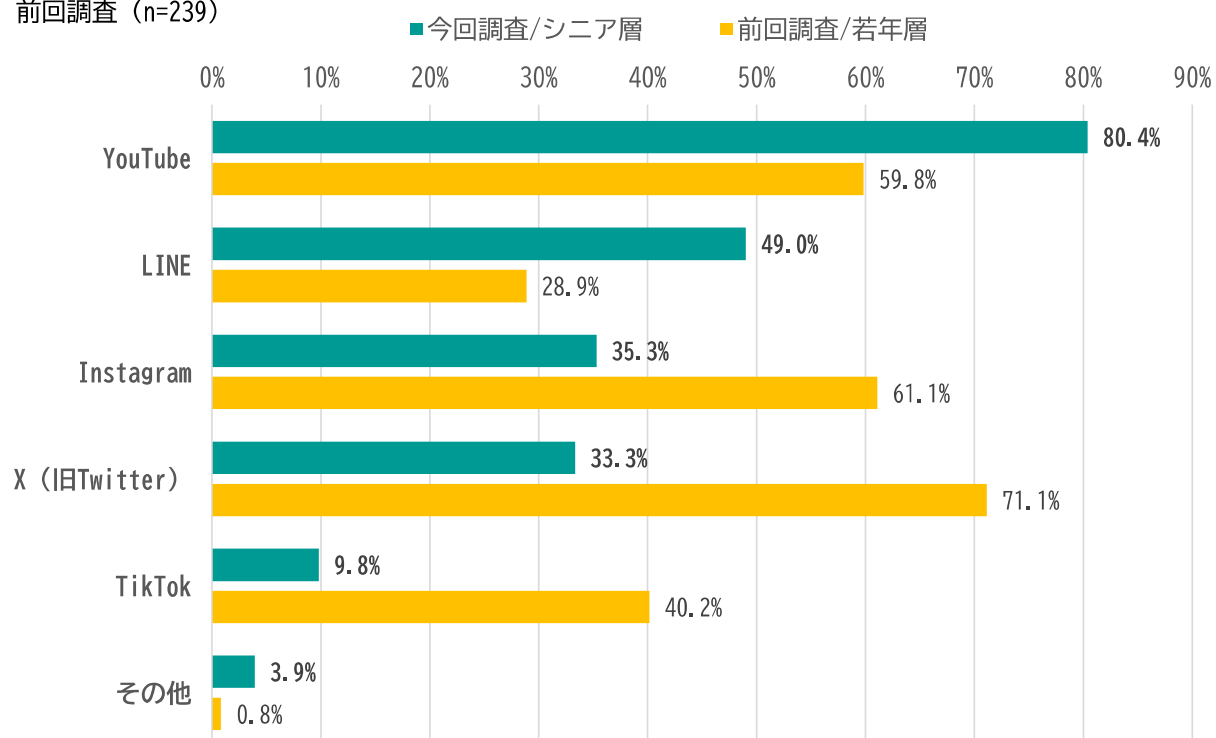
【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「YouTube」、「LINE」の割合は前回調査（59.8%、28.9%）より20ポイント以上高かった。一方、「Instagram」、「X（旧Twitter）」、「TikTok」の割合は前回調査（61.1%、71.1%、40.2%）より20ポイント以上低かった。

図表 105：【前回（若年層）調査比較】 情報を得ている SNS（複数回答）

今回調査（n=51）

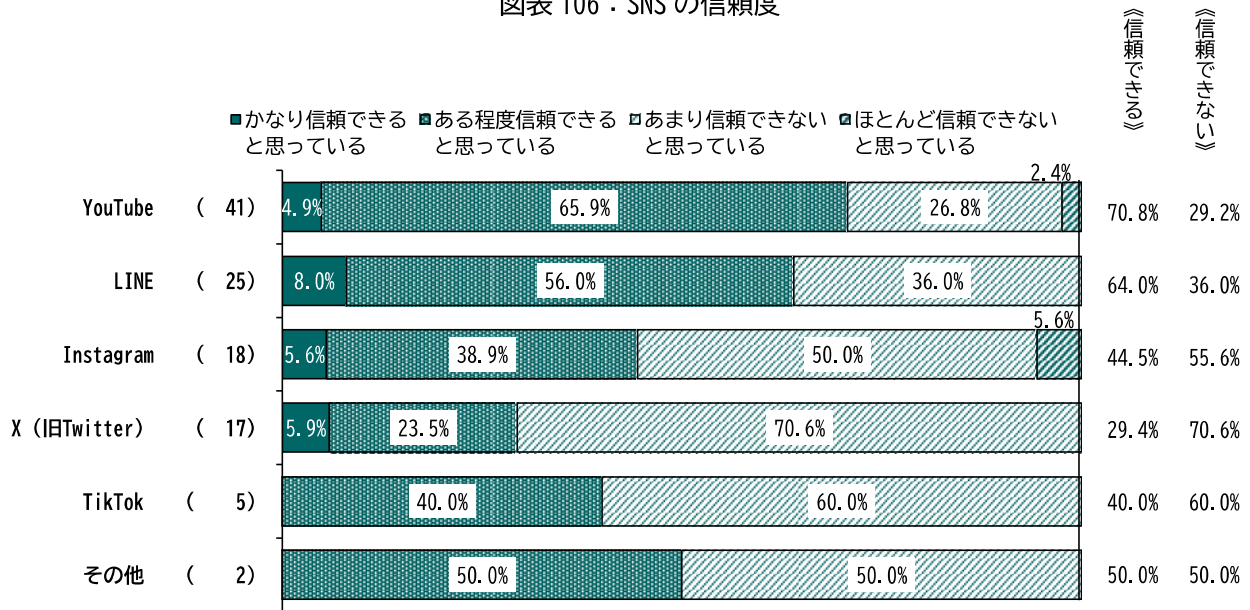
前回調査（n=239）



Q26 Q25で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

SNS から得られる情報の信頼度については、「YouTube」は「ある程度信頼できている」の割合が 65.9%と最も高く、「かなり信頼できている」と「ある程度信頼できている」を合計した《信頼できる》の割合は 70%を上回った。

図表 106：SNS の信頼度



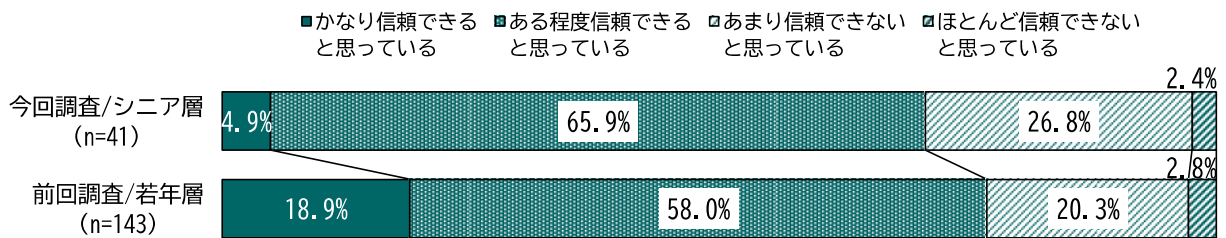
※「YouTube」以外は回答者数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

① YouTube

「YouTube」について、前回（若年層）調査との比較では、「かなり信頼できている」の割合は前回調査（18.9%）より14.0ポイント低く、「ある程度信頼できている」、「あまり信頼できないと思っている」、「ほとんど信頼できないと思っている」の割合は前回調査（58.0%、20.3%）より5ポイント以上高かった。

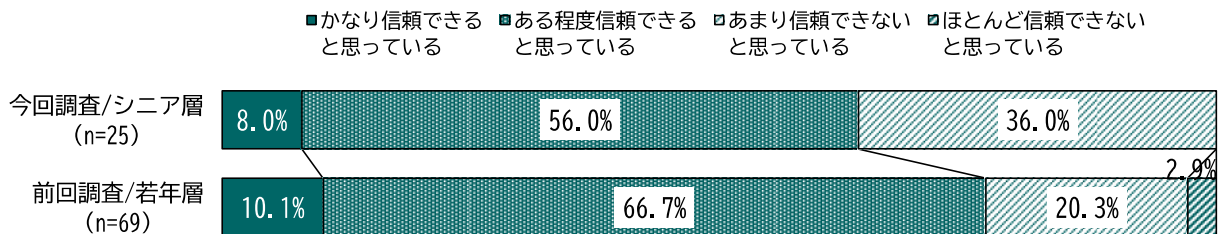
図表 107：【前回（若年層）調査比較】 SNS の信頼度 [YouTube]



② LINE

「LINE」については今回（シニア層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

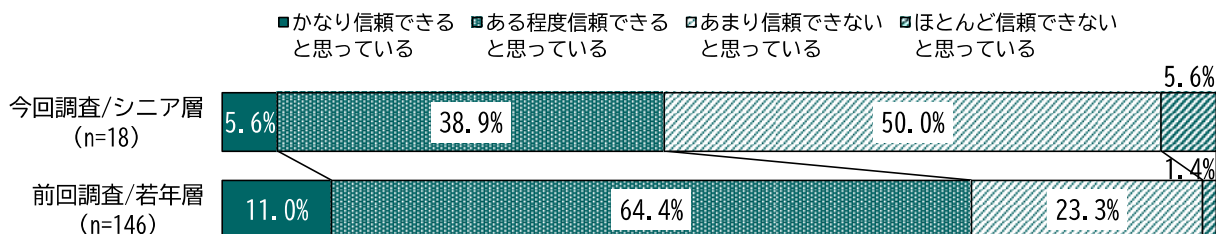
図表 108：【前回（若年層）調査比較】 SNS の信頼度 [LINE]



③ Instagram

「Instagram」については今回（シニア層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

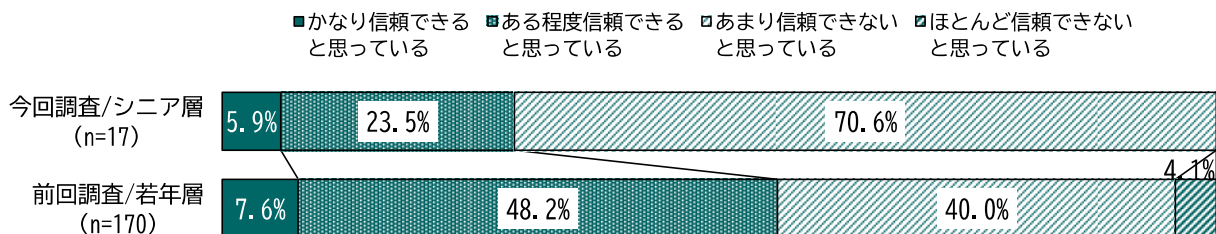
図表 109：【前回（若年層）調査比較】 SNS の信頼度 [Instagram]



④ X (旧 Twitter)

「X (旧 Twitter)」については今回（シニア層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

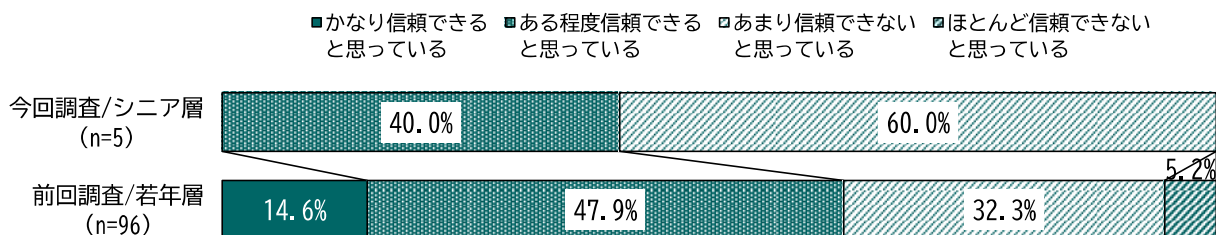
図表 110：【前回（若年層）調査比較】 SNS の信頼度 [X (旧 Twitter)]



⑤ TikTok

「TikTok」については今回（シニア層）調査の回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

図表 111：【前回（若年層）調査比較】 SNS の信頼度 [TikTok]

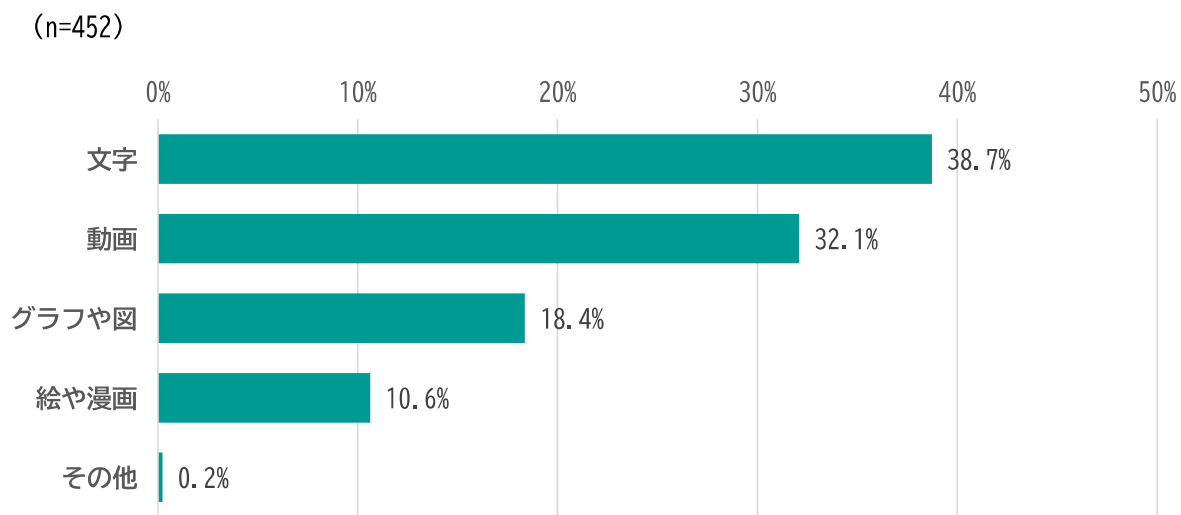


(3) わかりやすい情報提示方法

Q27 あなたが、何かを知るときに、どのように説明されていると最もわかりやすいと思いますか。

わかりやすい情報提示方法については、「文字」が38.7%と最も高く、次いで「動画」が32.1%、「グラフや図」が18.4%、「絵や漫画」が10.6%と続いた。

図表 113：わかりやすい情報提示方法



性別に見ると、「文字」、「動画」は男性より女性の方が5ポイント以上高く、「グラフや図」は女性よりも男性の方が8.6ポイント高くなった。

年齢別に見ると、「絵や漫画」の割合は年齢が上がるほど低く、75歳～は5.5%と全体（10.6%）を5.1ポイント下回った。

図表 114：【性別・年齢別】 わかりやすい情報提示方法

		回答者数 (n)	文字	動画	グラフや図	絵や漫画	その他
全体		452	38.7%	32.1%	18.4%	10.6%	0.2%
性別	男性	230	36.1%	29.1%	22.6%	12.2%	-
	女性	222	41.4%	35.1%	14.0%	9.0%	0.5%
年齢	55歳～64歳	153	34.6%	28.1%	20.9%	16.3%	-
	65歳～74歳	154	40.9%	33.8%	14.9%	9.7%	0.6%
	75歳～	145	40.7%	34.5%	19.3%	5.5%	-

Q23 のインターネットにおける情報源別に見ると、「動画」は「SNS」、「動画配信サービス」を利用している人、「Q22 インターネット非選択者」がそれぞれ全体（32.1%）を5ポイント以上上回った。一方、「文字」は「SNS」、「動画配信サービス」を利用している人、「Q22 インターネット非選択者」がそれぞれ全体（38.7%）を5ポイント以上下回った。

図表 115：【インターネットにおける情報源別】 わかりやすい情報提示方法

		回答者数 (n)	文字	動画	グラフや図	絵や漫画	その他
全体		452	38.7%	32.1%	18.4%	10.6%	0.2%
インターネット における情報 源別に	ホームページ	302	38.4%	31.1%	19.9%	10.6%	-
	ブログ	26	42.3%	26.9%	23.1%	7.7%	-
	ニュースサイト	220	40.0%	30.0%	19.1%	10.9%	-
	SNS	51	33.3%	43.1%	15.7%	5.9%	2.0%
	動画配信サービス	43	11.6%	65.1%	16.3%	7.0%	-
	生成A I	63	39.7%	31.7%	22.2%	6.3%	-
	その他	34	41.2%	20.6%	26.5%	11.8%	-
Q22 インターネット非選択者		34	32.4%	41.2%	8.8%	17.6%	-

Q25 の情報を得ている SNS 別に見ると、「YouTube」を利用している人は「動画」が 48.8%と全体（32.1%）を 16.7ポイント上回り、「文字」、「グラフや図」がそれぞれ 31.7%、12.2%と全体（38.7%、18.4%）を5ポイント以上下回った。

図表 116：【情報を得ている SNS 別】 わかりやすい情報提示方法

		回答者数 (n)	文字	動画	グラフや図	絵や漫画	その他
全体		452	38.7%	32.1%	18.4%	10.6%	0.2%
SNSを 得て いる	YouTube	41	31.7%	48.8%	12.2%	7.3%	-
	TikTok	5	20.0%	60.0%	-	20.0%	-
	LINE	25	36.0%	44.0%	12.0%	8.0%	-
	X (旧Twitter)	17	35.3%	47.1%	5.9%	11.8%	-
	Instagram	18	33.3%	50.0%	11.1%	5.6%	-
	その他	2	-	-	50.0%	-	50.0%
Q23 SNS非選択者		367	40.1%	29.7%	19.6%	10.6%	-

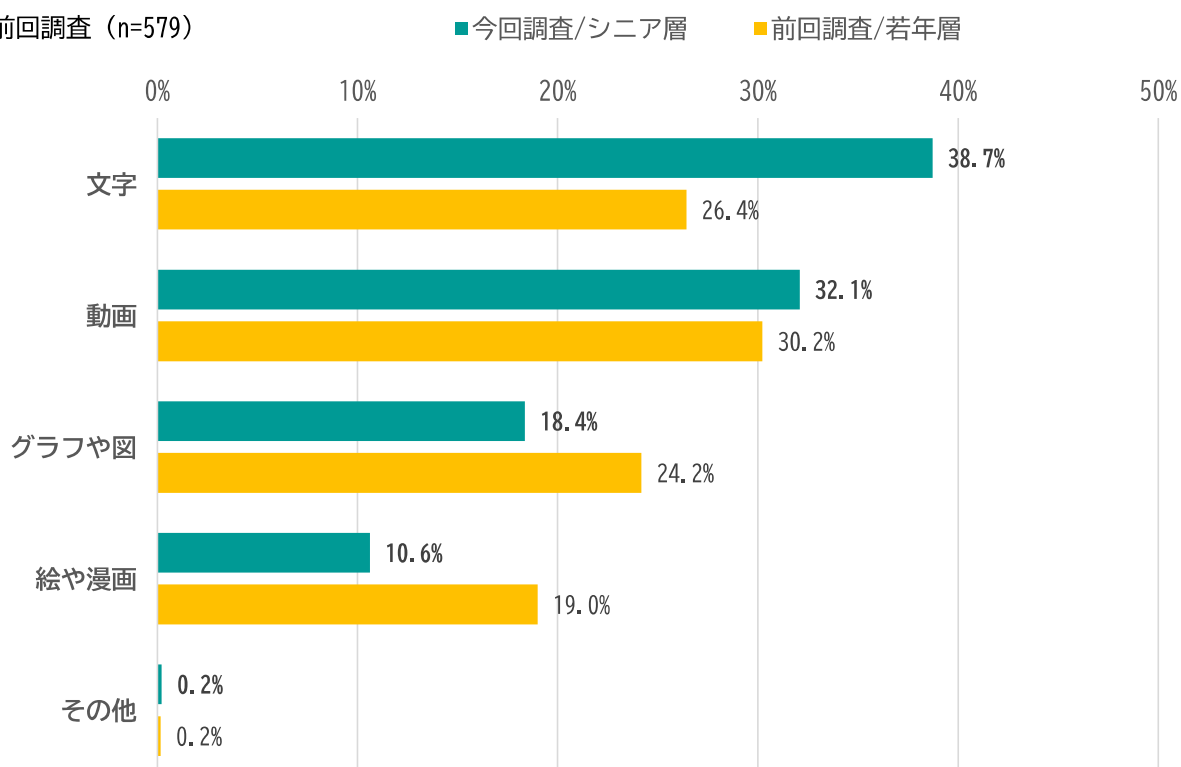
【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「文字」の割合は前回調査（26.4%）より12.3ポイント高かった。一方、「グラフや図」、「絵や漫画」の割合は前回調査（24.2%、19.0%）より5ポイント以上低かった。

図表 117：【前回（若年層）調査比較】わかりやすい情報提示方法

今回調査（n=452）

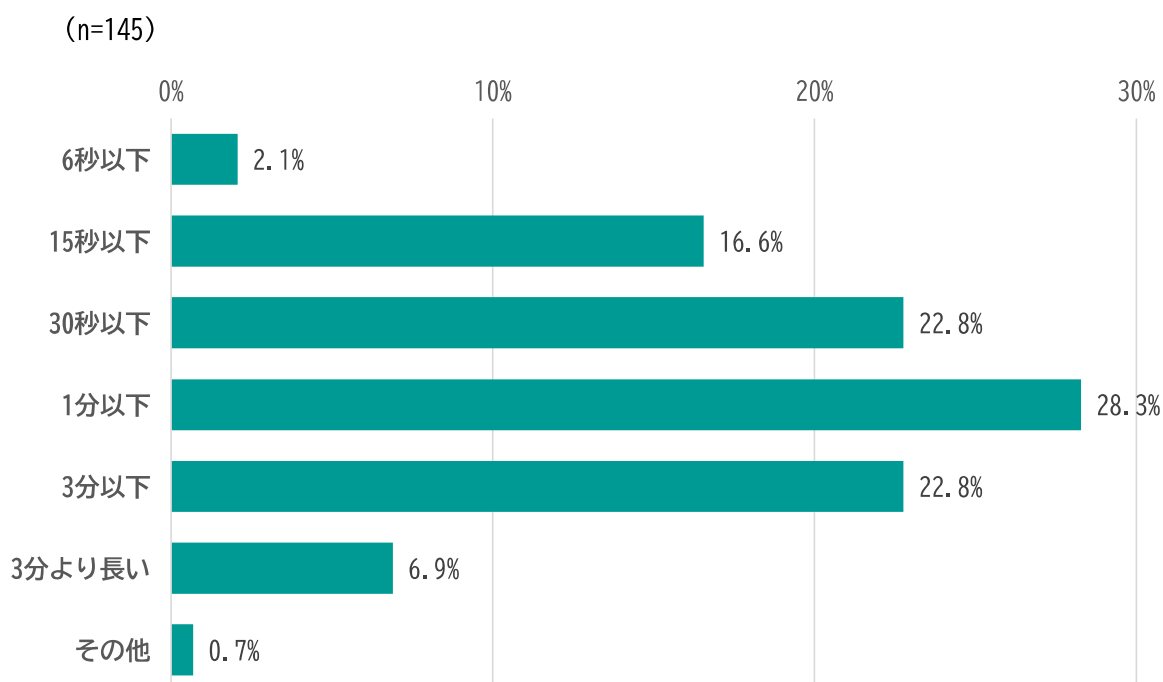
前回調査（n=579）



Q28 Q27で「動画」と回答した方にうかがいます。
どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思いますか。

わかりやすい情報提示方法として「動画」と回答した人に、どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思うかたずねたところ、「1分以下」が28.3%と最も高く、次いで「30秒以下」、「3分以下」が各22.8%、「15秒以下」が16.6%と続いた。

図表 118：最後まで見ようと思う動画の長さ



性別に見ると、「15秒以下」の割合は男性よりも女性の方が5.8ポイント高くなり、「1分以下」の割合は女性よりも男性の方が8.4ポイント高くなった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「30秒以下」の割合が30.2%と全体（22.8%）を7.4ポイント上回った。また、75歳～は「1分以下」の割合が38.0%と全体（28.3%）を9.7ポイント上回った。

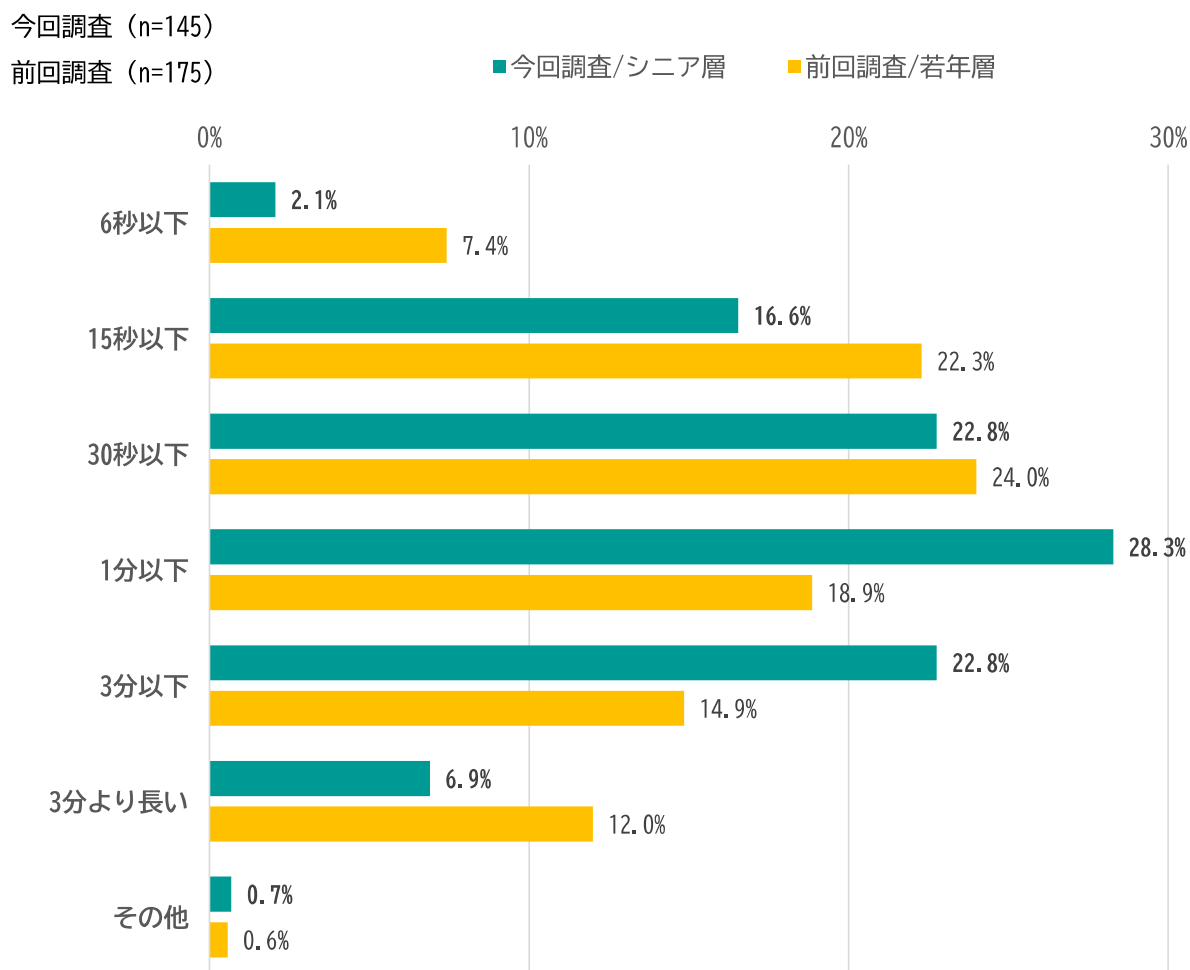
図表 119：【性別・年齢別】最後まで見ようと思う動画の長さ

		回答者数 (n)	6秒以下	15秒以下	30秒以下	1分以下	3分以下	3分より長い	その他
全体		145	2.1%	16.6%	22.8%	28.3%	22.8%	6.9%	0.7%
性別	男性	67	1.5%	13.4%	20.9%	32.8%	22.4%	7.5%	1.5%
	女性	78	2.6%	19.2%	24.4%	24.4%	23.1%	6.4%	-
年齢	55歳～64歳	43	-	14.0%	30.2%	30.2%	20.9%	4.7%	-
	65歳～74歳	52	5.8%	21.2%	23.1%	17.3%	23.1%	7.7%	1.9%
	75歳～	50	-	14.0%	16.0%	38.0%	24.0%	8.0%	-

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「1分以下」、「3分以下」の割合は前回調査（18.9%、14.9%）より5ポイント以上高かった。一方、「6秒以下」、「15秒以下」、「3分より長い」の割合は前回調査（7.4%、22.3%、12.0%）より5ポイント以上低かった。

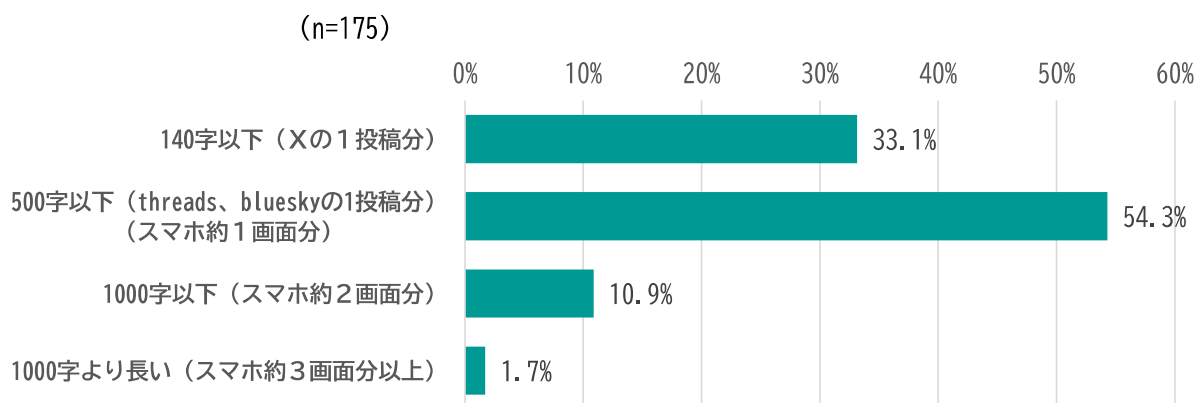
図表 120：【前回（若年層）調査比較】最後まで見ようと思う動画の長さ



Q29 Q27で「文字」と回答した方にうかがいます。
何文字くらいが良いですか？

わかりやすい情報提示方法として「文字」と回答した人に、適切な文字数についてたずねたところ、「500字以下（Threads、Blueskyの1投稿分）（スマホ約1画面分）」が54.3%と最も高く、次いで「140字以下（Xの1投稿分）」が33.1%、「1000字以下（スマホ約2画面分）」が10.9%、「1000字より長い（スマホ約3画面分以上）」が1.7%と続いた。

図表 121：適切な文字数



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「500字以下（threads、blueskyの1投稿分）（スマホ約1画面分）」の割合が49.1%と全体（54.3%）を5.2ポイント下回った。また、75歳～は「140字以下（Xの1投稿分）」の割合が39.0%と全体（33.1%）を5.9ポイント上回り、「1000字以下（スマホ約2画面分）」の割合が3.4%と全体（10.9%）を7.5ポイント下回った。

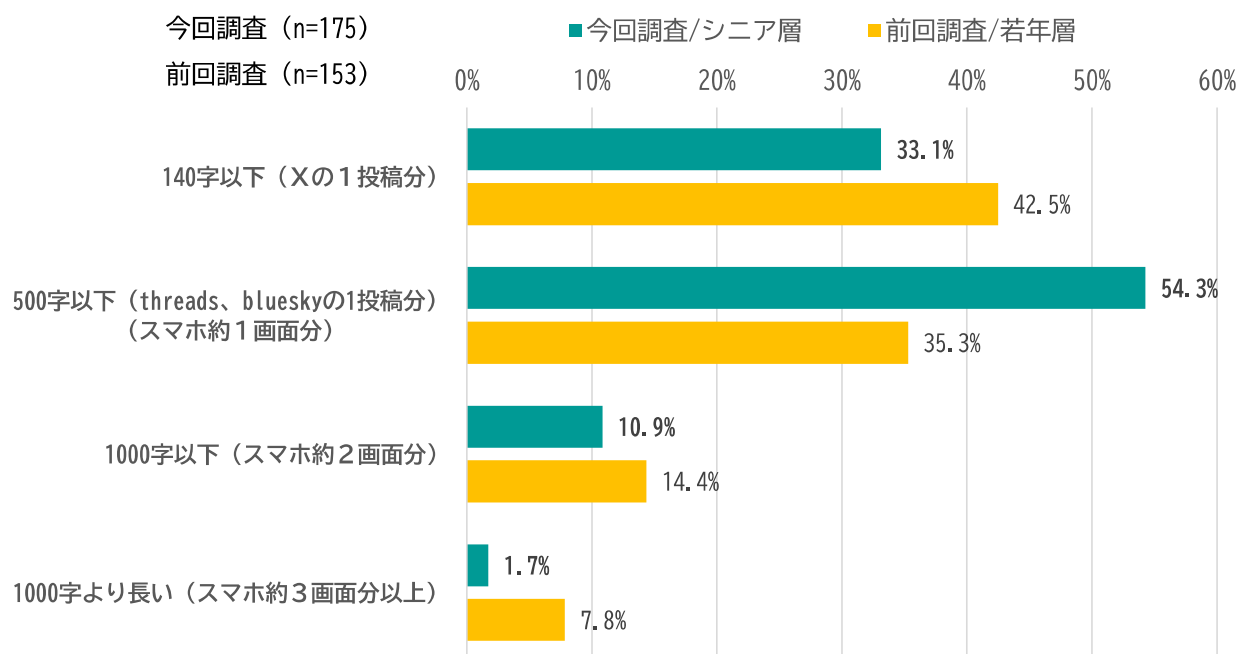
図表 122：【性別・年齢別】 適切な文字数

		回答者数 (n)	140字以下 (Xの1投稿分)	500字以下 (threads、blueskyの1投稿分)	1000字以下 (スマホ約2画面分)	1000字より長い (スマホ約3画面分以上)
全体		175	33.1%	54.3%	10.9%	1.7%
性別	男性	83	32.5%	54.2%	12.0%	1.2%
	女性	92	33.7%	54.3%	9.8%	2.2%
年齢	55歳～64歳	53	32.1%	49.1%	15.1%	3.8%
	65歳～74歳	63	28.6%	55.6%	14.3%	1.6%
	75歳～	59	39.0%	57.6%	3.4%	-

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「500字以下（threads、blueskyの1投稿分）（スマホ約1画面分）」の割合は前回調査（35.3%）より19.0ポイント高かった。一方、「140字以下（Xの1投稿分）」、「1000字より長い（スマホ約3画面分以上）」の割合は前回調査（42.5%、7.8%）より5ポイント以上低かった。

図表 123：【前回（若年層）調査比較】適切な文字数

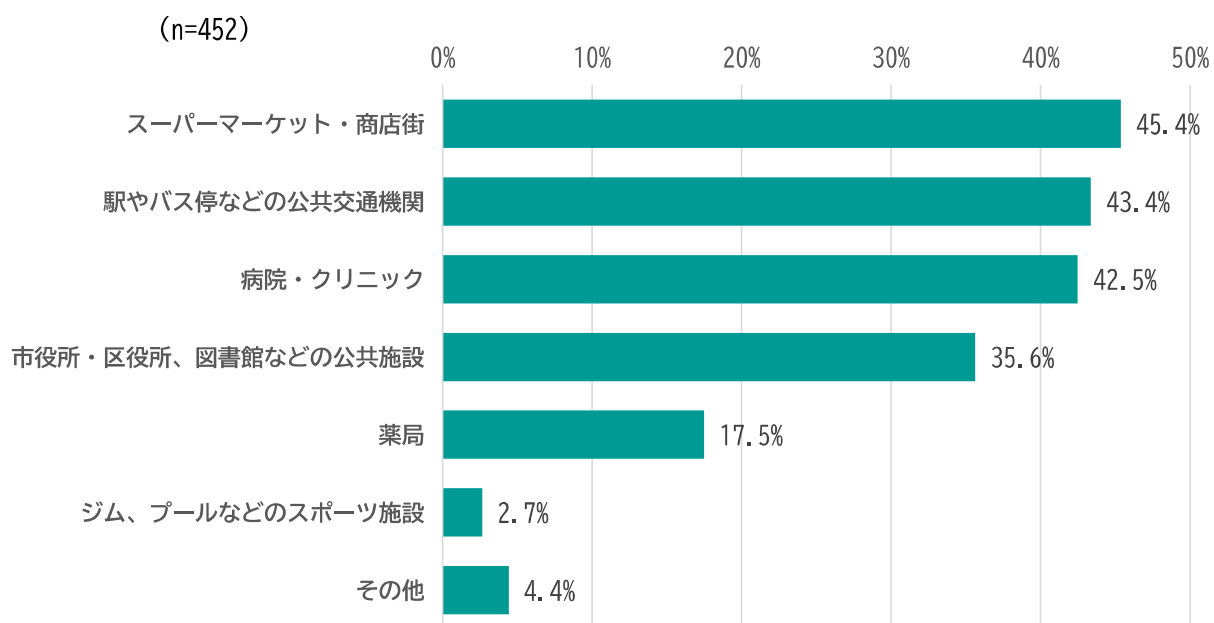


(4) ポスターやリーフレットをよく目にする場所

Q30 ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所はどこですか。
(最大3つまで)

ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所は、「スーパーマーケット・商店街」が45.4%と最も高く、次いで「駅やバス停などの公共交通機関」が43.4%、「病院・クリニック」が42.5%、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」が35.6%と続いた。

図表 124：ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）



性別に見ると、「スーパーマーケット・商店街」、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」の割合は、男性よりも女性の方が5ポイント以上高かった。

年齢別に見ると、75歳～は「病院・クリニック」、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」、「薬局」の3項目が全体（42.5%、35.6%、17.5%）を5ポイント以上上回った。

図表 125：【性別・年齢別】ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）

		回答者数（n）	スーパーマーケット・商店街	駅やバス停などの公共交通機関	病院・クリニック	市役所・区役所、図書館などの公共施設	薬局	ジム、プールなどのスポーツ施設	その他
全体		452	45.4%	43.4%	42.5%	35.6%	17.5%	2.7%	4.4%
性別	男性	230	41.3%	44.3%	40.4%	31.3%	16.5%	2.2%	6.1%
	女性	222	49.5%	42.3%	44.6%	40.1%	18.5%	3.2%	2.7%
年齢	55歳～64歳	153	45.1%	43.8%	35.3%	36.6%	11.8%	2.0%	5.2%
	65歳～74歳	154	44.2%	44.2%	37.7%	28.6%	17.5%	1.9%	5.2%
	75歳～	145	46.9%	42.1%	55.2%	42.1%	23.4%	4.1%	2.8%

Q5の活動状況別に見ると、「いいえ（週2回以上活動していない）」の人は「駅やバス停などの公共交通機関」、「病院・クリニック」、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」の3項目がそれぞれ全体（43.4%、42.5%、35.6%）を5ポイント以上下回った。

図表 126：【活動状況別】ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）

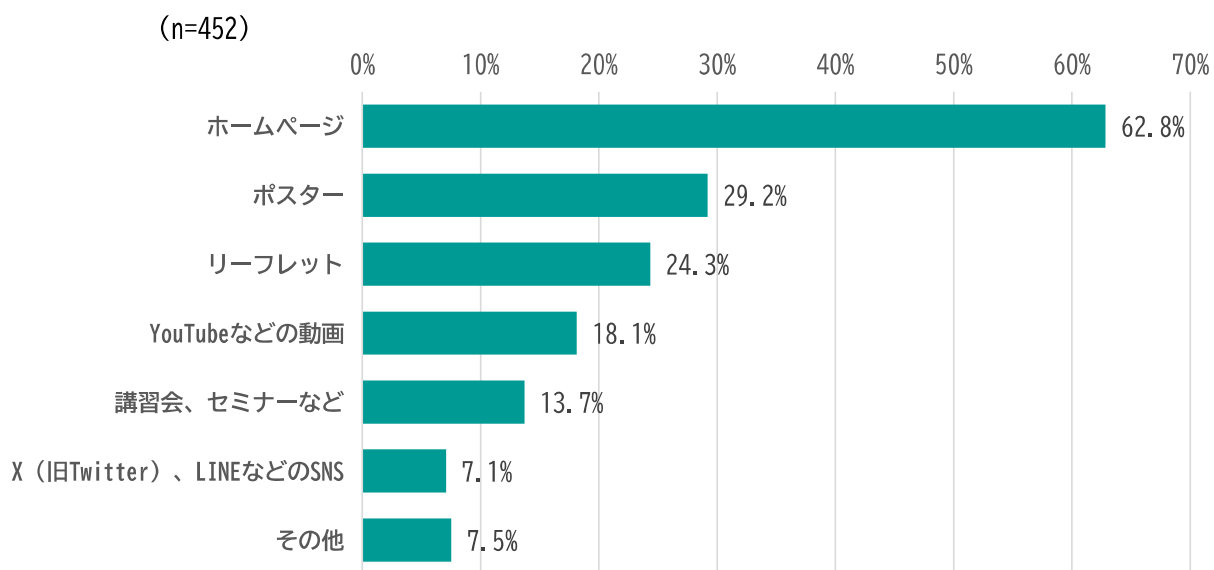
		回答者数（n）	スーパーマーケット・商店街	駅やバス停などの公共交通機関	病院・クリニック	市役所・区役所、図書館などの公共施設	薬局	ジム、プールなどの施設	その他
全体		452	45.4%	43.4%	42.5%	35.6%	17.5%	2.7%	4.4%
週2回以上の活動の有無	はい	313	44.4%	46.3%	44.7%	40.6%	18.5%	3.5%	3.5%
	いいえ	139	47.5%	36.7%	37.4%	24.5%	15.1%	0.7%	6.5%

(5) 食品安全に関し、特に関心を持てる情報源

Q31 食品の安全性に関する情報について、どこで見たり聞いたりすると「もっと知りたい」と思いますか？あなたが特に関心を持てる情報源を選んでください。(最大3つまで)

食品安全に関する情報について、特に関心を持てる情報源は、「ホームページ」が62.8%と最も高く、次いで「ポスター」が29.2%、「リーフレット」が24.3%、「YouTubeなどの動画」が18.1%と続いた。

図表 127：食品安全に関し、特に関心を持てる情報源（3つまで）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「講習会、セミナーなど」の割合が5.9%と全体（13.7%）を7.8ポイント下回った。65歳～74歳は「ホームページ」の割合が56.5%と全体（62.8%）を6.3ポイント下回った。75歳～は「ホームページ」、「ポスター」、「リーフレット」、「講習会、セミナーなど」の4項目が全体を5ポイント以上上回った。

図表 128：【性別・年齢別】 食品安全に関し、特に関心を持てる情報源（3つまで）

		回答者数 (n)	ホームページ	ポスター	リーフレット	YouTubeなどの動画	講習会、セミナーなど	LINE(旧Twitter)などのSNS	その他
全体		452	62.8%	29.2%	24.3%	18.1%	13.7%	7.1%	7.5%
性別	男性	230	66.1%	30.0%	25.7%	18.7%	12.2%	4.8%	8.3%
	女性	222	59.5%	28.4%	23.0%	17.6%	15.3%	9.5%	6.8%
年齢	55歳～64歳	153	64.1%	28.1%	20.3%	18.3%	5.9%	8.5%	7.8%
	65歳～74歳	154	56.5%	25.3%	23.4%	18.8%	13.6%	6.5%	11.0%
	75歳～	145	68.3%	34.5%	29.7%	17.2%	22.1%	6.2%	3.4%

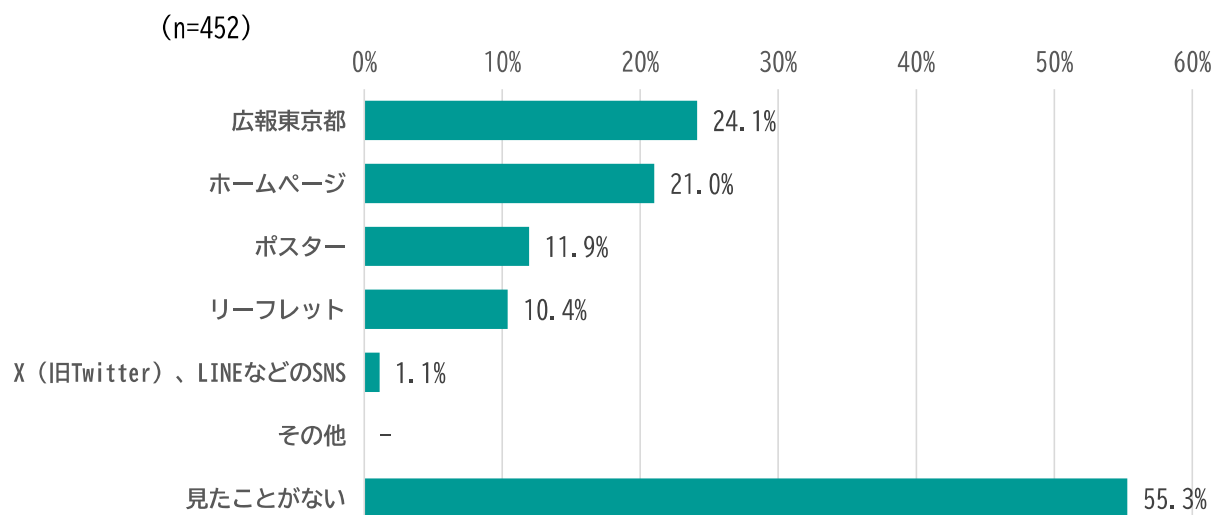
6 東京都の食品安全に関する情報発信について

(1) 東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの

Q32 東京都が発信する食品の安全性に関する情報について、見たことがあるものはありますか。(複数回答)

東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるものについては、「広報東京都」が24.1%と最も高く、次いで「ホームページ」が21.0%、「ポスター」が11.9%、「リーフレット」が10.4%と続いた。一方、「見たことがない」は55.3%であった。

図表 129：東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「広報東京都」の割合が13.1%と全体（24.1%）を11.0ポイント下回り、「見たことがない」の割合が60.8%と全体（55.3%）を5.5ポイント上回った。また、75歳～は「広報東京都」、「ホームページ」の割合がそれぞれ31.0%、26.2%と全体（24.1%、21.0%）を5ポイント以上上回り、「見たことがない」の割合が47.6%と全体（55.3%）を7.7ポイント下回った。

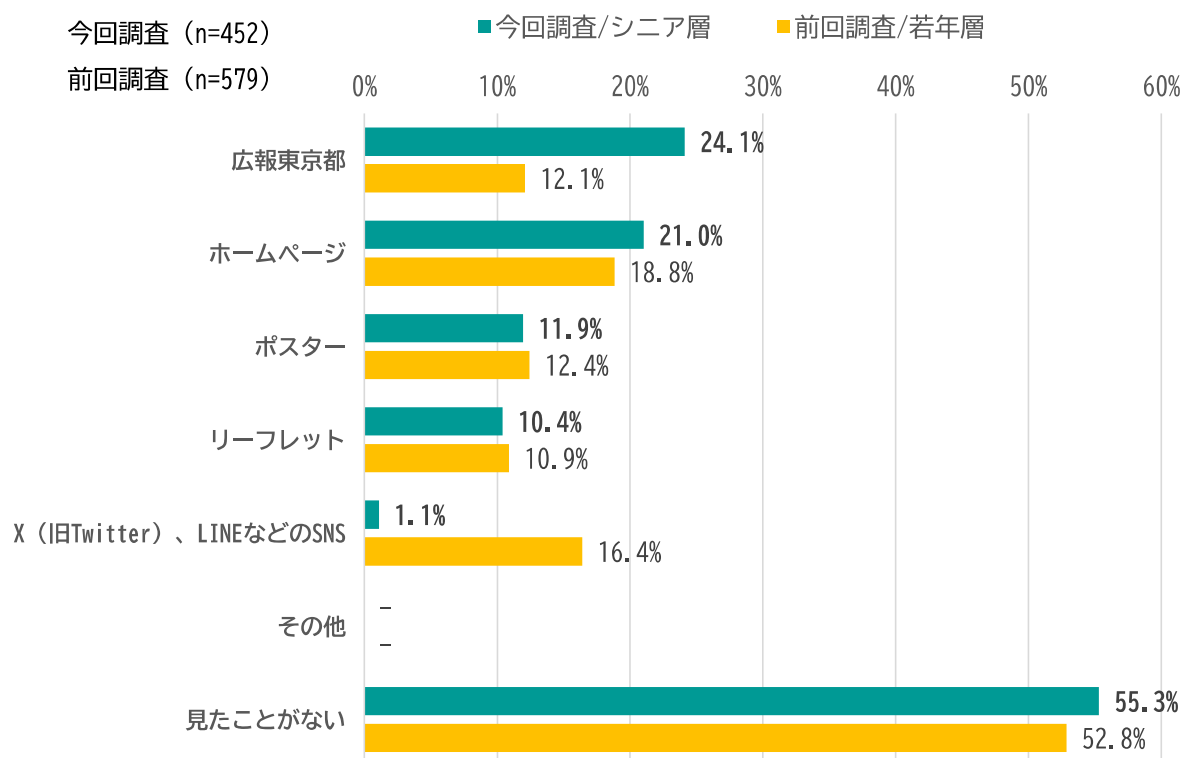
図表 130：【性別・年齢別】 東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）

		回答者数（n）	広報東京都	ホームページ	ポスター	リーフレット	L X（旧Twitter） LINEなどのSNS	その他	見たことがない
全体		452	24.1%	21.0%	11.9%	10.4%	1.1%	-	55.3%
性別	男性	230	21.7%	22.2%	14.8%	10.4%	0.9%	-	57.8%
	女性	222	26.6%	19.8%	9.0%	10.4%	1.4%	-	52.7%
年齢	55歳～64歳	153	13.1%	19.0%	11.8%	11.8%	2.0%	-	60.8%
	65歳～74歳	154	28.6%	18.2%	9.1%	8.4%	0.6%	-	57.1%
	75歳～	145	31.0%	26.2%	15.2%	11.0%	0.7%	-	47.6%

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「広報東京都」の割合は前回調査（12.1%）より12.0ポイント高かった。一方、「X（旧Twitter）、LINEなどのSNS」の割合は前回調査（16.4%）より15.3ポイント低かった。

図表 131：【前回（若年層）調査比較】
東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）

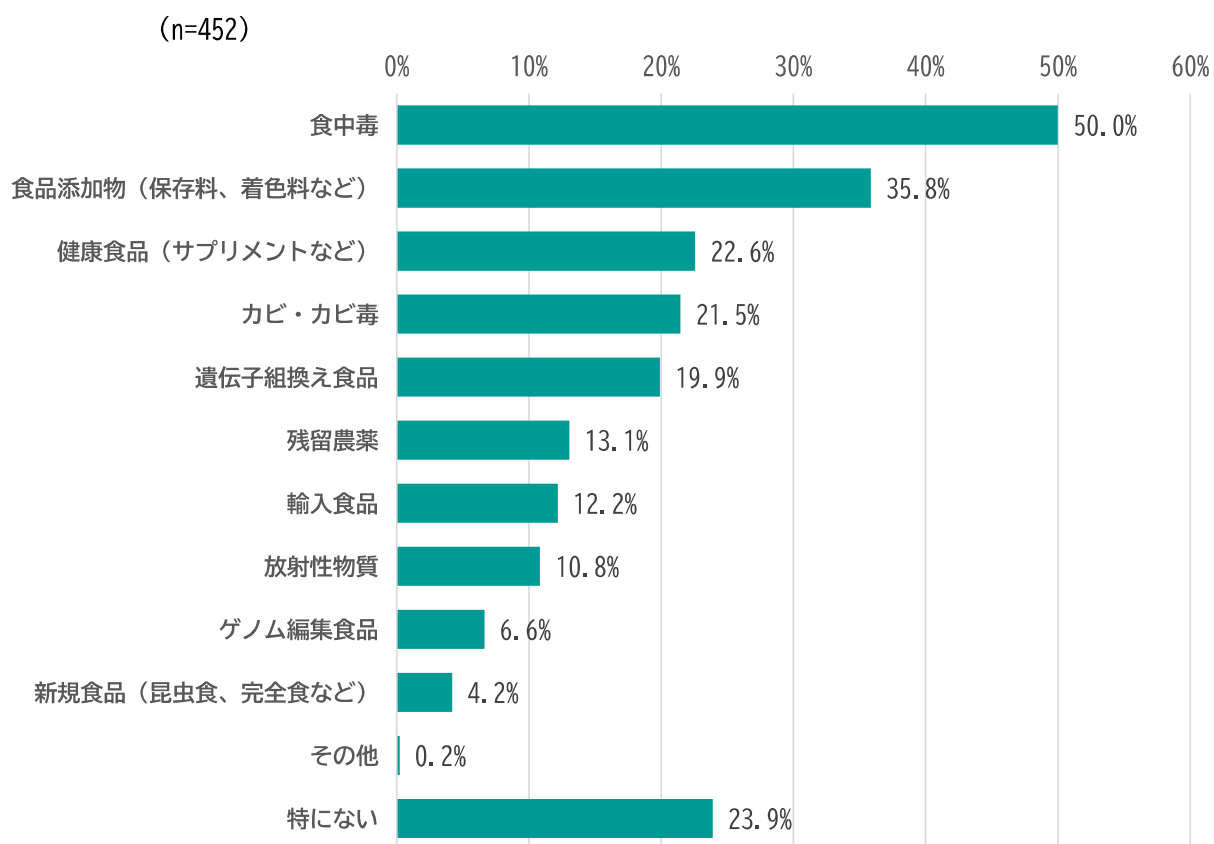


(2) 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの

Q33 食品の安全性に関することで、東京都のホームページやSNSに掲載していたらよいと思うものは何ですか。(最大3つまで)

食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うものについては、「食中毒」が50.0%と最も高く、次いで「食品添加物（保存料、着色料など）」が35.8%、「健康食品（サプリメントなど）」が22.6%、「カビ・カビ毒」が21.5%と続いた。一方、「特にない」は23.9%であった。

図表 132：食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、75歳～は「食中毒」、「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合がそれぞれ60.0%、44.1%と全体（50.0%、35.8%）を5ポイント以上上回り、「特にない」の割合が17.2%と全体（23.9%）を6.7ポイント下回った。

図表 133：【性別・年齢別】 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）

		回答者数（n）	食中毒	食品添加物（保存料、着色料など）	健康食品（サプリメントなど）	カビ・カビ毒	遺伝子組換え食品	残留農薬	輸入食品	放射性物質	ゲノム編集食品	新規食品（昆虫食、完全食など）	その他	特にない
全体		452	50.0%	35.8%	22.6%	21.5%	19.9%	13.1%	12.2%	10.8%	6.6%	4.2%	0.2%	23.9%
性別	男性	230	52.2%	32.2%	24.3%	23.5%	18.3%	11.7%	7.8%	8.3%	7.4%	4.3%	0.4%	24.8%
	女性	222	47.7%	39.6%	20.7%	19.4%	21.6%	14.4%	16.7%	13.5%	5.9%	4.1%	-	23.0%
年齢	55歳～64歳	153	45.8%	28.8%	20.3%	20.9%	17.6%	9.2%	13.7%	11.8%	9.8%	2.0%	0.7%	28.8%
	65歳～74歳	154	44.8%	35.1%	23.4%	20.1%	21.4%	13.0%	11.7%	9.1%	4.5%	6.5%	-	25.3%
	75歳～	145	60.0%	44.1%	24.1%	23.4%	20.7%	17.2%	11.0%	11.7%	5.5%	4.1%	-	17.2%

Q13 の食中毒予防についての認知経路別に見ると、食中毒予防について「祖父母又は親から教わった」人は「食中毒」、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「カビ・カビ毒」の3項目が全体（50.0%、35.8%、21.5%）を10ポイント以上上回った。一方、「習っていない」人は「特にない」の割合が35.7%と全体（23.9%）を11.8ポイント上回った。

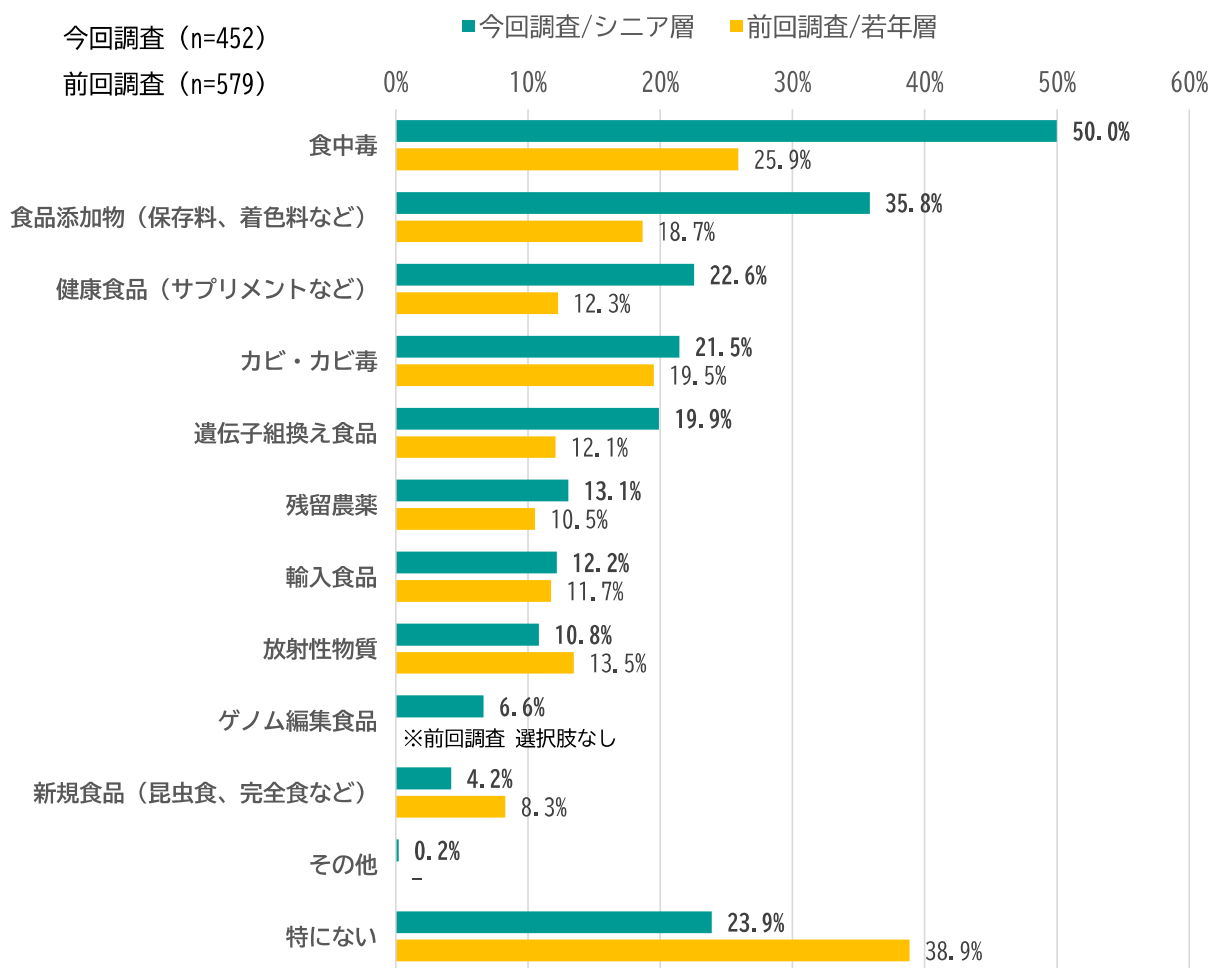
図表 134：【食中毒予防の認知経路別】 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）

	回答者数（n）	食中毒	食品添加物（保存料、着色料など）	健康食品（サプリメントなど）	カビ・カビ毒	遺伝子組換え食品	残留農薬	輸入食品	放射性物質	ゲノム編集食品	新規食品（昆虫食、完全食など）	その他	特にない	
全体	452	50.0%	35.8%	22.6%	21.5%	19.9%	13.1%	12.2%	10.8%	6.6%	4.2%	0.2%	23.9%	
食中毒予防についての認知経路について	学校で習った	114	58.8%	43.9%	24.6%	26.3%	26.3%	14.0%	14.0%	14.0%	7.9%	4.4%	-	14.9%
	祖父母又は親から教わった	88	65.9%	53.4%	28.4%	31.8%	28.4%	22.7%	13.6%	19.3%	8.0%	3.4%	-	3.4%
	兄弟・子どもから教わった	8	87.5%	50.0%	62.5%	37.5%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	-	-	-	-
	友人から教わった	18	83.3%	50.0%	44.4%	27.8%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	-	-	-	-
	その他	40	57.5%	32.5%	17.5%	42.5%	20.0%	10.0%	15.0%	15.0%	2.5%	7.5%	2.5%	20.0%
	覚えていない	137	45.3%	33.6%	21.2%	19.0%	18.2%	11.7%	12.4%	10.9%	6.6%	3.6%	-	27.0%
	習っていない	129	41.9%	31.0%	16.3%	13.2%	14.0%	11.6%	10.9%	5.4%	7.0%	3.9%	-	35.7%

【前回調査（令和6年12月実施「若年層の食品安全に関する意識調査」）との比較】

前回（若年層）調査との比較では、「食中毒」、「食品添加物（保存料、着色料など）」、「健康食品（サプリメントなど）」の割合は前回調査より10ポイント以上高かった。一方、「特にない」の割合は前回調査（38.9%）より15.0ポイント低かった。

図表 135：【前回（若年層）調査比較】 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）



7 自由記述

Q34 最近見た国や都道府県、区市町村の広告などについて、印象に残ったものがあれば教えてください。(自由にご記入ください)

記述内容
東京アプリ
東京アプリ
東京アプリ
東京都アプリ
東京アプリの11,000円分ポイント
東京都アプリ Q助
東京公式アプリを見てお得だからダウンロードしようと思った
東京アプリに関する情報が分からないことが多い。
東京都の東京ポイント。沢山のポイントが貰えて、興味がある
東京都のマイナカード登録によるポイント付与
東京ゼロエミポイント
東京都の広報は補助金など参考になる
東京都のハザードマップ
東京都の4月からの自転車などでの道路交通法改正についてネット情報にはあるが広報にはなく気になった
東京都港区いきいきプラザ(5地区)における各活動の中でのチラシパンフなどの広報
東京マラソンの子ども食堂継続の条件
今年の夏は沸とう京
東京都
杉並区
広報千代田の高齢者向けセミナー案内
江東区ファミリースポーツチャレンジ
八王子市で展開している「てくポ」に関する記述
以前、広報東京都で食中毒の特集があった
宇都宮
島根県のPR動画。朝ドラの影響なのか、結構力を入れている。
山梨県のある都市のホールのポスターで、作家で自身も自殺願望があった方の講演会というかセミナーのポスターを見て、こういう活動も必要なのだと思った。
まだまだ福島原発事故の風評被害がある様で福島産の野菜や果物、水産品などの安全をアピールする記事を読んだ
都道府県、区市町村の広告

記述内容
インフルエンザ予防接種
インフルエンザ情報
インフルエンザの予防について
ノロウイルス
ノロウイルス
冬でも食中毒は発生する
緑化の進展や食べ物について例えば、養殖技術など発展していること。新たなウイルスがインドで発生したのでコロナのように手洗いうがいを徹底すること。
年齢で仕切られている予防接種ですが、それぞれの都合もあり、もう少し余裕のある仕切り方が良いと思う
国産野菜肉魚乳製品などを購入しようというポスター
国産や地場野菜をたくさん買おう
選挙
選挙公報
衆議院の選挙に関する情報。
特殊詐欺について
詐欺被害の実態。
投資の注意。
最近は防災関連が多い
「消防団員にインタビュー」
補助金のお知らせ
太陽光発電に関する東京都からの補助金
特別区民税・都民税の申告受け付け
国税庁の確定申告関連の情報
ごみの出し方
段ボールコンポストでの生ごみ有効活用に関する物
銭湯のスタンプラリー
消費者相談の記事。
降水量が少なく、ダムの貯水量が激減しているので節水を心がける
シルバーパスの支援金配布
クーリングオフのチラシ
古着の回収のお知らせ
その時に必要な情報が、よくまとめられて掲載されているもの
身近な情報

記述内容
詳細までは載っていないので、いちいち確かめる必要がある
公共の広告はどうしても固い感じがして親しみを覚えられない。
信用できない
なかなか信頼できるものがない
東京大阪など一部では知事が目立ちすぎている。
参考になった

Q35 食品の安全性に関する情報が同世代に伝わるにはどうしたらよいか、アイデアがあれば記載してください。(自由にご記入ください)

記述内容
テレビコマーシャル
テレビコマーシャル
テレビのCM
テレビCMによる注意喚起
テレビCMや広報誌などを利用した啓発活動
マンガやアニメ化したものをテレビCMで流すと良いのでは？ACみたいに。
TVCM
TVCMか、TVで自治体提供の情報番組を放送する。
TVCMを流す
TVのCMを全てACに差し替えて伝える
ゴールデンタイムの番組のCMで食の安全について扱う
テレビ
テレビ
テレビで広く話題にする
テレビで告知する
テレビで取り上げる
テレビで紹介したほうがよい
テレビで放送してもらう
テレビ番組での特集、警鐘。
テレビ放送
テレビなどで何度も繰り返し放送してほしい。
テレビの5分番組くらいで定期的に放送する。
テレビや新聞で伝える
テレビや新聞等で食品の安全性について、取り上げて説明する。
テレビ、ラジオ、ネット広告
テレビ、インターネット、雑誌。
テレビを信用しないこと
老若男女が見るテレビ番組。それが無理なら絶対に無理。
テレビを通して発信してくれたら分かりやすいと思う
私の世代はテレビを見る人が多いと思うので、テレビ番組が手っ取り早いと思います

記述内容
広く告知すること。同世代だと SNS ではなく、テレビだと思う。ただ最近は健康に良くないとわかっていても経済的な問題から、安全とは思えない食品を食べなければいけない人もいるのが大きな課題。
TV で告知する
TV で情宣する
TV の特集や YouTube などが分かりやすいと思う。
TV の番組で放映
TV やインターネットはもちろん、車内広告はとても効果的だ。
TV 番組で取り上げて欲しい
新聞やテレビなど信頼できる媒体からの発信。X などは信頼できない。
高齢者はネット関係で見る人は多くはないと思います。目に留まりやすい場所やテレビでの広報やニュースや公共の場所への公示などだと思います。
ニュース
ニュース番組などテレビの中で伝えてくれれば
SNS での情報拡散
SNS で拡散する
SNS で拡散する
SNS を利用した拡散
SNS 発信
SNS が当たり前の時代、ネットでの情報発信共有を常識にする
こまめに SNS で発信する
テレビの通販番組で活躍する芸人さんたちの商品訴求力説明のノウハウを活かした演出で、特番専門の SNS サイト、コンテンツ企画をどんどん進めるべき。
YouTube で AI でなく、好感の持てる人が好感の持てる切り口で訴えてください。
YouTube などを使ったほうが良い
X や YouTube など人気や利用者数が多い所で宣伝する
LINE で情報が出てから、すぐ伝送できる
Instagram を使う
動画で配信が一番リアルでわかりやすい
動画やインフルエンサー
ネット、テレビでの情報発信
ネットでの周知
ネットニュース
テレビニュースも見ますが、携帯電話を誰でも持っている時代なのでスマホで見られるニュースサイトに上げると目に止まりやすいと思う。

記述内容
ネットに情報発信を。見たらポイントが得られるなど。
ネットを見てください。
ネット記事
ネット広告
ネット配信
ネット配信を増やす
市区町村などでネットで発信する
ウェブ広告をもっと使う
Web 動画広告の出稿
無料動画サイト
ホームページを活用
ググってみるといいと思う
今はインターネットだと思う
スーパーなどでのチラシ配布や呼びかけを行う。
スーパーの店頭での表示、関係する食品の売り場に掲示する。
スーパーの店頭でポスターを貼って買い物客に説明
スーパーマーケットでチラシを配布する。 医療機関の待合室に注意喚起できるような広告を貼る。 高齢者はテレビから得る情報が多いと思うので、「都道府県からのお知らせ」として放送する。
スーパーマーケットには行くと思うので、そこで目にする機会があると良いかなと思います。
よく見かけるスーパーのチラシに載せる
自治体の広報
自治体の発信
自治体の発信
自治体の発信
自治体アプリでの発信。
全国に生じた、または自分の今活動している地域周辺に生じた食中毒の事案・事件を、オンタイムに（タイムリー）にメールに知らせてくれるアプリがあるとよい。
東京アプリのポイント付与で釣る
スマホに一斉に通知する
区のお知らせ
区の広報誌で特集する
区の保健だより
広報
広報誌

記述内容
広報紙を各家庭に配布する
政府広報
市報にのせる。医院・薬局にポスターを貼る。
生活クラブ、生協の宅配などでの広報
ポスターが一番分かりやすいと思います。
ポスターやパンフレット
注意喚起できるポスター、チラシ
シルバー人材センター発信の会員サイト、お知らせのチラシに情報を載せる。病院の待合室にポスターを貼る。
高齢者なのでポスターやチラシでイラストなど分かりやすい表示
チラシなどを配る。
各家にチラシ配布
同世代であれば新聞や折り込み広報などがよい
マスメディアの力は大きい
マスメディアを使うのが伝わりやすいかなと思う
メディアで知らせる
メディアで頻繁に報じる。
家庭で教えることが良いのではないのでしょうか
家庭内で教育する
親がきちんと学び子供に伝える
小学校からの正しい教育。
小学校での教育
学校での教育で教える
同世代が集まる、学校での教育
高齢者である 私は地域のサロンで話し合いがあったら理解しやすいです
同年齢位の友人との対話。講演会。
人々とのコミュニケーションによって
講習会、Zoomなどで参加できること。保健所のパンフレットやリーフレットの活用
地域で回覧板をまわす
マンションの掲示板に掲示する。
町内会の掲示板を有効に使う
公共施設で掲示
公共放送で知らせる
電車の動画に写す

記述内容
コールセンターの設置
スローフード運動を奨励する。
安全な調理や食べ方
映像で見ると印象に残る感じがする
何度も継続して発信する
箇条書きのような簡潔な文章で少しずつ伝える
絵で示す
安全性に関する基準値と実際の食品の値を記載したグラフを見やすく提示する
官庁や自治体が代理店等への外注を止め、自分で街頭に出るなりして考え、市民の反応を学ぶこと。
繰り返し情宣
携帯やパソコンを通して知りえる情報は、高齢者にとってなかなかつかみにくいので、どのような方法が良いか解らない
見てすぐに分かる、あとはココを見て
原産国や国内生産であればどうやって生産されたのかなど公表する機関があるといいかも。お墨付きがあればマークなど安心して買えるし生以外の加工品にも認定が必要にする。安全マークがあれば目安になると思う。添加物など量や違法性がないかこれまたマーク。生産者にもこだわりの生産なら表示して認定を受ける。目が悪いから小さな字が読めない人も多いしマークならわかりやすいと思う。
個人が興味をもつかどうか、なので人から教わることではない。
高年齢を対象に大文字、写真を織り交ぜて A4 程度で優しく理解しやすい言葉で作成して配布しては。
止めた方がよいやり方やものの特集。
自身の体験や経験などをオープンにし、今後の生活等に生かせるようにしていけば、自分で体験、経験したことがなくても参考になると思うので、必ず役に立つと思う。
自分で買い、手作りしたものが一番いいと思う
自分の目で確かめる
小規模な講座を開催すると理解が深まると思う。
情報に接すること自体に何らかのインセンティブがあればよいと思います。
情報を置く場所を多くする
情報発信が少ないように感じるので、政府や公共団体からの発信をして欲しい。
食中毒の身近な原因と簡単にできる対処方法
食中毒発生の具体的事例を定期的に発信する
食品パッケージに具体的に記載する
生ガキには注意しましょう

記述内容
まずは信用回復が必要
同世代の人でもテレビを見るひと、ネット中心の人といろいろなので情報媒体を絞らない方が良いと思う
同世代の人は大体わかっていると思う。
特になし。テレビニュース番組でコメンテーター出演する医師でさえ医学的に間違っている事を話して信用されてしまうご時世に誰が何やっても上手くは行かない。
独自のキャラクターを作って、有名なキャラクターとコラボしてもらう
被害を具体的に書く。
本当に正しい情報を国なりが責任を持って提示する。責任を持つ事が出来る事が前提。往々にして公務員は責任を取らないので。
無農薬
例えばコロナウイルスなど世間に広まっている疫症などが食品などに影響するとの関連性をシミュレーションすると理解しやすいのでは
地道に伝えていく
実例をもつての説明。
具体的な身近な例を載せれば良いと思う。
具体的な問題案件が発生したときに、タイムリーに、それに関連する原因、予防方法などをわかりやすく説明する
具体的な例があるとイメージしやすいと思いました。
具体例を示す。
分かりやすい説明
経験談
それぞれの経験談を言い伝えることがよしいと思います。
いろいろなところで公報することだと思います
そんな方法があればきっと誰も苦労しない

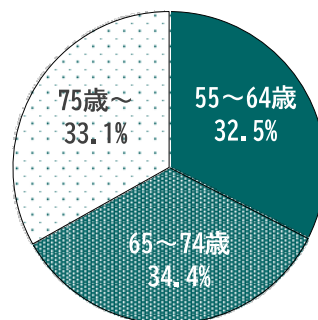
IV 街頭アンケート調査結果

1 回答者の属性

(1) 年齢

	実数	構成比
55～64歳	52	32.5%
65～74歳	55	34.4%
75歳～	53	33.1%
回答者数 (n)	160	100.0%

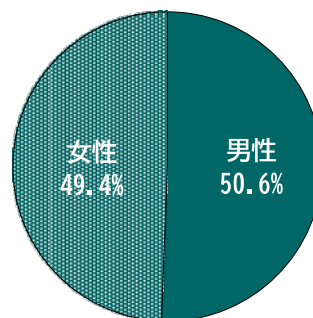
図表 136：年齢 (3 区分)



(2) 性別

	実数	構成比
男性	81	50.6%
女性	79	49.4%
回答者数 (n)	160	100.0%

図表 137：性別

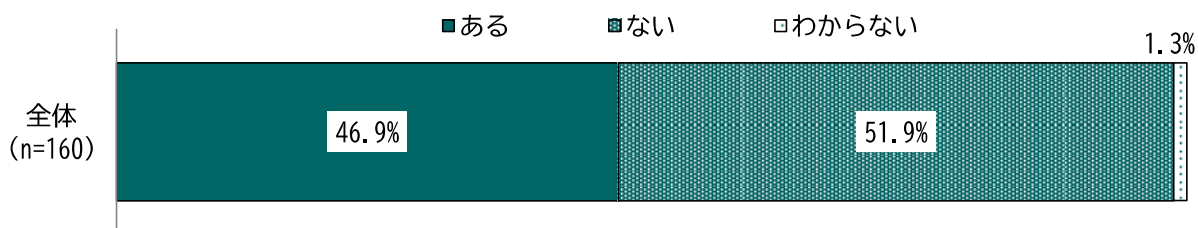


(3) 基礎疾患の有無

Q1 あなたは基礎疾患がありますか。

基礎疾患の有無については、「ある」が46.9%、「ない」が51.9%、「わからない」が1.3%であった。

図表 138：基礎疾患の有無



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「ある」の割合が38.5%と全体(46.9%)を8.4ポイント下回った。一方、75歳～は「ある」の割合が56.6%と全体(46.9%)を9.7ポイント上回った。

図表 139：【性別・年齢別】 基礎疾患の有無

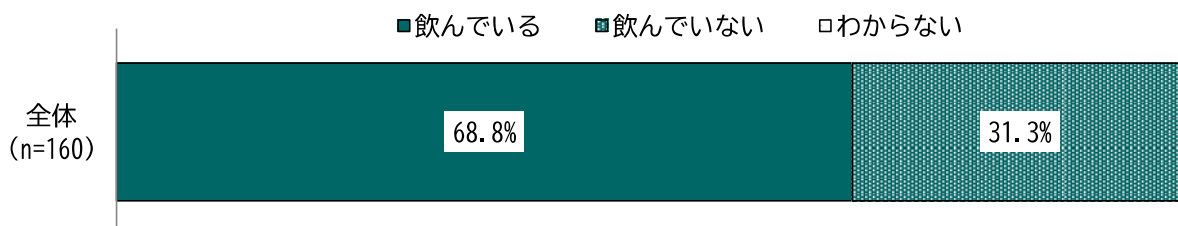
		回答者数 (n)	ある	ない	わからない
全体		160	46.9%	51.9%	1.3%
性別	男性	81	49.4%	49.4%	1.2%
	女性	79	44.3%	54.4%	1.3%
年齢	55歳～64歳	52	38.5%	61.5%	-
	65歳～74歳	55	45.5%	50.9%	3.6%
	75歳～	53	56.6%	43.4%	-

(4) 薬（医薬品）の服用

Q2 現在、薬（医薬品）を服用していますか。

薬（医薬品）の服用については、「飲んでいる」が68.8%、「飲んでいない」が31.3%であった。

図表 140：薬（医薬品）の服用



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「飲んでいる」の割合が51.9%と全体（68.8%）を16.9ポイント下回った。一方、65歳～74歳、75歳～は「飲んでいる」の割合がそれぞれ74.5%、79.2%と全体（68.8%）を5ポイント以上上回った。

図表 141：【性別・年齢別】薬（医薬品）の服用

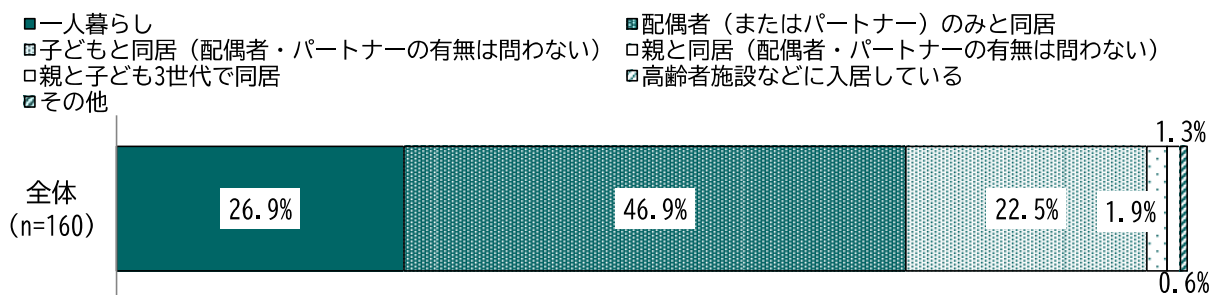
		回答者数 (n)	飲 ん で い る	飲 ん で い な い	わ か ら な い
全体		160	68.8%	31.3%	-
性別	男性	81	70.4%	29.6%	-
	女性	79	67.1%	32.9%	-
年齢	55歳～64歳	52	51.9%	48.1%	-
	65歳～74歳	55	74.5%	25.5%	-
	75歳～	53	79.2%	20.8%	-

(5) お住まいの状況

Q3 現在のお住まいの状況について、最も近いものをお選びください。

お住まいの状況については、「一人暮らし」が26.9%、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」が46.9%、「子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）」が22.5%であった。上記以外の項目は各5%未満であった。

図表 142：お住まいの状況



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「配偶者（またはパートナー）のみと同居」の割合が40.4%と全体（46.9%）を6.5ポイント下回った。65歳～74歳は「一人暮らし」の割合が21.8%と全体（26.9%）を5.1ポイント下回り、「配偶者（またはパートナー）のみと同居」の割合が56.4%と全体（46.9%）を9.5ポイント上回った。75歳～は「一人暮らし」の割合が32.1%と全体（26.9%）を5.2ポイント上回った。

図表 143：【性別・年齢別】 お住まいの状況

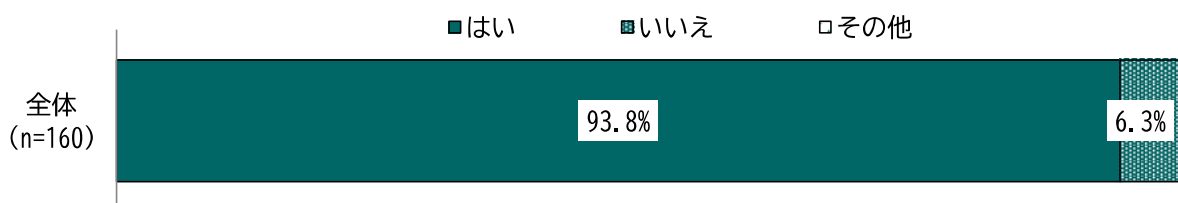
		回答者数 (n)	一人暮らし	配偶者（またはパートナー）のみと同居	子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	親と同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）	親と子ども3世代で同居	高齢者施設などに入居している	その他
全体		160	26.9%	46.9%	22.5%	1.9%	1.3%	-	0.6%
性別	男性	81	25.9%	43.2%	25.9%	1.2%	2.5%	-	1.2%
	女性	79	27.8%	50.6%	19.0%	2.5%	-	-	-
年齢	55歳～64歳	52	26.9%	40.4%	25.0%	5.8%	1.9%	-	-
	65歳～74歳	55	21.8%	56.4%	18.2%	-	1.8%	-	1.8%
	75歳～	53	32.1%	43.4%	24.5%	-	-	-	-

(6) 活動状況（週2回以上の活動）

Q4 あなたは、週に2回以上、仕事・趣味・運動・学習・地域活動・友人との交流、または健康を意識した行動（例：散歩、体操、食事管理など）をしていますか。

活動状況については、「はい（週に2回以上活動している）」が93.8%、「いいえ（週に2回以上活動していない）」が6.3%であった。

図表 144：活動状況（週2回以上の活動）



性別、年齢別ともに大きな差は見られなかった。

図表 145：【性別・年齢別】 活動状況（週2回以上の活動）

		回答者数 (n)	はい	いいえ	その他
全体		160	93.8%	6.3%	-
性別	男性	81	93.8%	6.2%	-
	女性	79	93.7%	6.3%	-
年齢	55歳～64歳	52	90.4%	9.6%	-
	65歳～74歳	55	98.2%	1.8%	-
	75歳～	53	92.5%	7.5%	-

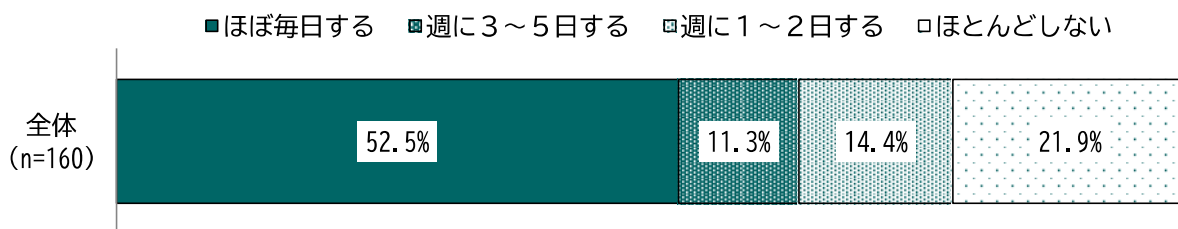
2 食品安全に関する意識

(1) 料理をする頻度

Q5 あなたはふだん自分で料理をしますか。

ふだん自分で料理をする頻度については、「ほぼ毎日する」、「週に3～5日する」、「週に1～2日する」を合計した《週1日以上》の割合が78.1%であった。一方、「ほとんどしない」が21.9%であった。

図表 146：料理をする頻度



性別に見ると、「ほぼ毎日する」の割合は、男性よりも女性の方が53.8ポイント高かった。一方、「週に1～2日する」の割合は、女性よりも男性の方が18.4ポイント高く、「ほとんどしない」の割合は女性よりも男性の方が40.7ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～65歳は「週に3～5日する」の割合が19.2%と全体(11.3%)を7.9ポイント上回った。また、75歳～は「ほぼ毎日する」、「ほとんどしない」の割合がそれぞれ58.5%、28.3%と全体(52.5%、21.9%)を5ポイント以上上回り、「週に3～5日する」の割合が3.8%と全体(11.3%)を7.5ポイント下回った。

図表 147：【性別・年齢別】料理をする頻度

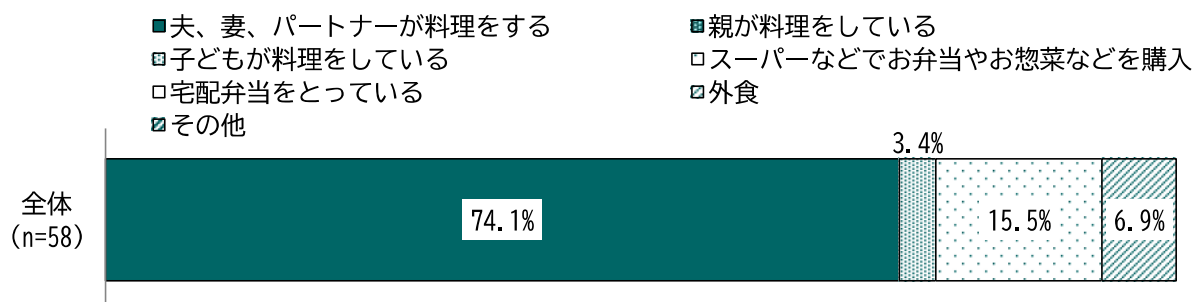
		回答者数 (n)	ほぼ毎日する	週に3～5日する	週に1～2日する	ほとんどしない	《週1日以上》
全体		160	52.5%	11.3%	14.4%	21.9%	78.1%
性別	男性	81	25.9%	8.6%	23.5%	42.0%	58.0%
	女性	79	79.7%	13.9%	5.1%	1.3%	98.7%
年齢	55歳～64歳	52	48.1%	19.2%	15.4%	17.3%	82.7%
	65歳～74歳	55	50.9%	10.9%	18.2%	20.0%	80.0%
	75歳～	53	58.5%	3.8%	9.4%	28.3%	71.7%

(2) 自炊しない場合の食事方法

Q6 Q5で「週に1～2日する」「ほとんどしない」と回答した方にうかがいます。
自炊しない場合、食事はどのようにされていますか。最も当てはまるものをお選びください。

自炊しない場合の食事方法については、「夫、妻、パートナーが料理をする」の割合が74.1%、「スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入」が15.5%、「外食」が6.9%であった。上記以外の項目は各5%未満であった。

図表 148：自炊しない場合の食事方法



自炊しない場合の食事方法については、「男性」を除き回答者数が少ないため参考値としての掲載に留める。なお、「男性」については全体との大きな差は見られなかった。

図表 149：【性別・年齢別】 自炊しない場合の食事方法

		回答者数 (n)	夫、妻、パートナーが料理をする	親が料理をしている	子どもが料理をしている	スーパーなどでお惣菜などを購入	宅配弁当をとっている	外食	その他
全体		58	74.1%	-	3.4%	15.5%	-	6.9%	-
性別	男性	53	77.4%	-	1.9%	13.2%	-	7.5%	-
	女性	5	40.0%	-	20.0%	40.0%	-	-	-
年齢	55歳～64歳	17	76.5%	-	-	17.6%	-	5.9%	-
	65歳～74歳	21	61.9%	-	-	23.8%	-	14.3%	-
	75歳～	20	85.0%	-	10.0%	5.0%	-	-	-

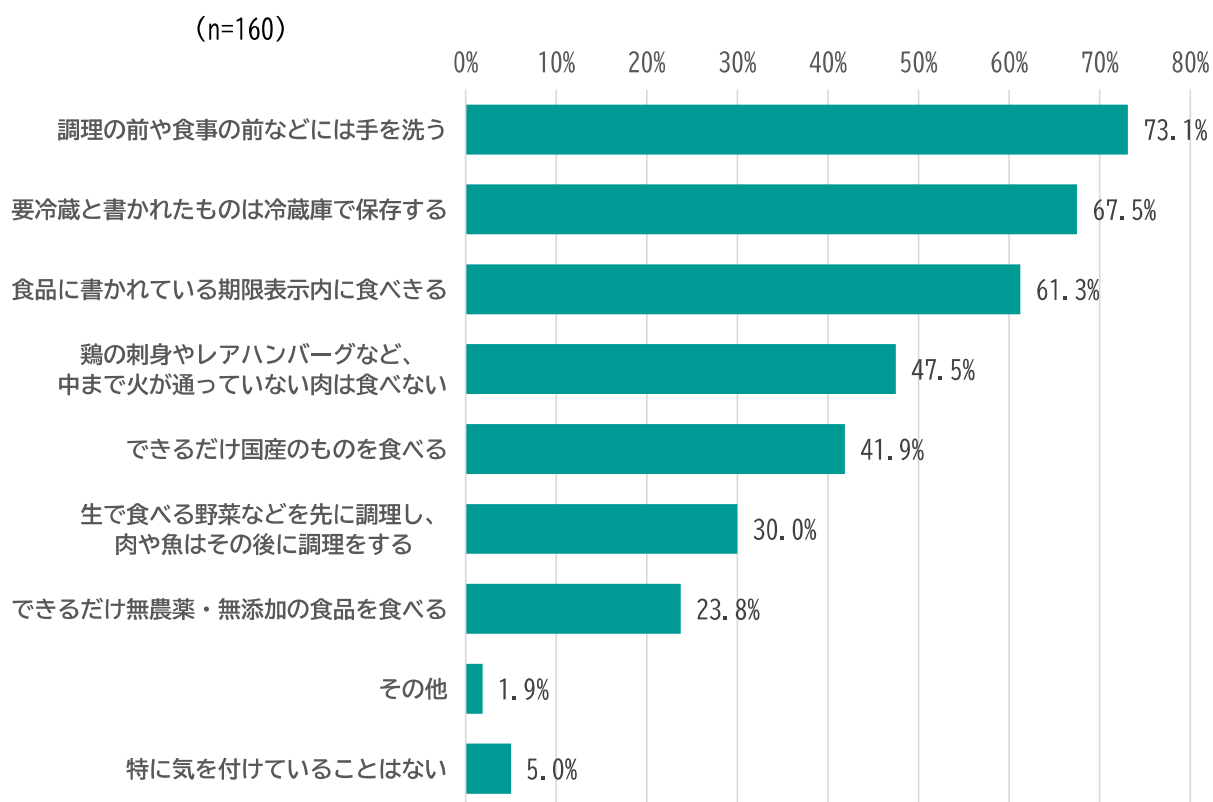
3 食中毒に関する意識

(1) 食中毒予防のために気を付けていること

Q7 あなたが食中毒予防のために特に気を付けていることは何ですか。(複数回答)

食中毒予防のために気を付けていることについては、「調理の前や食事の前などには手を洗う」が73.1%と最も高く、次いで「要冷蔵と書かれたものは冷蔵庫で保存する」が67.5%、「食品に書かれている期限表示内に食べきる」が61.3%と続いた。なお、「特に気を付けていることはない」は5.0%であった。

図表 150：食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）



性別に見ると、「食品に書かれている期限表示内に食べきる」、「その他」、「特に気を付けていることはない」を除く全ての項目の割合は、男性よりも女性の方が10ポイント以上高かった。一方、「特に気を付けていることはない」の割合は、女性よりも男性の方が7.3ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」、「生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする」の割合がそれぞれ55.8%、36.5%と全体（47.5%、30.0%）を5ポイント以上上回った。65歳～74歳は「できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる」の割合が18.2%と全体（23.8%）を5.6ポイント下回った。75歳～は「できるだけ国産のものを食べる」、「できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる」の割合がそれぞれ49.1%、30.2%と全体（41.9%、23.8%）を5ポイント以上上回り、「鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない」の割合が41.5%と全体（47.5%）を6.0ポイント下回った。

図表 151：【性別・年齢別】 食中毒予防のために気を付けていること（複数回答）

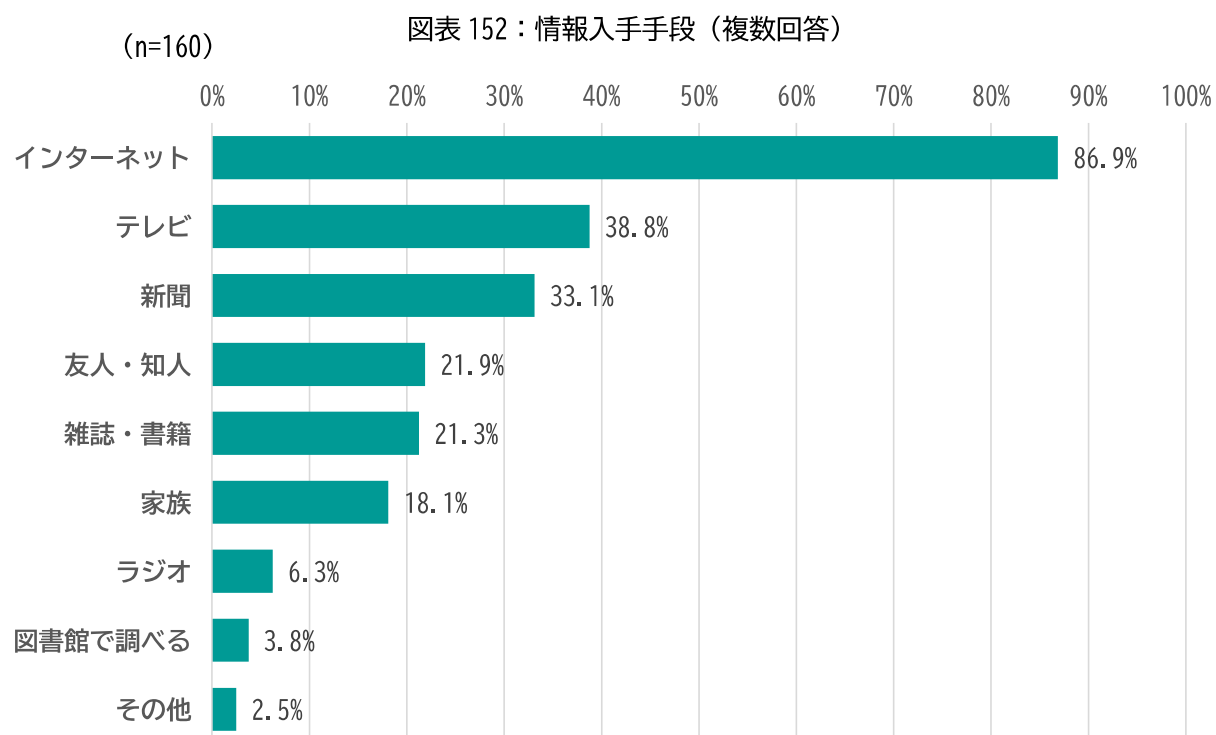
		回答者数（n）	調理の手を洗う食事の前など	冷蔵冷蔵と保存されたものは	食品内に書かかれている期限	鶏の刺身やレアハンバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない	できるだけ国産のものを食べる	後に調理し、肉や魚はその先に調理する野菜などはその先	できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる	その他	特に気を付けていることはない
全体		160	73.1%	67.5%	61.3%	47.5%	41.9%	30.0%	23.8%	1.9%	5.0%
性別	男性	81	66.7%	60.5%	60.5%	37.0%	25.9%	21.0%	16.0%	1.2%	8.6%
	女性	79	79.7%	74.7%	62.0%	58.2%	58.2%	39.2%	31.6%	2.5%	1.3%
年齢	55歳～64歳	52	75.0%	71.2%	59.6%	55.8%	38.5%	36.5%	23.1%	3.8%	3.8%
	65歳～74歳	55	74.5%	67.3%	58.2%	45.5%	38.2%	27.3%	18.2%	1.8%	3.6%
	75歳～	53	69.8%	64.2%	66.0%	41.5%	49.1%	26.4%	30.2%	-	7.5%

4 食品安全に関する情報収集について

(1) 情報入手手段

Q8 あなたはふだん、何かを調べようとするときに、どのような手段をよく利用しますか。
(複数回答)

何かを調べようとするときの情報入手手段については、「インターネット」が86.9%と最も高く、次いで「テレビ」が38.8%、「新聞」が33.1%、「友人・知人」が21.9%と続いた。



性別に見ると、「友人・知人」の割合は、男性よりも女性の方が21.8ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「インターネット」の割合が100.0%と全体（86.9%）を13.1ポイント上回った。65歳～74歳は「インターネット」、「友人・知人」の割合がそれぞれ96.4%、29.1%と全体（86.9%、21.9%）を5ポイント以上上回った。75歳～は「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」の3項目がそれぞれ全体（38.8%、33.1%、6.3%）を5ポイント以上上回った。

図表 153：【性別・年齢別】 情報入手手段（複数回答）

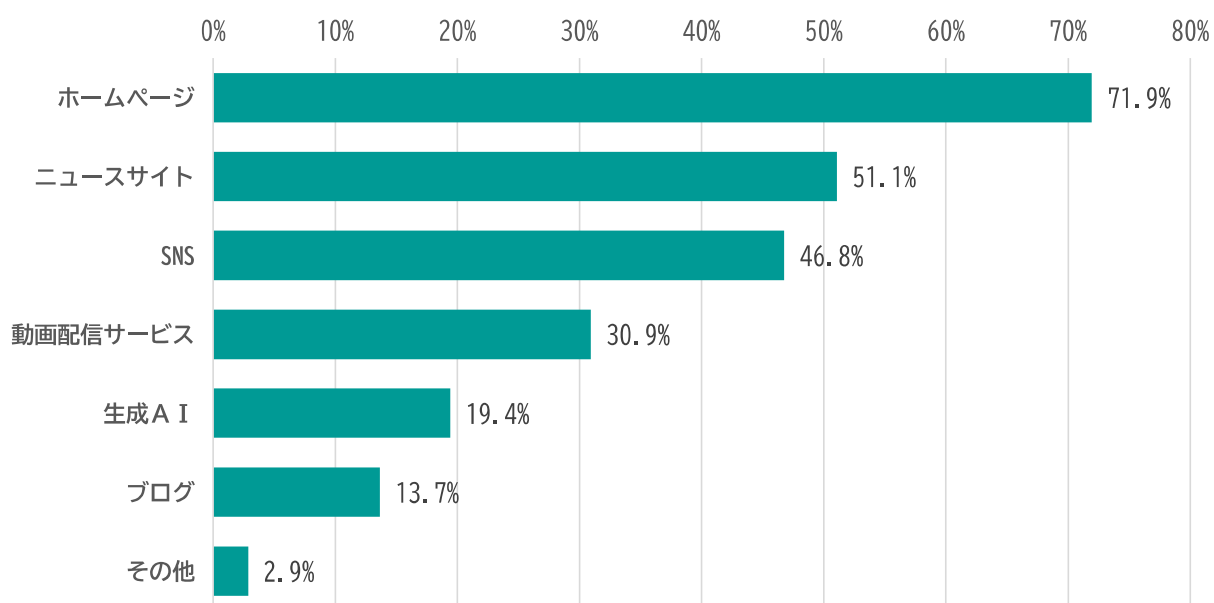
		回答者数 (n)	インターネット	テレビ	新聞	友人・知人	雑誌・書籍	家族	ラジオ	図書館で調べる	その他
全体		160	86.9%	38.8%	33.1%	21.9%	21.3%	18.1%	6.3%	3.8%	2.5%
性別	男性	81	87.7%	37.0%	37.0%	11.1%	22.2%	16.0%	3.7%	2.5%	3.7%
	女性	79	86.1%	40.5%	29.1%	32.9%	20.3%	20.3%	8.9%	5.1%	1.3%
年齢	55歳～64歳	52	100.0%	26.9%	17.3%	23.1%	15.4%	19.2%	5.8%	3.8%	1.9%
	65歳～74歳	55	96.4%	38.2%	32.7%	29.1%	23.6%	14.5%	1.8%	3.6%	3.6%
	75歳～	53	64.2%	50.9%	49.1%	13.2%	24.5%	20.8%	11.3%	3.8%	1.9%

(2) インターネットにおける情報源

Q9① Q8で「インターネット」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どこから情報を得ていますか。(複数回答)

情報入手手段として「インターネット」と回答した方に、具体的な情報源についてたずねたところ、「ホームページ」が71.9%と最も高く、次いで「ニュースサイト」が51.1%、「SNS」が46.8%、「動画配信サービス」が30.9%と続いた。

(n=139) 図表 154：インターネットにおける情報源（複数回答）



性別に見ると、「ニュースサイト」の割合は、女性よりも男性の方が22.3ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「SNS」、「動画配信サービス」、「ブログ」の3項目がそれぞれ全体（46.8%、30.9%、13.7%）を5ポイント以上上回った。また、75歳～は「動画配信サービス」、「その他」を除く全ての項目で全体を5ポイント以上下回った。

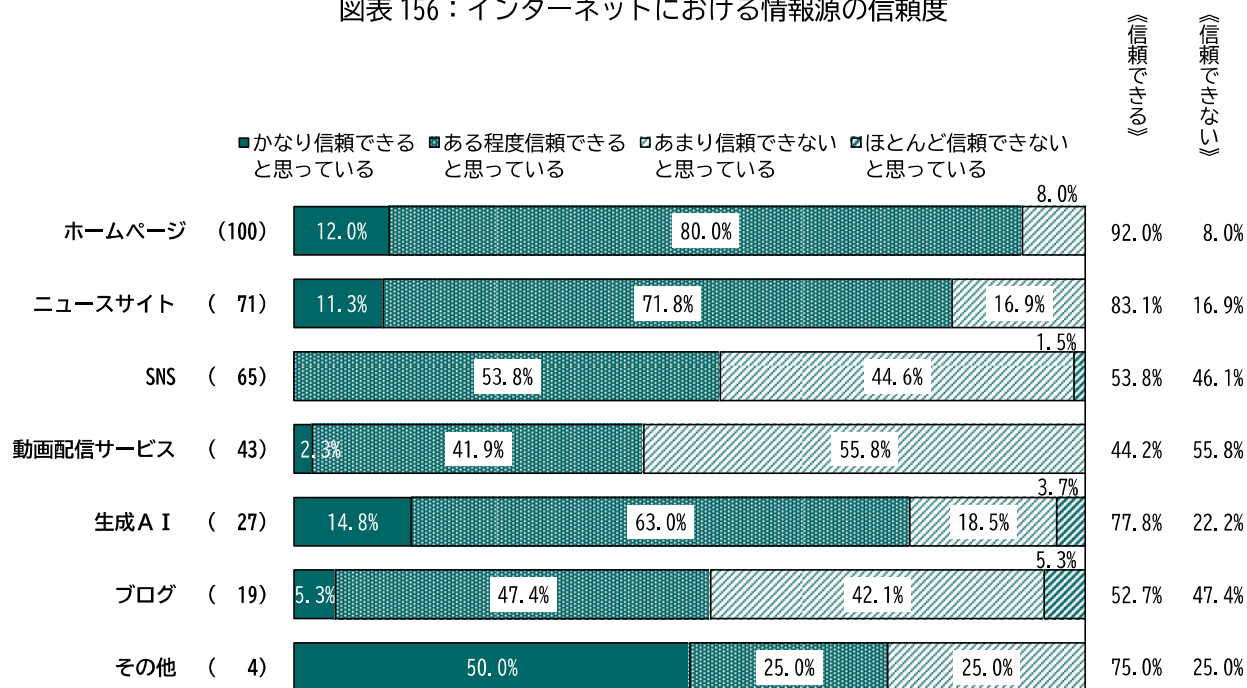
図表 155：【性別・年齢別】 インターネットにおける情報源（複数回答）

		回答者数 (n)	ホームページ	ニュースサイト	SNS	動画配信サービス	生成AI	ブログ	その他
全体		139	71.9%	51.1%	46.8%	30.9%	19.4%	13.7%	2.9%
性別	男性	71	71.8%	62.0%	43.7%	35.2%	21.1%	11.3%	2.8%
	女性	68	72.1%	39.7%	50.0%	26.5%	17.6%	16.2%	2.9%
年齢	55歳～64歳	52	76.9%	55.8%	55.8%	42.3%	23.1%	23.1%	1.9%
	65歳～74歳	53	73.6%	52.8%	43.4%	22.6%	20.8%	9.4%	5.7%
	75歳～	34	61.8%	41.2%	38.2%	26.5%	11.8%	5.9%	-

Q9② Q9①で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

インターネットにおける情報源の信頼度については、「ホームページ」、「ニュースサイト」は「かなり信頼できている」と「ある程度信頼できている」を合計した《信頼できる》の割合が80%を上回り、「あまり信頼できない」と「ほとんど信頼できない」とを合計した《信頼できない》の割合が20%を下回った。一方、「SNS」、「動画配信サービス」は《信頼できない》の割合が40%を上回った。

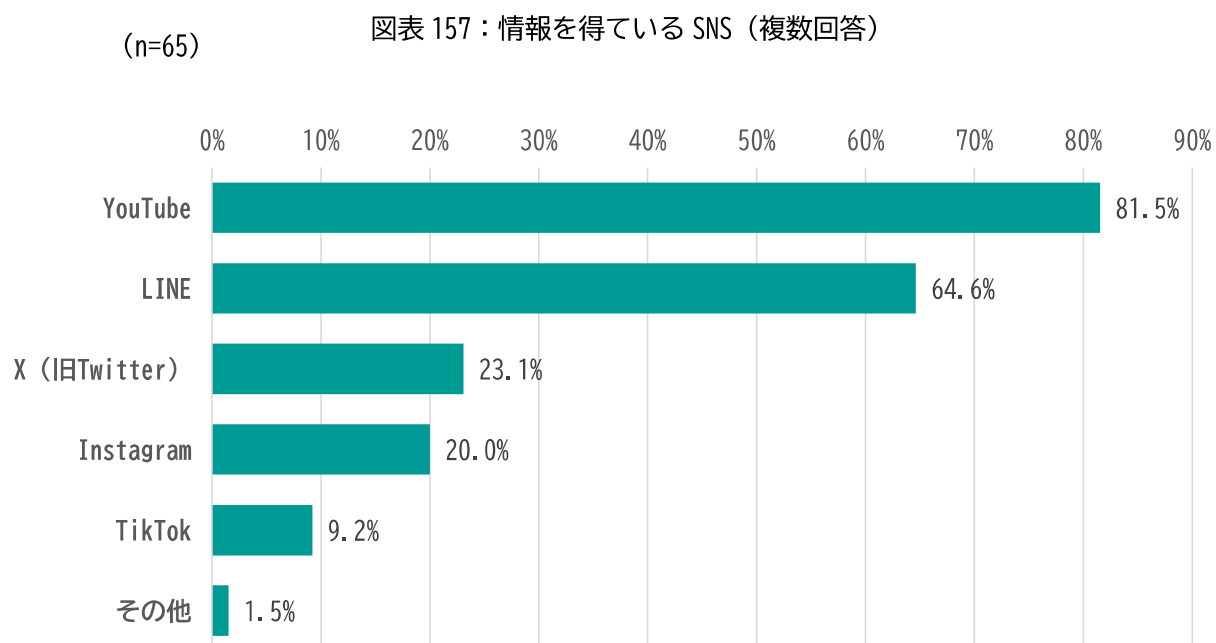
図表 156：インターネットにおける情報源の信頼度



※「生成AI」、「ブログ」、「その他」は回答者数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

Q10① Q9で「SNS」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どの媒体から情報を得ていますか。(複数回答)

インターネットにおける情報源として「SNS」と回答した方に、具体的な SNS の種類についてたずねたところ、「YouTube」が81.5%と最も高く、次いで「LINE」が64.6%、「X (旧 Twitter)」が23.1%、「Instagram」が20.0%と続いた。



性別に見ると、「YouTube」、「X（旧 Twitter）」の割合は、女性よりも男性の方が 10 ポイント以上高かった。一方、「LINE」の割合は男性よりも女性の方が 37.2 ポイント高かった。

年齢別では回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

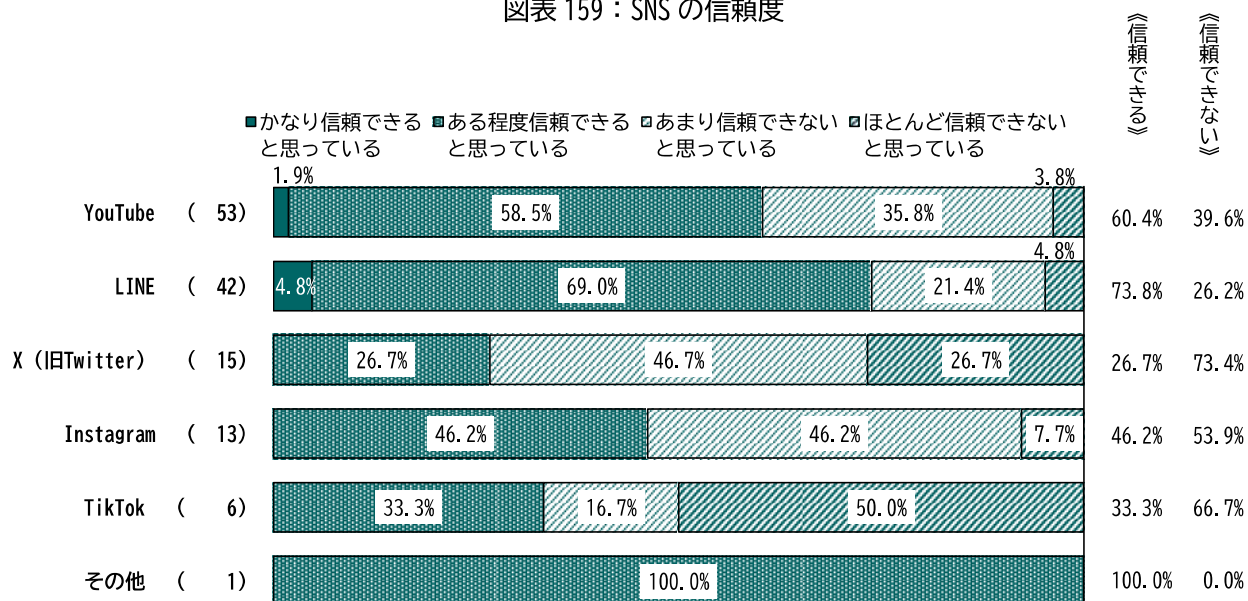
図表 158：【性別・年齢別】 情報を得ている SNS（複数回答）

		回答者数 (n)	Y o u T u b e	L I N E	X (旧 T w i t t e r)	I n s t a g r a m	T i k T o k	そ の 他
全体		65	81.5%	64.6%	23.1%	20.0%	9.2%	1.5%
性別	男性	31	93.5%	45.2%	29.0%	19.4%	9.7%	3.2%
	女性	34	70.6%	82.4%	17.6%	20.6%	8.8%	-
年齢	55歳～64歳	29	82.8%	62.1%	34.5%	34.5%	10.3%	3.4%
	65歳～74歳	23	82.6%	60.9%	17.4%	13.0%	8.7%	-
	75歳～	13	76.9%	76.9%	7.7%	-	7.7%	-

Q10② Q10①で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

SNS から得られる情報の信頼度については、「YouTube」、「LINE」は「ある程度信頼できている」と「かなり信頼できている」の割合が最も高く、「かなり信頼できている」と「ある程度信頼できている」を合計した《信頼できる》の割合は60%を上回った。

図表 159：SNS の信頼度



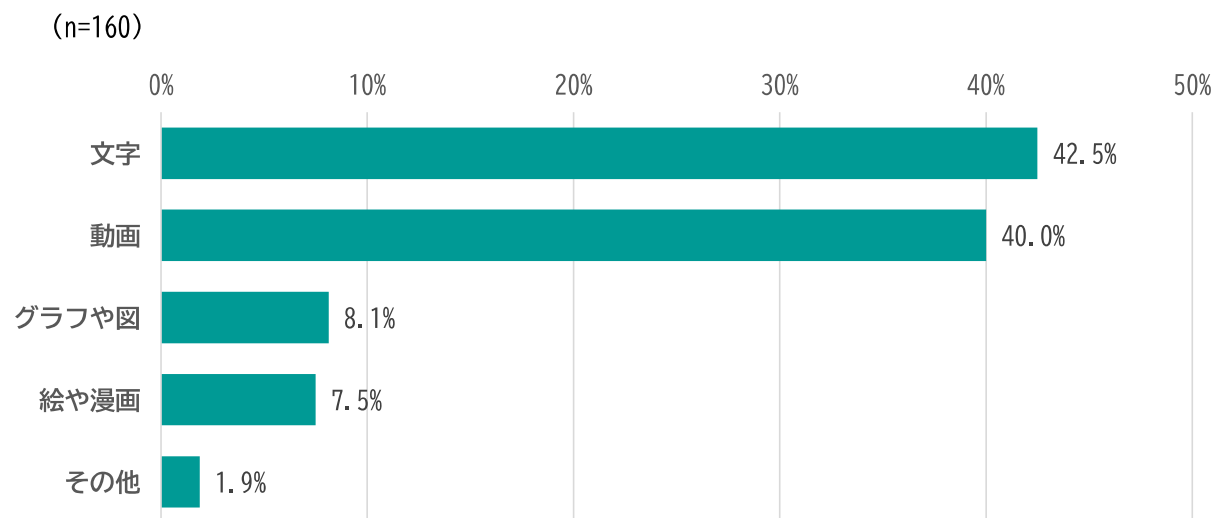
※ 「YouTube」、「LINE」 以外は回答者数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

(3) わかりやすい情報提示方法

Q11 あなたが、何かを知るときに、どのように説明されていると最もわかりやすいと思いますか。

わかりやすい情報提示方法については、「文字」が42.5%と最も高く、次いで「動画」が40.0%、「グラフや図」が8.1%、「絵や漫画」が7.5%と続いた。

図表 160：わかりやすい情報提示方法



性別に見ると、「グラフや図」は女性よりも男性の方が 8.5 ポイント高くなった。

年齢別に見ると、「文字」の割合は年齢が上がるほど高く、75 歳～は 62.3%と全体（42.5%）を 19.8 ポイント上回った。一方、「動画」の割合は年齢が上がるほど低く、75 歳～は 24.5%と全体（40.0%）を 15.5 ポイント下回った。

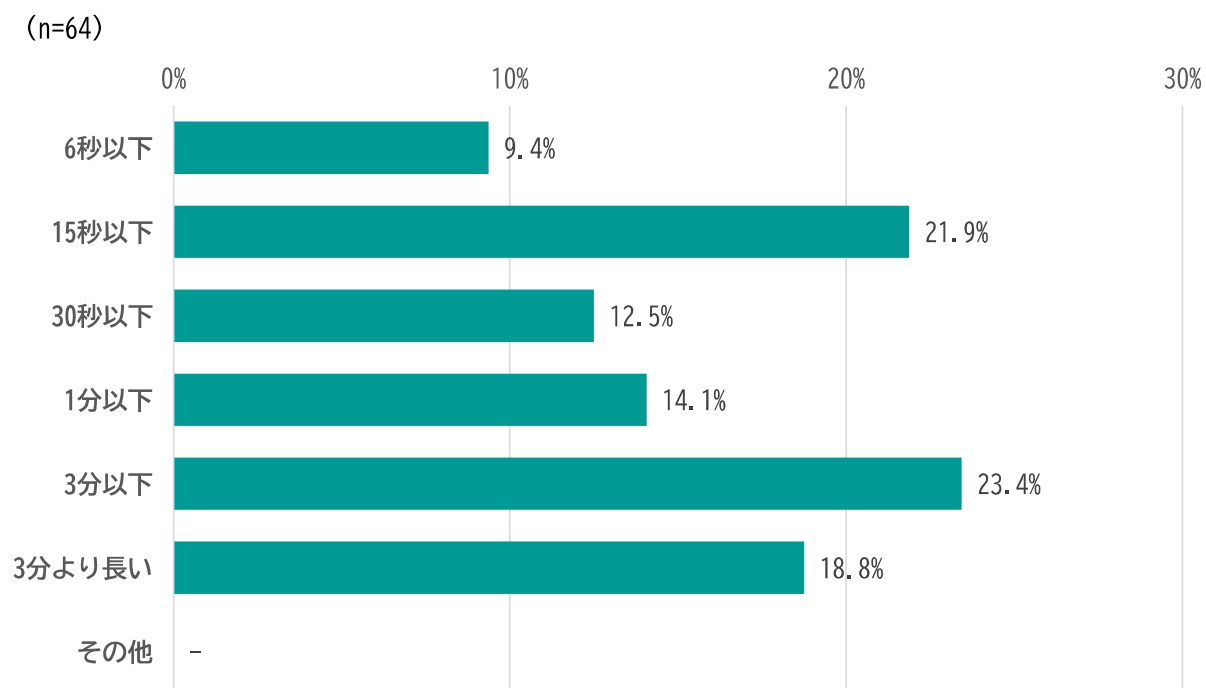
図表 161：【性別・年齢別】 わかりやすい情報提示方法

		回答者数 (n)	文字	動画	グラフや図	絵や漫画	その他
全体		160	42.5%	40.0%	8.1%	7.5%	1.9%
性別	男性	81	42.0%	39.5%	12.3%	6.2%	-
	女性	79	43.0%	40.5%	3.8%	8.9%	3.8%
年齢	55歳～64歳	52	28.8%	48.1%	15.4%	5.8%	1.9%
	65歳～74歳	55	36.4%	47.3%	3.6%	10.9%	1.8%
	75歳～	53	62.3%	24.5%	5.7%	5.7%	1.9%

Q12 Q11で「動画」と回答した方にうかがいます。
どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思いますか。

わかりやすい情報提示方法として「動画」と回答した人に、どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思うかたずねたところ、「3分以下」が23.4%と最も高く、次いで「15秒以下」が21.9%、「3分より長い」が18.8%、「1分以下」が14.1%と続いた。

図表 162：最後まで見ようと思う動画の長さ



性別に見ると、「15秒以下」の割合は男性よりも女性の方が18.8ポイント高くなり、「3分以下」の割合は女性よりも男性の方が21.9ポイント高くなった。

年齢別では回答数が少ないため、参考値としての掲載に留める。

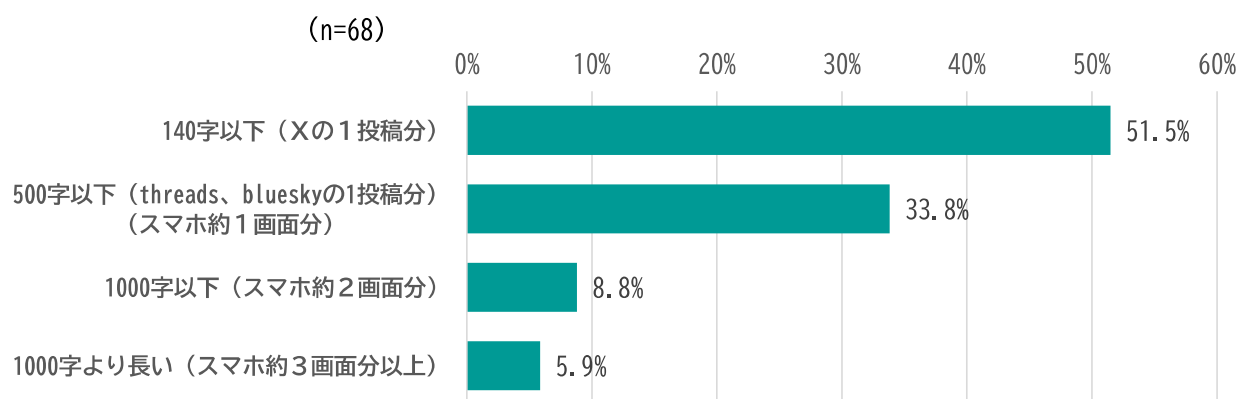
図表 163：【性別・年齢別】最後まで見ようと思う動画の長さ

		回答者数 (n)	6秒以下	15秒以下	30秒以下	1分以下	3分以下	3分より長い	その他
全体		64	9.4%	21.9%	12.5%	14.1%	23.4%	18.8%	-
性別	男性	32	6.3%	12.5%	12.5%	12.5%	34.4%	21.9%	-
	女性	32	12.5%	31.3%	12.5%	15.6%	12.5%	15.6%	-
年齢	55歳～64歳	25	8.0%	32.0%	8.0%	16.0%	24.0%	12.0%	-
	65歳～74歳	26	11.5%	19.2%	19.2%	11.5%	23.1%	15.4%	-
	75歳～	13	7.7%	7.7%	7.7%	15.4%	23.1%	38.5%	-

Q13 Q11で「文字」と回答した方にうかがいます。
何文字くらいが良いですか？

わかりやすい情報提示方法として「文字」と回答した人に、適切な文字数についてたずねたところ、「140字以下（Xの1投稿分）」が51.5%と最も高く、次いで「500字以下（Threads、Blueskyの1投稿分）（スマホ約1画面分）」が33.8%、「1000字以下（スマホ約2画面分）」が8.8%、「1000字より長い（スマホ約3画面分以上）」が5.9%と続いた。

図表 164：適切な文字数



性別に見ると、「1000字より長い（スマホ約3画面分以上）」の割合は女性よりも男性の方が11.8ポイント高くなった。

年齢別に見ると、75歳～は「140字以下（Xの1投稿分）」の割合が57.6%と全体（51.5%）を6.1ポイント上回り、「500字以下（threads、blueskyの1投稿分）（スマホ約1画面分）」の割合が27.3%と全体（33.8%）を6.5ポイント下回った。

図表 165：【性別・年齢別】 適切な文字数

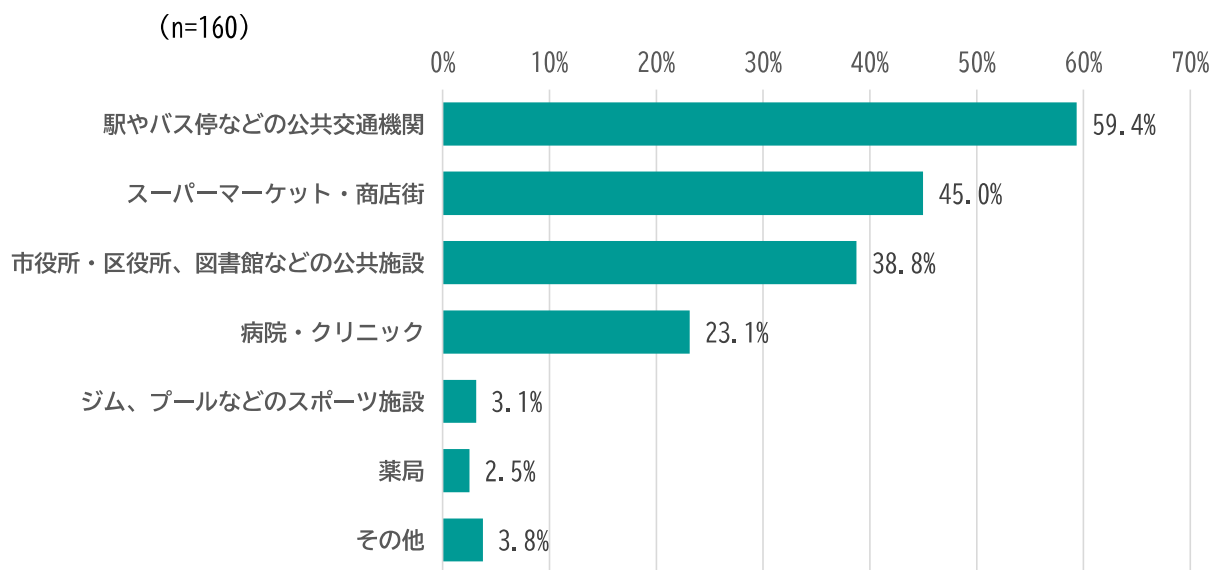
		回答者数 (n)	140字以下 (Xの1投稿分)	500字以下 (threads、blueskyの1投稿分)	1000字以下 (スマホ約2画面分)	1000字より長い (スマホ約3画面分以上)
全体		68	51.5%	33.8%	8.8%	5.9%
性別	男性	34	47.1%	29.4%	11.8%	11.8%
	女性	34	55.9%	38.2%	5.9%	-
年齢	55歳～64歳	15	46.7%	46.7%	6.7%	-
	65歳～74歳	20	45.0%	35.0%	10.0%	10.0%
	75歳～	33	57.6%	27.3%	9.1%	6.1%

(4) ポスターやリーフレットをよく目にする場所

Q14 ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所はどこですか。
(最大3つまで)

ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所は、「駅やバス停などの公共交通機関」が59.4%と最も高く、次いで「スーパーマーケット・商店街」が45.0%、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」が38.8%、「病院・クリニック」が23.1%と続いた。

図表 166：ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）



性別に見ると、「スーパーマーケット・商店街」の割合は、男性よりも女性の方が16.2ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「駅やバス停などの公共交通機関」、「スーパーマーケット・商店街」、「市役所・区役所、図書館などの公共施設」の3項目がそれぞれ全体（59.4%、45.0%、38.8%）を5ポイント以上上回った。また、75歳～は「駅やバス停などの公共交通機関」、「スーパーマーケット・商店街」の割合がそれぞれ全体（59.4%、45.0%）を10ポイント以上下回り、「病院・クリニック」の割合が全体（23.1%）を9.0%上回った。

図表 167：【性別・年齢別】ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）

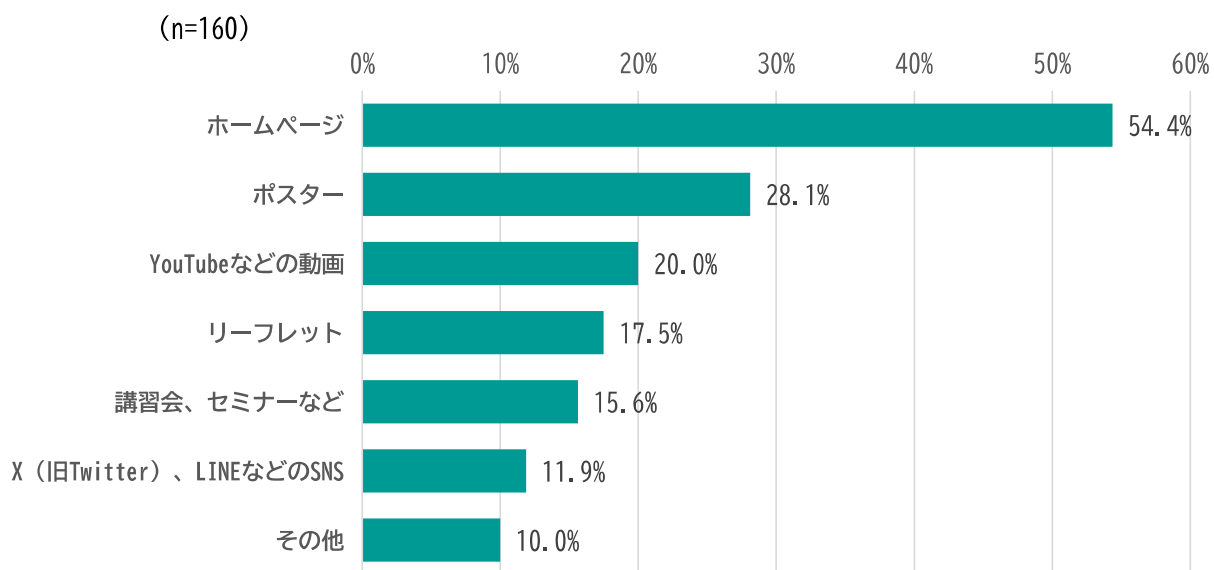
		回答者数 (n)	駅やバス停などの公共交通機関	スーパーマーケット・商店街	市役所・区役所、図書館などの公共施設	病院・クリニック	ジム、プールなどのスポーツ施設	薬局	その他
全体		160	59.4%	45.0%	38.8%	23.1%	3.1%	2.5%	3.8%
性別	男性	81	64.2%	37.0%	37.0%	21.0%	2.5%	2.5%	2.5%
	女性	79	54.4%	53.2%	40.5%	25.3%	3.8%	2.5%	5.1%
年齢	55歳～64歳	52	65.4%	57.7%	44.2%	19.2%	1.9%	5.8%	-
	65歳～74歳	55	63.6%	43.6%	34.5%	18.2%	3.6%	1.8%	5.5%
	75歳～	53	49.1%	34.0%	37.7%	32.1%	3.8%	-	5.7%

(5) 食品安全に関し、特に関心を持てる情報源

Q15 食品の安全性に関する情報について、どこで見たり聞いたりすると「もっと知りたい」と思いますか？あなたが特に関心を持てる情報源を選んでください。(最大3つまで)

食品安全に関する情報について、特に関心を持てる情報源は、「ホームページ」が54.4%と最も高く、次いで「ポスター」が28.1%、「YouTubeなどの動画」が20.0%、「リーフレット」が17.5%と続いた。

図表 168：食品安全に関し、特に関心を持てる情報源（3つまで）



性別に見ると、「ホームページ」の割合は、女性よりも男性の方が12.4ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「YouTubeなどの動画」、「X（旧Twitter）、LINEなどのSNS」の割合がそれぞれ30.8%、21.2%と全体（20.0%、11.9%）を5ポイント以上上回った。65歳～74歳は「ホームページ」の割合が67.3%と全体（54.4%）を12.9ポイント上回った。75歳～は「ポスター」、「その他」の割合がそれぞれ34.0%、18.9%と全体（28.1%、10.0%）を5ポイント以上上回った。

図表 169：【性別・年齢別】 食品安全に関し、特に関心を持てる情報源（3つまで）

		回答者数（n）	ホームページ	ポスター	YouTubeなどの動画	リーフレット	講習会、セミナーなど	L X（旧 Twitter）、LINEなどのSNS	その他
全体		160	54.4%	28.1%	20.0%	17.5%	15.6%	11.9%	10.0%
性別	男性	81	60.5%	25.9%	19.8%	17.3%	14.8%	9.9%	12.3%
	女性	79	48.1%	30.4%	20.3%	17.7%	16.5%	13.9%	7.6%
年齢	55歳～64歳	52	57.7%	26.9%	30.8%	13.5%	15.4%	21.2%	3.8%
	65歳～74歳	55	67.3%	23.6%	21.8%	21.8%	16.4%	7.3%	7.3%
	75歳～	53	37.7%	34.0%	7.5%	17.0%	15.1%	7.5%	18.9%

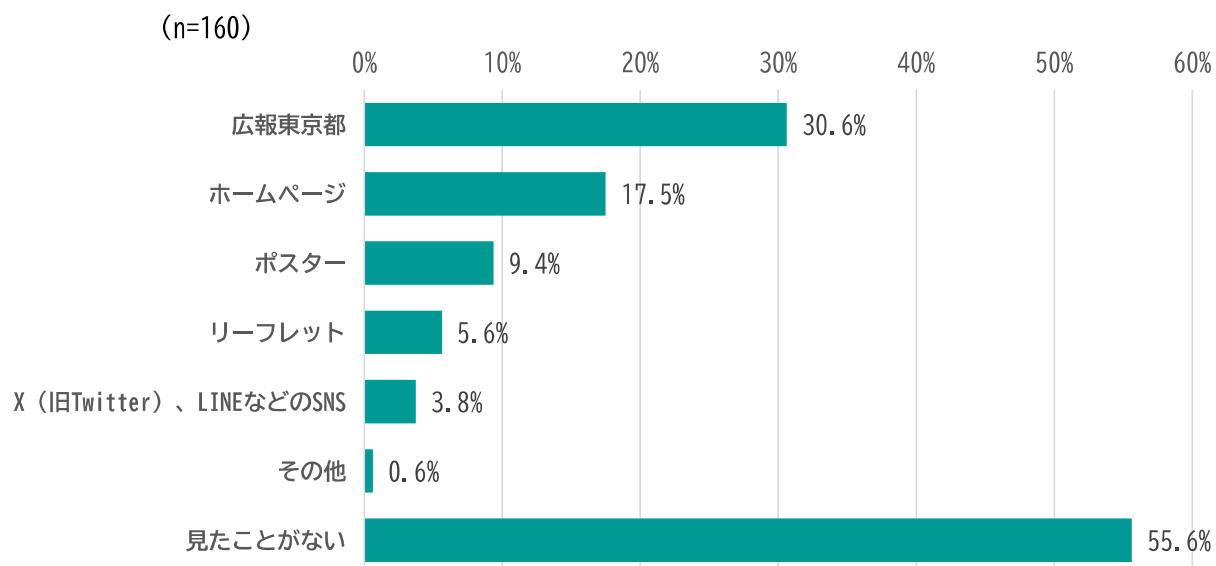
5 東京都の食品安全に関する情報発信について

(1) 東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの

Q16 東京都が発信する食品の安全性に関する情報について、見たことがあるものはありますか。(複数回答)

東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるものについては、「広報東京都」が30.6%と最も高く、次いで「ホームページ」が17.5%、「ポスター」が9.4%、「リーフレット」が5.6%と続いた。一方、「見たことがない」は55.6%であった。

図表 170：東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）



性別では大きな差は見られなかった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「広報東京都」の割合が17.3%と全体（30.6%）を13.3ポイント下回り、「見たことがない」の割合が65.4%と全体（55.6%）を9.8ポイント上回った。65歳～74歳は「広報東京都」の割合が40.0%と全体（30.6%）を9.4ポイント上回った。75歳～は「ホームページ」の割合が22.6%と全体（17.5%）を5.1ポイント上回り、「見たことがない」の割合が49.1%と全体（55.6%）を6.5ポイント下回った。

図表 171：【性別・年齢別】 東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）

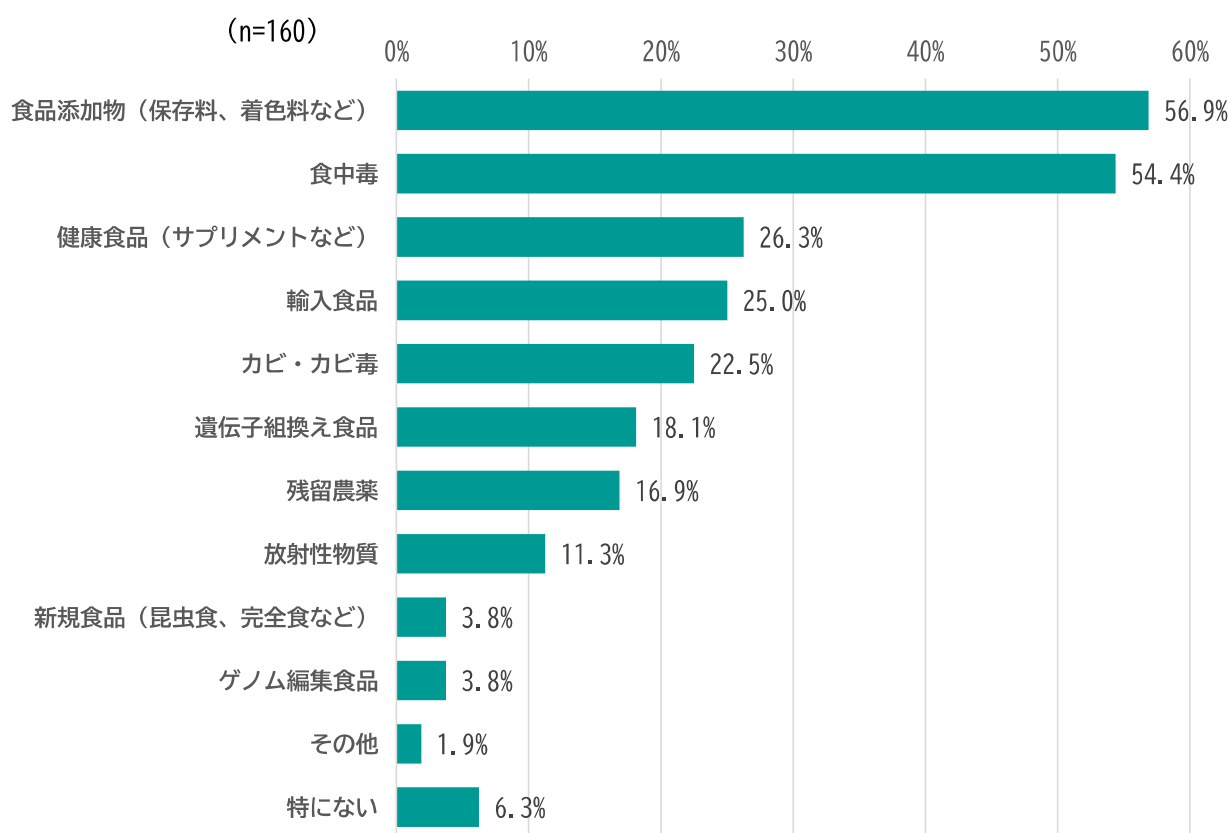
		回答者数（n）	広報東京都	ホームページ	ポスター	リーフレット	L I X（旧 T w i t t e r） N E などの S N S	その他	見たことがない
全体		160	30.6%	17.5%	9.4%	5.6%	3.8%	0.6%	55.6%
性別	男性	81	29.6%	18.5%	11.1%	8.6%	3.7%	-	59.3%
	女性	79	31.6%	16.5%	7.6%	2.5%	3.8%	1.3%	51.9%
年齢	55歳～64歳	52	17.3%	15.4%	11.5%	3.8%	3.8%	1.9%	65.4%
	65歳～74歳	55	40.0%	14.5%	9.1%	7.3%	5.5%	-	52.7%
	75歳～	53	34.0%	22.6%	7.5%	5.7%	1.9%	-	49.1%

(2) 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの

Q17 食品の安全性に関することで、東京都のホームページやSNSに掲載していたらよいと思うものは何ですか。(最大3つまで)

食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うものについては、「食品添加物(保存料、着色料など)」が56.9%と最も高く、次いで「食中毒」が54.4%、「健康食品(サプリメントなど)」が26.3%、「輸入食品」が25.0%と続いた。一方、「特にない」は6.3%であった。

図表 172：食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）



性別に見ると、「食品添加物（保存料、着色料など）」の割合は、男性よりも女性の方が22.7ポイント高かった。

年齢別に見ると、55歳～64歳は「ゲノム編集食品」の割合が9.6%と全体（3.8%）を5.8ポイント上回った。65歳～74歳は「食品添加物（保存料、着色料など）」、「輸入食品」の割合がそれぞれ65.5%、32.7%と全体（56.9%、25.0%）を5ポイント以上上回った。75歳～は「健康食品（サプリメントなど）」、「カビ・カビ毒」、「残留農薬」の割合がそれぞれ全体（26.3%、22.5%、16.9%）を5ポイント以上上回った。

図表 173：【性別・年齢別】 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）

	回答者数（n）	食品添加物（保存料、着色料など）	食中毒	健康食品（サプリメントなど）	輸入食品	カビ・カビ毒	遺伝子組換え食品	残留農薬	放射性物質	新規食品（昆虫食、完全食など）	ゲノム編集食品	その他	特になし	
全体	160	56.9%	54.4%	26.3%	25.0%	22.5%	18.1%	16.9%	11.3%	3.8%	3.8%	1.9%	6.3%	
性別	男性	81	45.7%	58.0%	29.6%	29.6%	21.0%	16.0%	14.8%	11.1%	4.9%	1.2%	2.5%	7.4%
	女性	79	68.4%	50.6%	22.8%	20.3%	24.1%	20.3%	19.0%	11.4%	2.5%	6.3%	1.3%	5.1%
年齢	55歳～64歳	52	59.6%	55.8%	30.8%	25.0%	15.4%	21.2%	19.2%	13.5%	1.9%	9.6%	3.8%	5.8%
	65歳～74歳	55	65.5%	54.5%	14.5%	32.7%	23.6%	21.8%	9.1%	14.5%	7.3%	-	1.8%	5.5%
	75歳～	53	45.3%	52.8%	34.0%	17.0%	28.3%	11.3%	22.6%	5.7%	1.9%	1.9%	-	7.5%

6 自由記述

Q18 最近見た国や都道府県、区市町村の広告などについて、印象に残ったものがあれば教えてください。(自由にご記入ください)

記述内容
東京都アプリ
東京都アプリの広告
東京都知事の話(東京アプリ)
東京都ポイント
東京都民の11,000ポイントが分かりにくい。ガラケーの人はもらえないとか、スマホを持っていない人がもらえないのは不公平。
東京都のLINE・東京都のホームページ
高市政権の骨太の方針
長野県安曇野、レタス作るのにペットボトルの利用がある
東北熊情報。台風情報。
クマ
熊本地震
詐欺関係
ノロウイルス
補聴器の補助金
大阪万博
冬季オリンピック
ゴミ問題の広告

Q19 食品の安全性に関する情報が同世代に伝わるにはどうしたらよいか、アイデアがあれば記載してください。(自由にご記入ください)

記述内容
テレビで発信する
テレビなどのメディア
テレビ。短時間に流してほしい。
テレビで教えてもらう
テレビニュースを見る世代なのでテレビニュースで正確な情報を。
TVCMやYouTubeの広告を使用する
国がコマーシャルで告知(テレビ)
とにかく正しい情報をTVやSNSで流してください
SNS
SNS(YouTube)、病院の待合い、薬局など
SNSでの発信
積極的にSNSを活用。物量でたくさん流す。
流行でない通常的な食材を取り入れた基本的な料理法や調味料の混ぜ方、組み合わせ。基礎的な料理の配信。
YouTube
YouTubeでのショート動画
情報が確実なYouTube、広告等
市町村とスーパーマーケット(小売)とのコラボ動画
LINEやTwitter(X)でのお知らせ
スマートフォン(LINE・ショートメール)
東京都のアプリで見れると良いと思います
東京都のホームページをあまり見ないので、どれを見れば良いか分かりやすくしてほしい
ネットで情報を発信して欲しい
広報紙
広報東京都
広報、公報での発信
広報は何となく見るので、広く情報を載せてほしい
ポスターでのお知らせ
ポスターでのお知らせ(太字で)
ポスターなど
適切な場所のポスター

記述内容
スーパーなど男性だったら奥さん任せにしないで、一緒に行きポスターや現物をみて確認する。
電車の中広告
商業施設の外壁看板
商店街での啓発活動
飲食店を活用して、メニューに関連付けさせる
集会、講習会、セミナー
セミナーにより、生の声で伝える
同世代で良く話している。講演会などを。
学校教育の場に積極的に取り入れる。
口コミ
口コミ（友人）
実際に自分の経験を伝える。口コミとか。インターネットや広報。
飲み会（コミュニケーションで知ると良い）
親から聞くと良い
よく話をする
ラジオでの告知。
オールドメディアの活用
数多く発信することだと思います（特に発信手段は選ばないが…）
偏らず色々な手段で発信することだと思います（HP、リーフレット、セミナーなど）
国や都などから発信（どのような発信方法かの希望は特になし）
食品の安全性について、ないがしろにした事によって大変なことになるということをどんどん流すと良いと思う
広く広告

V 資料

・ ネットアンケート調査・街頭アンケート調査の比較

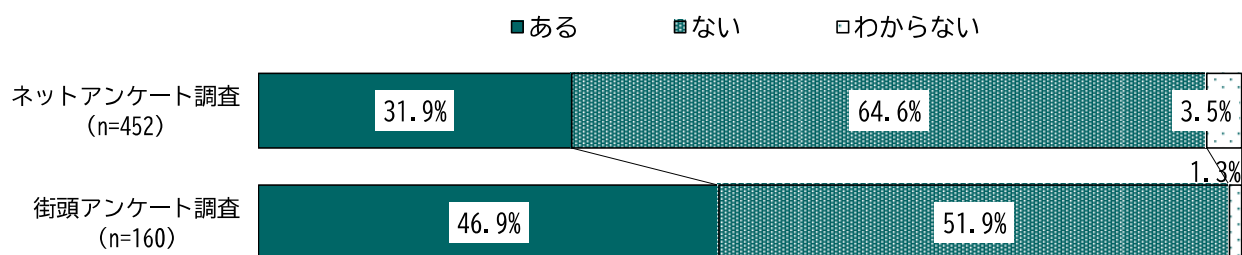
※Qの表記は、「ネットアンケート調査の設問番号（街頭アンケート調査の設問番号）」とする

1 回答者の属性

(1) 基礎疾患の有無

Q2 (Q1) あなたは基礎疾患がありますか。

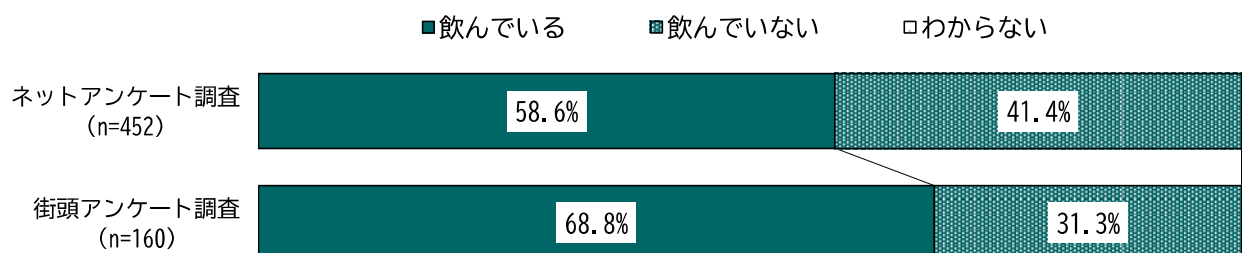
図表 174：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】基礎疾患の有無



(2) 薬（医薬品）の服用

Q3 (Q2) 現在、薬（医薬品）を服用していますか。

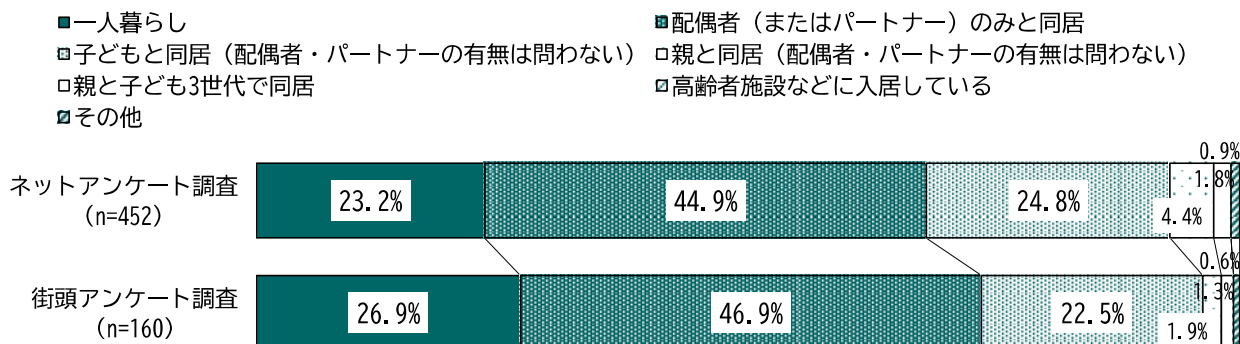
図表 175：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】薬（医薬品）の服用



(3) お住まいの状況

Q4 (Q3) 現在のお住まいの状況について、最も近いものをお選びください。

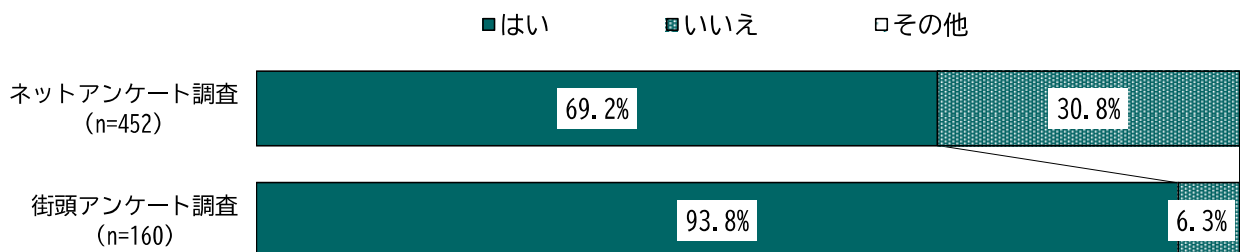
図表 176：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】お住まいの状況



(4) 活動状況（週2回以上の活動）

Q5 (Q4) あなたは、週に2回以上、仕事・趣味・運動・学習・地域活動・友人との交流、または健康を意識した行動（例：散歩、体操、食事管理など）をしていますか。

図表 177：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】活動状況（週2回以上の活動）

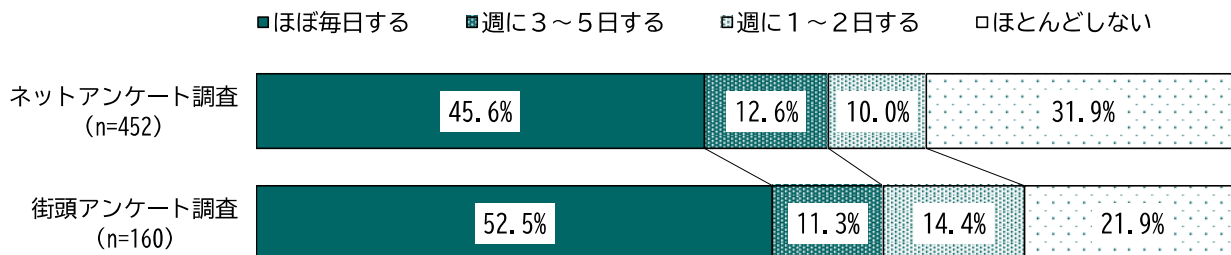


2 食品安全に関する意識

(1) 料理をする頻度

Q6 (Q5) あなたはふだん自分で料理をしますか。

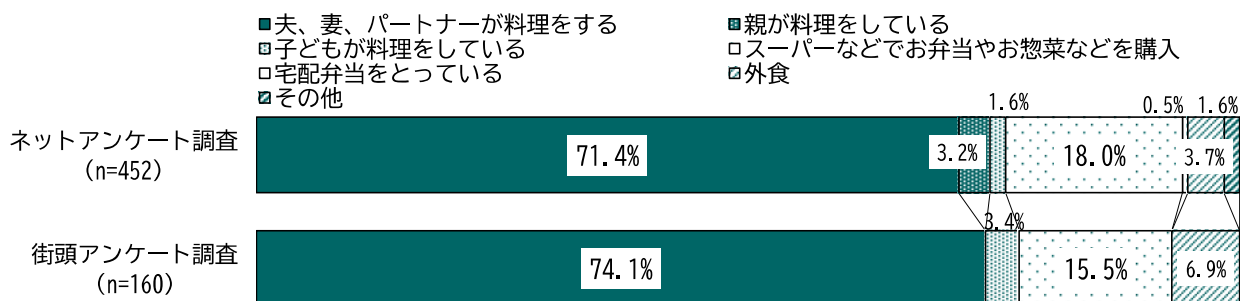
図表 178：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】料理をする頻度



(2) 自炊しない場合の食事方法

Q7 (Q6) Q6 (Q5) で「週に1~2日する」「ほとんどしない」と回答した方にうかがいます。自炊しない場合、食事はどのようにされていますか。最も当てはまるものを選びください。

図表 179：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】自炊しない場合の食事方法

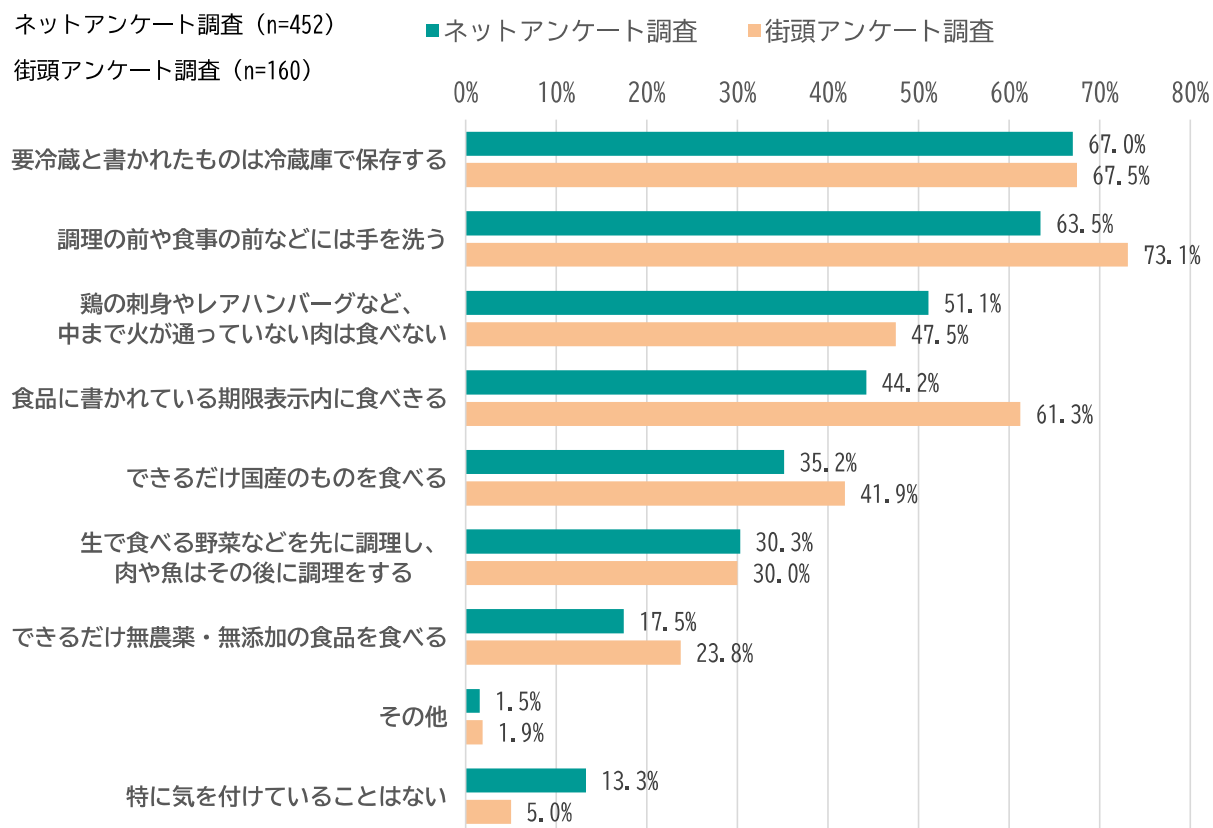


3 食中毒に関する意識

(1) 食中毒予防のために気を付けていること

Q10 (Q7) あなたが食中毒予防のために特に気を付けていることは何ですか。(複数回答)

図表 180：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
食中毒予防のために気を付けていること (複数回答)



4 食品安全に関する情報収集について

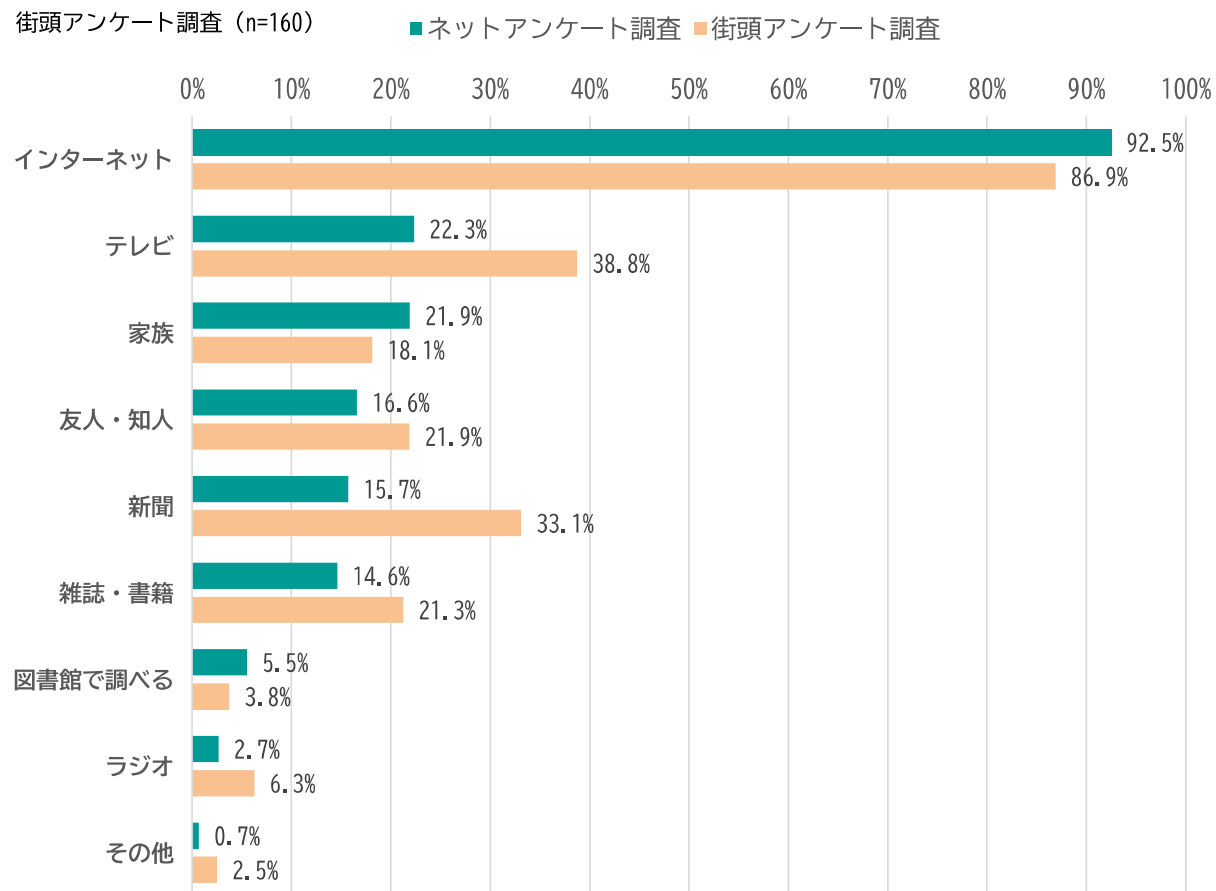
(1) 情報入手手段

Q22 (Q8) あなたはふだん、何かを調べようとするときに、どのような手段をよく利用しますか。(複数回答)

図表 181：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】情報入手手段（複数回答）

ネットアンケート調査 (n=452)

街頭アンケート調査 (n=160)



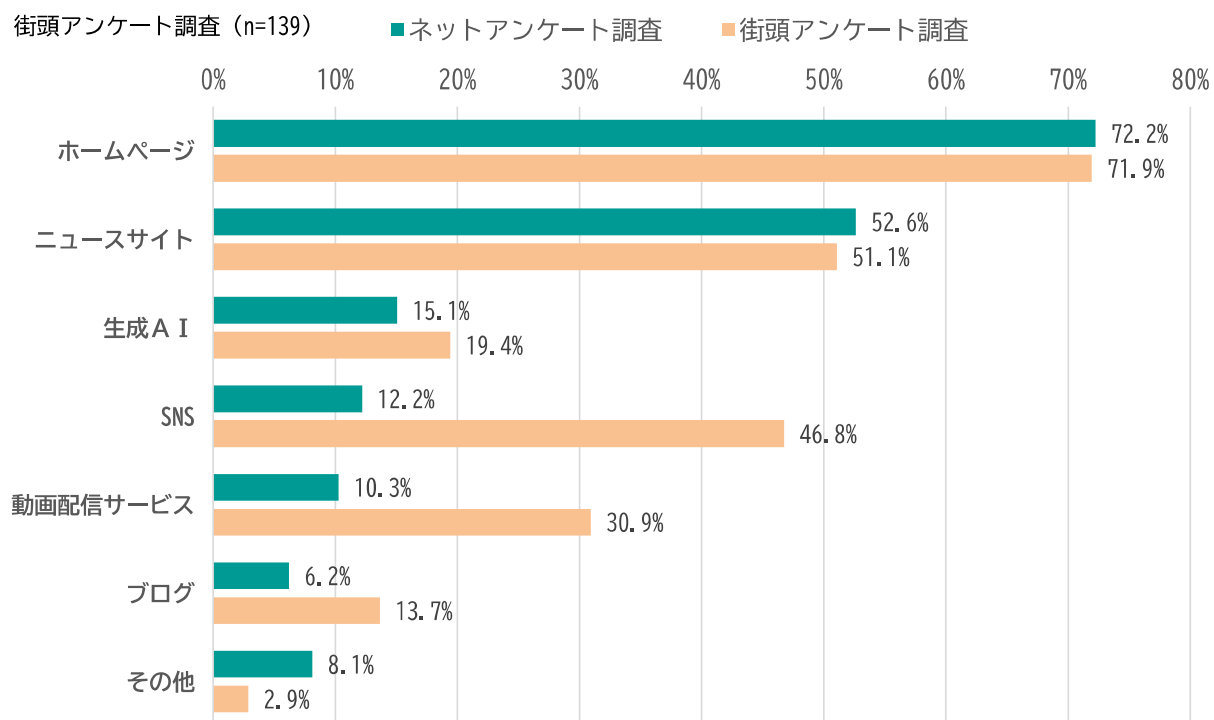
(2) インターネットにおける情報源

Q23 (Q9①) Q22 (Q8) で「インターネット」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どこから情報を得ていますか。(複数回答)

図表 182：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源 (複数回答)

ネットアンケート調査 (n=418)

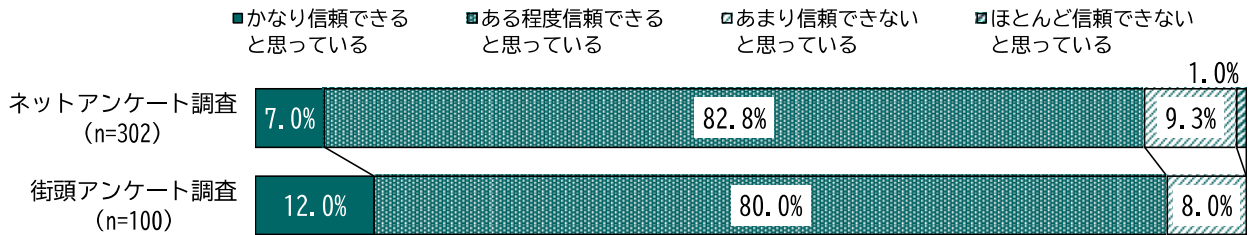
街頭アンケート調査 (n=139)



Q24 (Q9②) Q23 (Q9①) で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

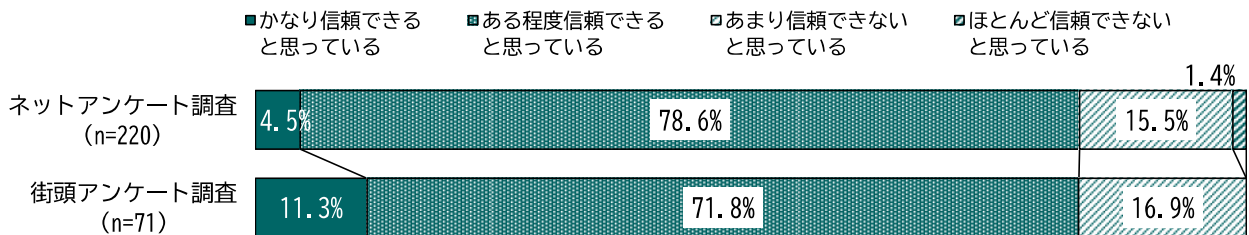
① ホームページ

図表 183：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度 [ホームページ]



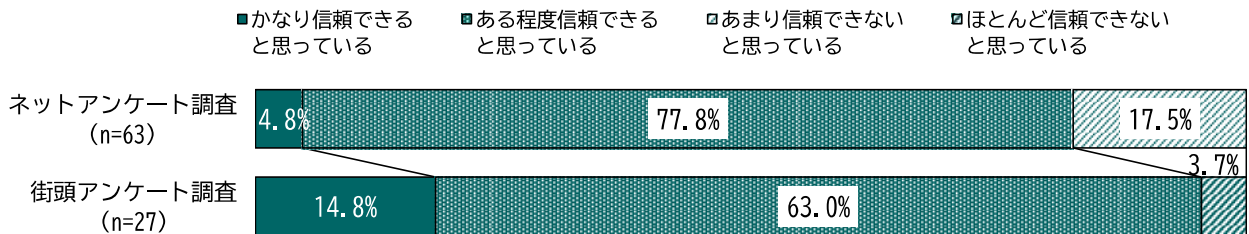
② ニュースサイト

図表 184：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度 [ニュースサイト]



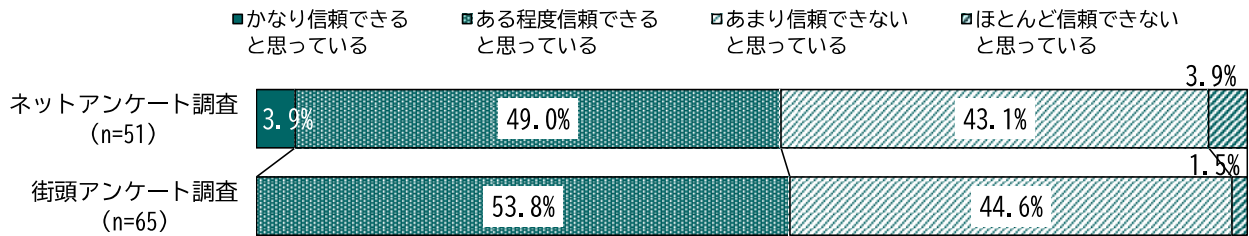
③ 生成 AI

図表 185：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度 [生成 AI]



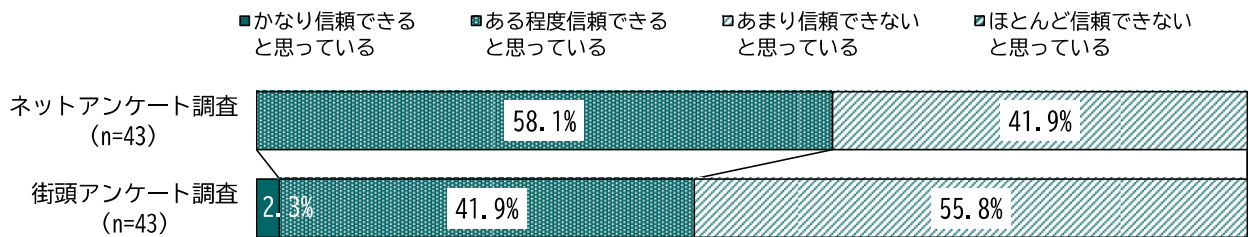
④ SNS

図表 186：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度【SNS】



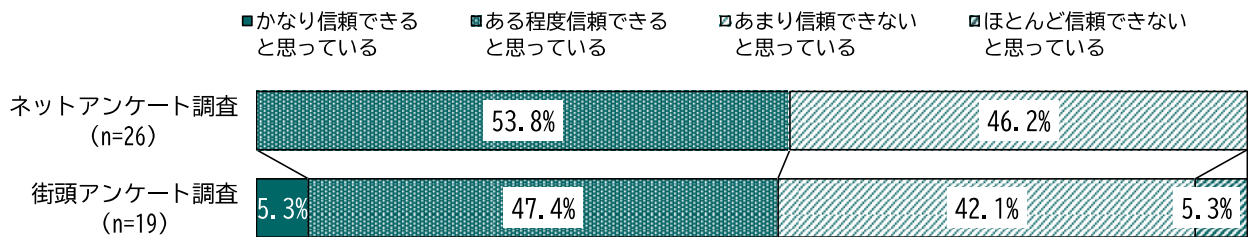
⑤ 動画配信サービス

図表 187：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度【動画配信サービス】



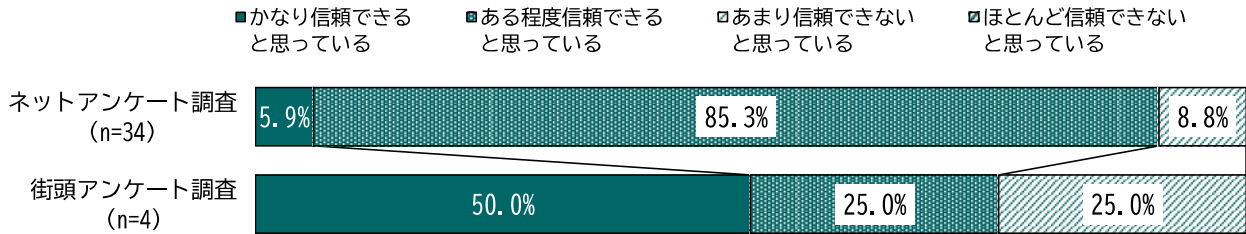
⑥ ブログ

図表 188：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度【ブログ】



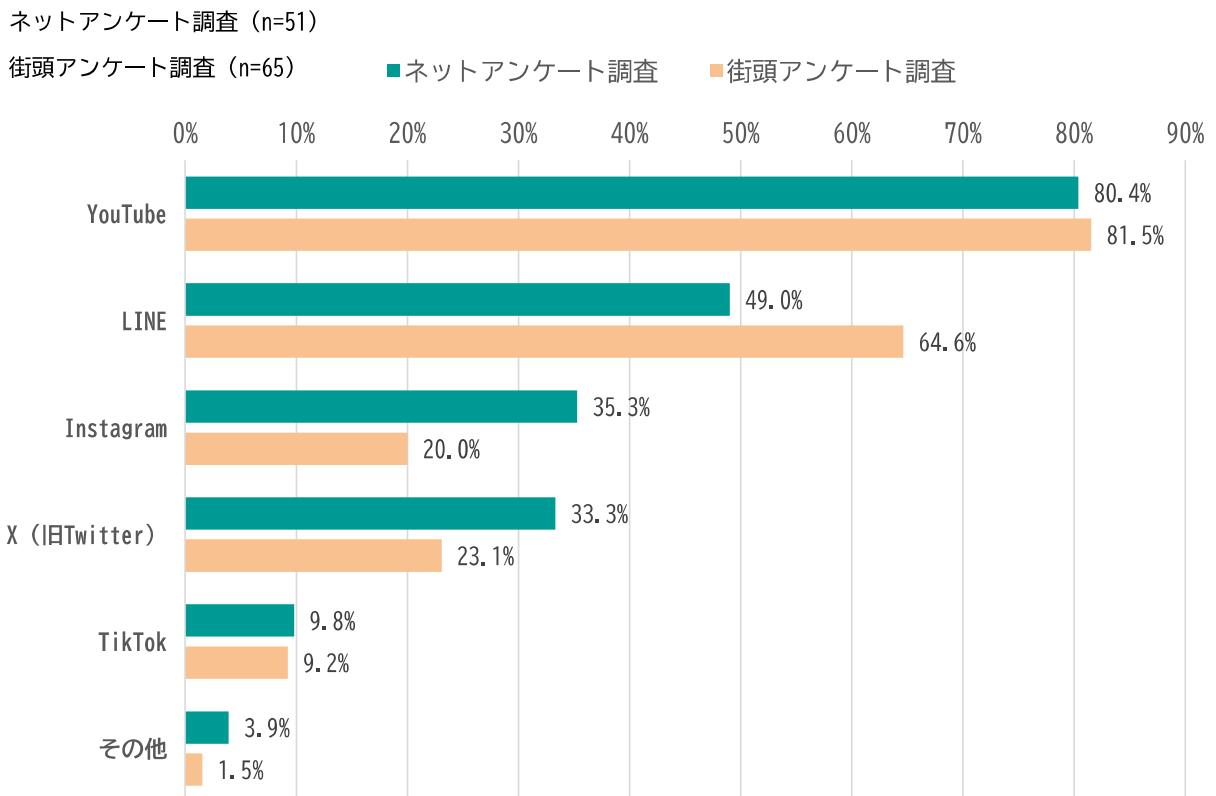
⑦ その他

図表 189：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
インターネットにおける情報源の信頼度 [その他]



Q25 (Q10①) Q23 (Q9) で「SNS」と回答した方にうかがいます。
具体的には、どの媒体から情報を得ていますか。(複数回答)

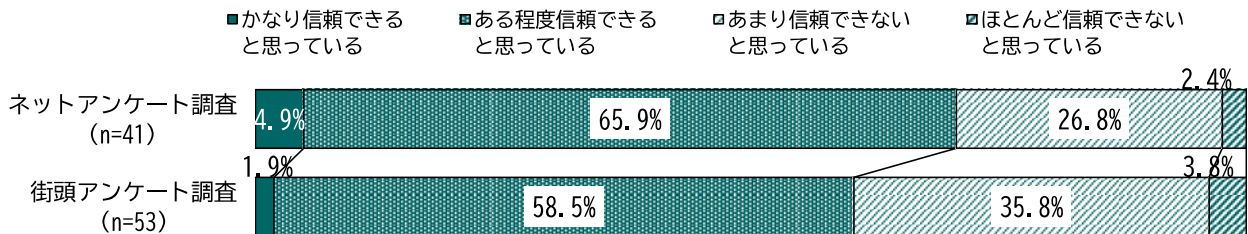
図表 190：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
情報を得ている SNS (複数回答)



Q26 (Q10②) Q25 (Q10①) で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。

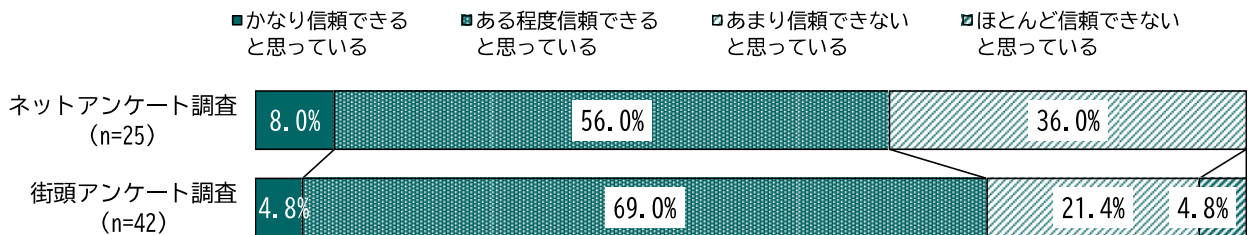
① YouTube

図表 191：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [YouTube]



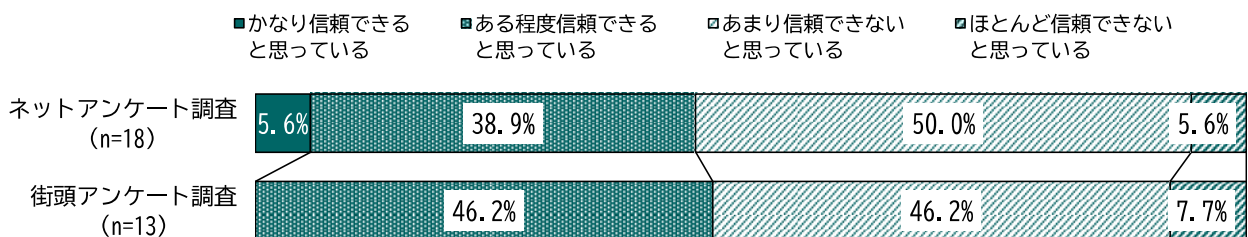
② LINE

図表 192：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [LINE]



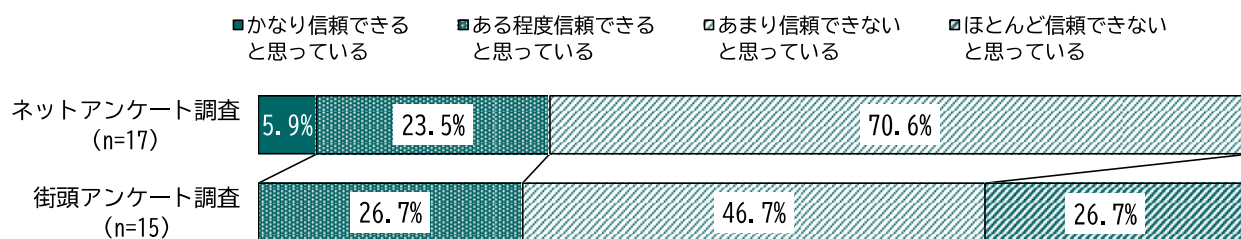
③ Instagram

図表 193：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [Instagram]



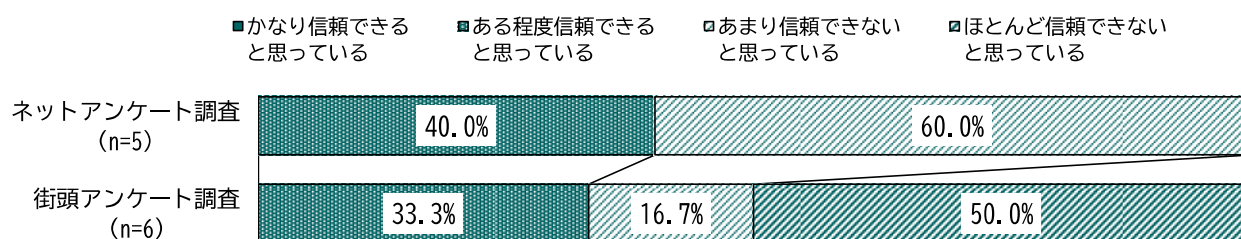
④ X (旧 Twitter)

図表 194：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [X (旧 Twitter)]



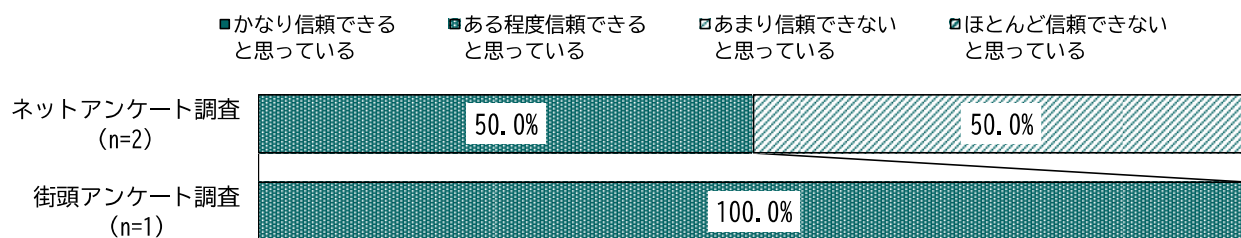
⑤ TikTok

図表 195：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [TikTok]



⑥ その他

図表 196：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】SNS の信頼度 [その他]



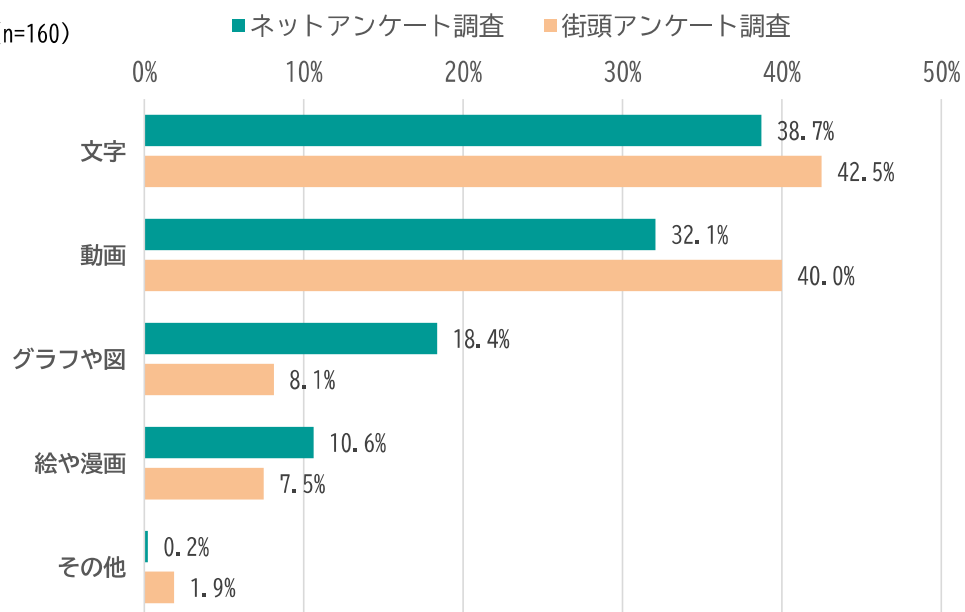
(3) わかりやすい情報提示方法

Q27 (Q11) あなたが、何かを知るときに、どのように説明されていると最もわかりやすいと思いますか。

図表 197：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】わかりやすい情報提示方法

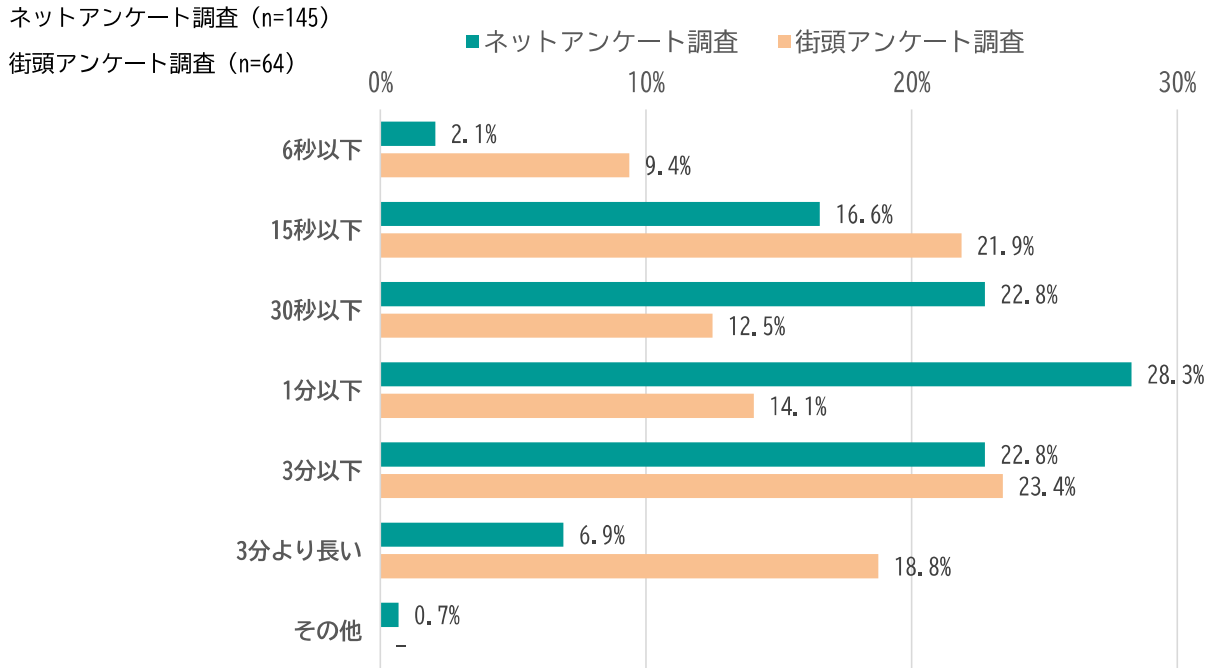
ネットアンケート調査 (n=452)

街頭アンケート調査 (n=160)



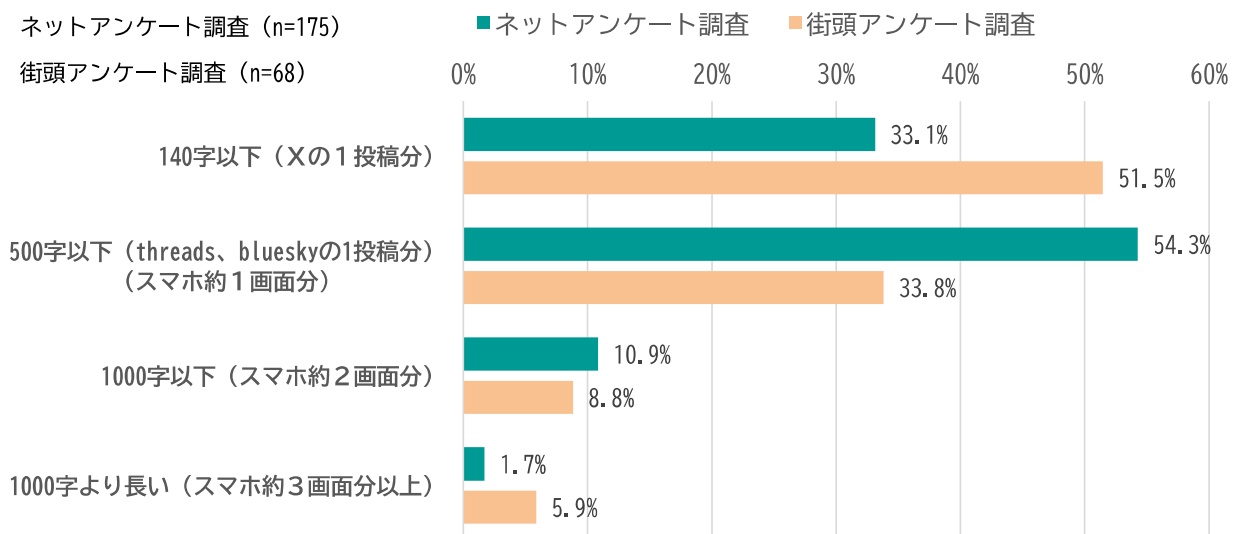
Q28 (Q12) Q27 (Q11) で「動画」と回答した方にうかがいます。
どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思いますか。

図表 198：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】最後まで見ようと思う動画の長さ



Q29 (Q13) Q27 (Q11) で「文字」と回答した方にうかがいます。
何文字くらいが良いですか？

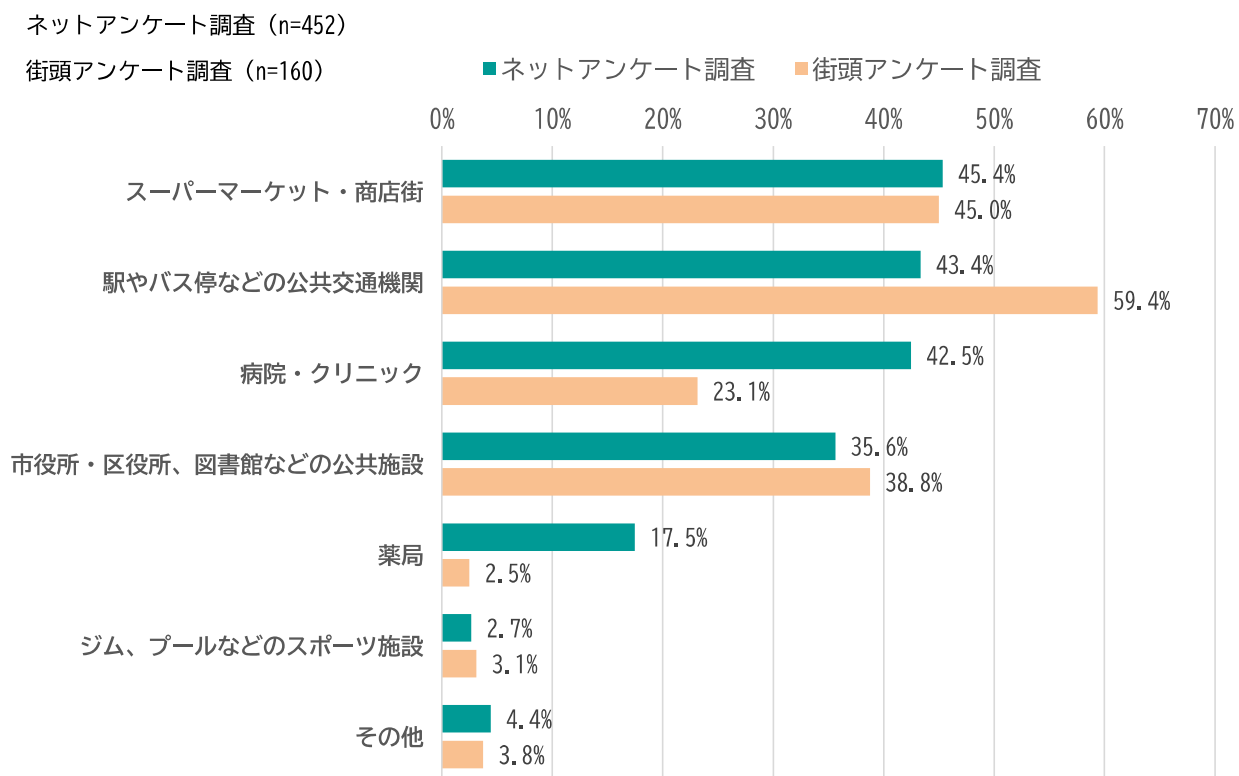
図表 199：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】適切な文字数



(4) ポスターやリーフレットをよく目にする場所

Q30 (Q14) ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所はどこですか。(最大3つまで)

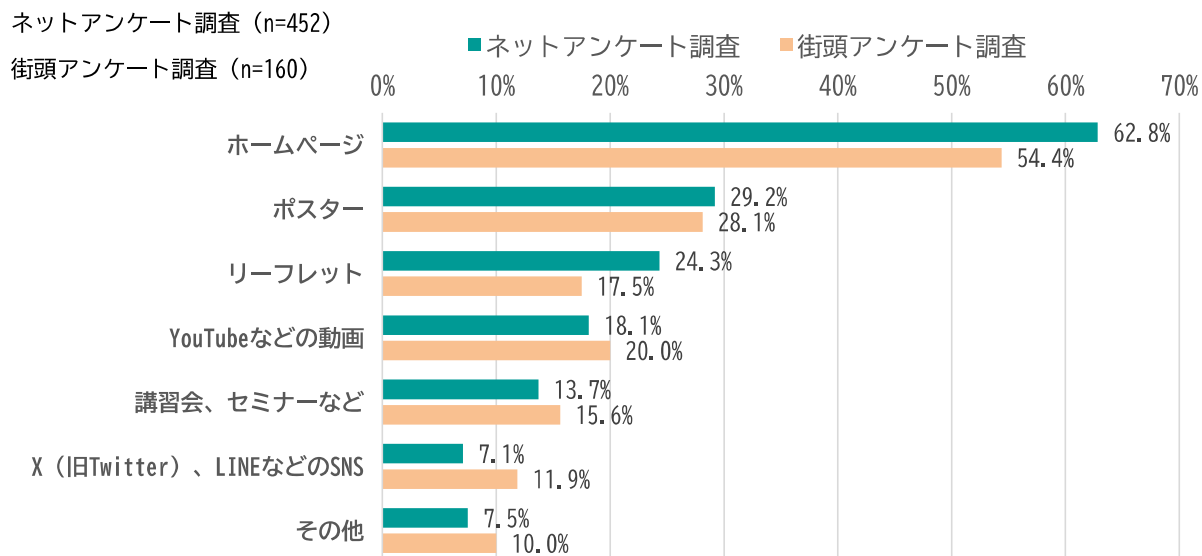
図表 200：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
ポスターやリーフレットをよく目にする場所（3つまで）



(5) 食品安全に関し、特に関心を持てる情報源

Q31 (Q15) 食品の安全性に関する情報について、どこで見たり聞いたりすると「もっと知りたい」と思いますか？あなたが特に関心を持てる情報源を選んでください。
(最大3つまで)

図表 201：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
食品安全に関し、特に関心を持てる情報源（3つまで）



5 東京都の食品安全に関する情報発信について

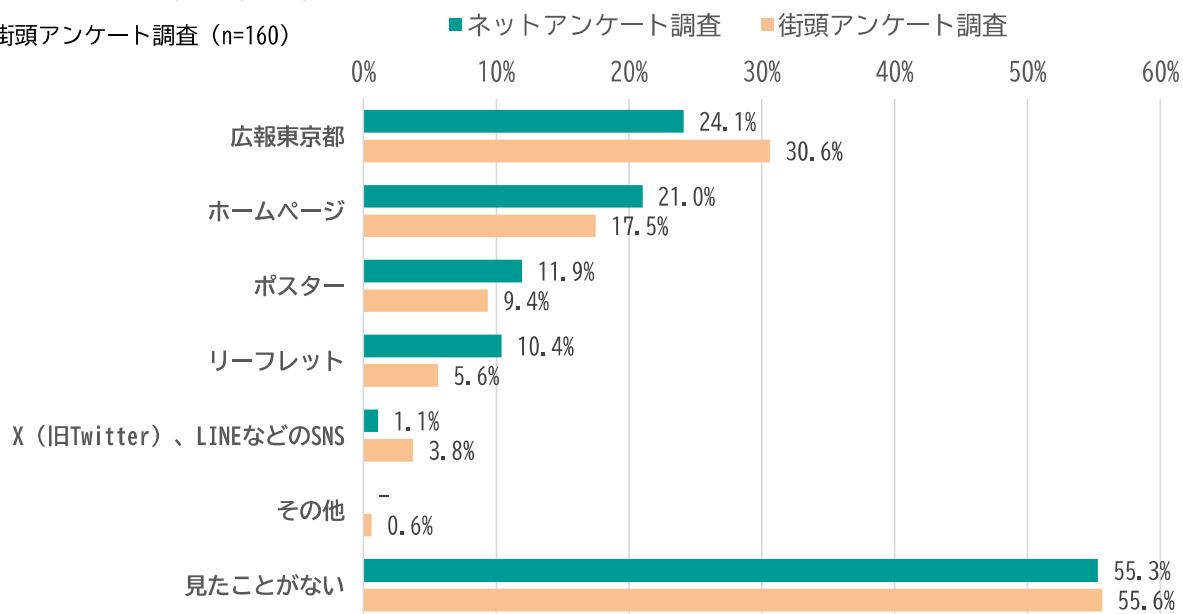
(1) 東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの

Q32 (Q16) 東京都が発信する食品の安全性に関する情報について、見たことがあるものはありますか。(複数回答)

図表 202：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】
東京都の食品安全に関する情報で見たことがあるもの（複数回答）

ネットアンケート調査 (n=452)

街頭アンケート調査 (n=160)



(2) 食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの

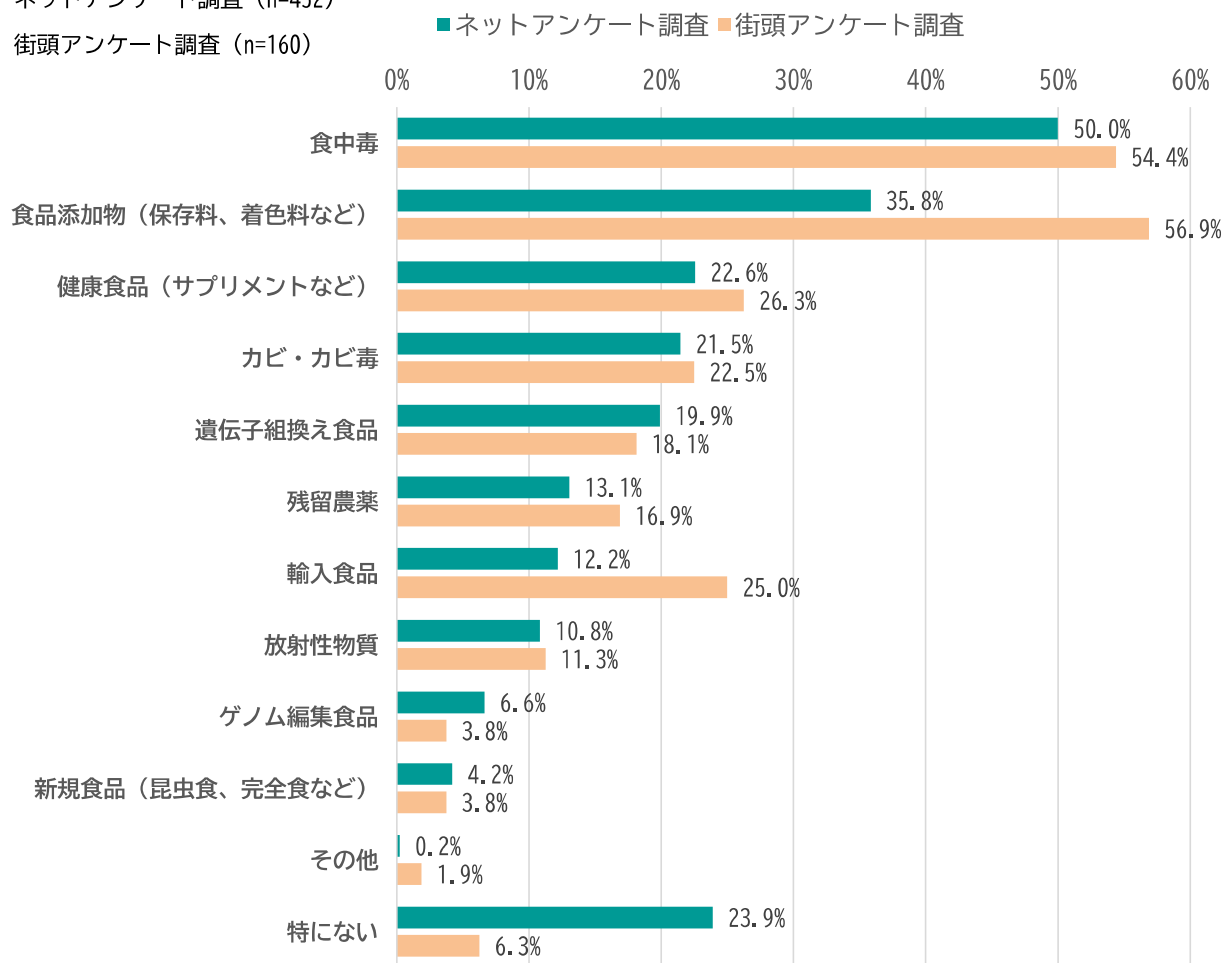
Q33 (Q17) 食品の安全性に関することで、東京都のホームページや SNS に載っていたらよいと思うものは何ですか。(最大3つまで)

図表 203：【ネットアンケート調査・街頭アンケート調査比較】

食品安全に関し、東京都のホームページ等に掲載していたらよいと思うもの（3つまで）

ネットアンケート調査 (n=452)

街頭アンケート調査 (n=160)



・ 調査票（インターネットアンケート調査）

食品安全に関する意識調査

締切 所定のお返事が集まった時点でアンケートは終了します。あらかじめご了承ください。

注意事項

- ※回答はお1人様1回です。
- ※必ず「[アンケート完了]」ボタンを押して回答を完了してください。
- ※JavaScriptを有効にしてください。

推奨ブラウザ

Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Google Chrome、Safari

アンケート内の情報について

アンケート内容については、いかなる情報も複製、販売、出版/公開などにより他者へ開示することを禁止いたします。ご承諾いただける場合のみ回答にお進みください。

アンケートデータの取り扱いについて

アンケートデータの取り扱いについて当アンケートでご回答いただいた内容は、法規制や当社のプライバシーポリシーに従い、個人名やユーザー名を除いた上で集計データ及びテキストデータとしてアンケート依頼主に関連・提供いたします。

アンケートに回答する

1

あなたのお住まいの都道府県を教えてください。
(ひとつだけ) *回答必須

- 東京都
- 東京都以外

次へ

2

あなたは耳痛疾患がありますか。
(ひとつだけ) *回答必須

- ある
- ない
- わからない

次へ

3

現在、薬（医薬品）を服用していますか。
(ひとつだけ) *回答必須

- 飲んでいる
- 飲んでいない
- わからない

次へ

4

現在のお住まいの状況について、最も近いものをお選びください。
(ひとつだけ) *回答必須

- 一人暮らし
- 配偶者（またはパートナー）のみと同居
- 子どもと同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）
- 親と同居（配偶者・パートナーの有無は問わない）
- 親と子ども3世代で同居
- 高齢者施設などに入居している
- その他（具体的に）

次へ

5

あなたは、週に2回以上、仕事・趣味・運動・学習・地域活動・友人との交流、または健康を意図した行動（例：散歩、体操、食事管理など）をしていますか。

（ひとつだけ）*回答必須

- はい
- いいえ
- その他（具体的に）

次へ

6

あなたはふだん自分で料理をしますか。

（ひとつだけ）*回答必須

- ほぼ毎日する
- 週に3～5日する
- 週に1～2日する
- ほとんどしない

次へ

7

Q6で「週に1～2日する」「ほとんどしない」と回答した方にうかがいます。
 自然しない場合、食事はどのようにされていますか。最も当てはまるものをお選びください。
 （ひとつだけ）*回答必須

- 夫、妻、パートナーが料理をする
- 親が料理をしている
- 子どもが料理をしている
- スーパーなどでお弁当やお惣菜などを購入
- 宅配弁当をとっている
- 外食
- その他（具体的に）

次へ

8

次のうち、あなたがらだん食品を購入したり、外食の際に特に気にしていることは何ですか。【最大3つまで】

*回答必須

- 外食時の食品衛生
- 食品ロス
- 産地の届
- 食品添加物（保存料、着色料など）
- 産地産
- 食品表示の偽装
- 食品価格
- 残留農薬
- 食中毒
- 産地の届
- その他（具体的に）
- 特になし

次へ

9

あなたは、今までに食中毒（食品が原因の体調不良のこと。疑いを含む）になったことがありますか。【ひとつだけ】*回答必須

- あった
- なかった
- わからない・覚えていない

次へ

10

あなたが食中毒予防のために特に気を付けていることは何ですか。
(いくつでも) *回答必須

- 食品に書かれている期限表示内に食べきる
- 鶏の刺身やレア/シバーグなど、中まで火が通っていない肉は食べない
- 調理の前や食事の前などには手を洗う
- できるだけ無農薬・無添加の食品を食べる
- 生で食べる野菜などを先に調理し、肉や魚はその後に調理をする
- 醤油瓶と書かれたものは冷蔵庫で保存する
- できるだけ国産のものを食べる
- その他(具体的に)
- 特に気を付けていることはない

次へ

11

ノロウイルス食中毒について正しいと思うものを全てお選びください。
(いくつでも) *回答必須

- 原因は生かきによるものが大半を占める
- ノロウイルス食中毒は、夏も起きることがある
- ノロウイルスの食中毒予防で大切なのは、手洗いである
- アルコール消毒をすれば、手洗いは必要ない
- ノロウイルスは食中毒だけでなく、人から人へも感染する
- 正しいと思う選択肢はない

次へ

12

次の内容について、どのように思いますか。(ひとつだけ) *回答必須

食中毒にかかると、時には死ぬこともある。

- そう思う
- そう思わない
- わからない

次へ

13

あなたは、食中毒予防などについて、どこで習いましたか。
(いくつでも) *回答必須

- 学校で習った
- 祖父母又は親から教わった
- 兄弟・子どもから教わった
- 友人から教わった
- その他(具体的に)
- 覚えていない
- 習っていない

次へ

14

あなたは現在、健康食品を利用していますか。
(ひとつだけ) *回答必須

- 毎日、利用している
- 時々、利用している
- 以前は利用していたが、現在は利用していない
- 一度も利用していない

次へ

15

何種類の健康食品を利用されていますか(利用されていましたか)。
(ひとつだけ) *回答必須

- 1種類
- 2種類
- 3種類
- 4種類
- 5種類以上
- わからない

次へ

16

何がきっかけで健康食品を利用しはじめましたか。 (いくつでも) *回答必須

- 家族から勧められた
- 知人、友人から勧められた
- テレビやラジオの番組やCM
- 新聞・雑誌の広告
- 企業のホームページやSNS
- 医師の勧め
- 著名人の影響
- 商品のデモンストラーション
- その他 (具体的に)

次へ

17

健康食品を利用する目的は何ですか。 (いくつでも) *回答必須

- 健康維持・増進
- 栄養補給
- 疲労回復
- 免疫力アップ
- ダイエット
- 美容
- 病気の子供・治療
- その他 (具体的に)

次へ

18

健康食品を利用して、目的に合った効果はありましたか。
(ひとつだけ) *回答必須

- 効果があった
- 効果があるような気がするため、継続している
- 効果は高いが、今後効くかもしれないため、継続している
- 効果はないが、何となく継続している
- 効果がなくて、やめた
- わからない

次へ

19

健康食品を利用することについて、医師・薬剤師などの医療従事者へ相談をしましたか。
(ひとつだけ) *回答必須

- 相談した
- 相談していない

次へ

20

Q19で「相談していない」と回答した方にうかがいます。
 相談しなかった理由について教えてください。
(いくつでも) *回答必須

- 健康食品は食品のため、相談する必要がないと思ったため
- 相談すると健康食品をやめるように言われると思ったため
- 面倒だったため
- 相談するタイミングがなかったため
- 基礎疾患や治療中の病気はないため、相談する必要がなかった
- 相談できることを知らなかった
- その他（具体的に）
- 覚えていない

次へ

21

健康食品について、正しいと思うものを全て選んでください。
(いくつでも) *回答必須

- 栄養を受けている人が健康食品を利用すると、病気が悪化したり消滅薬が効かなくなることがある
- 健康食品の利用前に医師や薬剤師に相談した方がよい
- 健康食品を利用して具合が悪くなったら、すぐに利用を中止し病院を受診する
- 健康食品は医薬品と同じ効果があると思う
- 原材料が天然・自然由来のものは、より安心して摂取できる
- 健康食品で手軽に栄養補給ができるので、食事から栄養をとらなくても大丈夫である
- 医薬品は副作用があるが、健康食品は食品なのでそのようなことは起こらない
- 正しいと思う選択はない

次へ

22

あなたはだん、何かを調べようとするときに、どのような手段をよく利用しますが。
(いくつでも) *回答必須

- インターネット
- 新聞
- 友人・知人
- ラジオ
- 雑誌・書籍
- 家族
- テレビ
- 図書館で調べる
- その他 (具体的に)

次へ

23

Q22で「インターネット」と回答した方にしかかきます。
具体的には、どこから情報を得ていますか。
(いくつでも) *回答必須

- ホームページ
- ブログ
- ニュースサイト
- SNS
- 動画配信サービス
- 生成AI
- その他 (具体的に)

次へ

Q23で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますが、

***回答必須**

	かなり信頼できる と思っている	ある程度信頼できる と思っている	あまり信頼できない と思っている	ほとんど信頼できない と思っている
ホームページ →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ブログ →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ニュースサイト →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SNS →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
動画配信サービス →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
生成AI →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ

Q23で「SNS」と回答した方にうかがいます。

具体的に、どの媒体から情報を得ていますが、

(いくつでも) *回答必須

- YouTube
- TikTok
- LINE
- X (旧Twitter)
- Instagram
- その他 (具体的に)

次へ

26

Q25で選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思えますか。

***回答必須**

	かなり信頼できると思っている	ある程度信頼できると思っている	あまり信頼できないと思っている	ほとんど信頼できないと思っている
YouTube →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TikTok →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
LINE →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
X (旧Twitter) →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Instagram →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他 →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次へ

27

あなたが、何かを知るときに、どのように説明されていると最もわかりやすいと思えますか。

(ひとつだけ) *回答必須

- 数値
- 文字
- 絵や漫画
- グラフや図
- その他(具体的に)

次へ

28

Q27で「動画」と回答した方にかかっています。
どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思えますか。
(ひとつだけ) *回答必須

- 6秒以下
- 15秒以下
- 30秒以下
- 1分以下
- 2分以下
- 3分より長い
- その他 (条件約に)

次へ

29

Q27で「文字」と回答した方にかかっています。
何文字くらいが良いですか？
(ひとつだけ) *回答必須

- 140字以下 (Xの1投稿分)
- 500字以下 (threads、blueskyの1投稿分) (スマホ約1画面分)
- 1000字以下 (スマホ約2画面分)
- 1000字より長い (スマホ約3画面分以上)

次へ

30

みだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所はどこですか。(最大3つまで)

*回答必須

- 市役所・区役所、図書館などの公共施設
- 駅やバス停などの公共交通機関
- スーパーマーケット・商店街
- ジム、プールなどのスポーツ施設
- 病院・クリニック
- 実業
- その他(具体的に)

次へ

31

食品の安全性に関する情報について、どこで見たり聞いたりすると「もっと知りたい」と思いますか?あなたが特に関心を持っている情報源を選んでください。(最大3つまで)

*回答必須

- ホームページ
- X(旧Twitter)、LINEなどのSNS
- リーフレット
- ポスター
- Youtubeなどの動画
- 講演会、セミナーなど
- その他(具体的に)

次へ

32

東京都が発信する食品の安全性に関する情報について、見たことがあるものはありますか。
(いくつでも) *回答必須

- ホームページ
- X (旧Twitter)・LINEなどSNS
- 広報東京都
- リーフレット
- ポスター
- その他(具体的に)
- 見たことがない

次へ

33

食品の安全性に関することで、東京都のホームページやSNSに載っていたらよいと思うものは何ですか。(最大3つまで)
*回答必須

- 食中毒
- 健康食品(サプリメントなど)
- カビ・カビ毒
- 輸入食品
- 食品添加物(保存料、着色料など)
- 放射性物質
- 新規食品(昆虫食、完全食など)
- 遺伝子組み換え食品
- ゲノム編集食品
- その他(具体的に)
- 特になし

次へ

34

最近見た冊や新聞記事、区市町村の広告などについて、印象に残ったものがあれば教えてください。
(自由にご記入ください)

回答欄

次へ

35

食品の安全性に関する情報が何世代に伝わるにはどうしたらよいか、アイデアがあれば記載してください。
(自由にご記入ください)

回答欄

次へ

ご協力ありがとうございました。

アンケートは以上で終了です。

アンケート完了

※閉じない場合はブラウザが閉じてください。

問10. 問9で「4.SNS」と回答した方にうかがいます。

具体的には、どの媒体から情報を得ていますか。(いくつでも選択可)

また、選んだものについて、そこからの情報は信頼できると思いますか。(〇は1つ)

①以下の項目から、あてはまるものを全てお選びください。 (〇を付けてください)		②「①」で選択した項目の信頼性について、それぞれお選びください。			
		かなり信頼でき ている	ある程度信頼 できている	あまり信頼でき ない	ほとんど信頼 できない
1.	YouTube				
2.	TikTok				
3.	LINE				
4.	X (旧Twitter)				
5.	Instagram				
6.	その他 ()				

問11. あなたが、何かを知るときに、どのように説明されていると最もわかりやすいと思いますか。(〇は1つ)

1. 動画 2. 文字 3. 絵や漫画 4. グラフや図 5. その他()

問12. 問11で「1.動画」と回答した方にうかがいます。

どのくらいまでの動画であれば最後まで見ようと思いますか。(〇は1つ)

1. 6秒以下 2. 15秒以下 3. 30秒以下 4. 1分以下 5. 3分以下
6. 3分より長い 7. その他()

問13. 問11で「2.文字」と回答した方にうかがいます。

何文字くらいが良いですか?(〇は1つ)

1. 140字以下 (Xの1投稿分) 2. 500字以下 (threads, blueskyの1投稿分) (スマホ約1画面分)
3. 1000字以下 (スマホ約2画面分) 4. 1000字より長い (スマホ約3画面分以上)

問14. ふだんの生活の中で、ポスターやリーフレットをよく目にする場所はどこですか。(最大3つまで選択可)

1. 市役所・区役所、図書館などの公共施設 2. 駅やバス停などの公共交通機関 3. スーパーマーケット・商店街
4. ジム、プールなどのスポーツ施設 5. 病院・クリニック 6. 薬局 7. その他()

問15. 食品の安全性に関する情報について、どこで見たり聞いたりすると「もっと知りたい」と思いますか?

あなたが特に興味を持てる情報源を選んでください。(最大3つまで選択可)

1. ホームページ 2. X (旧Twitter)、LINEなどのSNS 3. リーフレット 4. ポスター
5. YouTubeなどの動画 6. 講習会、セミナーなど 7. その他()

問16. 東京都が発信する食品の安全性に関する情報について、見たことがあるものはありますか。(いくつでも選択可)

1. ホームページ 2. X (旧Twitter)、LINEなどのSNS 3. 広報東京都 4. リーフレット
5. ポスター 6. その他() 7. 見たことがない

問17. 食品の安全性に関することで、東京都のホームページやSNSに載っていたらよいと思うものは何ですか。

(最大3つまで選択可)

1. 食中毒 2. 健康食品 (サプリメントなど) 3. カビ・カビ毒 4. 輸入食品
5. 食品添加物 (保存料、着色料など) 6. 放射性物質 7. 新規食品 (昆虫食、完全食など)
8. 残留農薬 9. 遺伝子組換え食品 10. ゲノム編集食品 11. その他() 12. 特にない

問18. 最近見た国や都道府県、区市町村の広告などについて、印象に残ったものがあれば教えてください。

(自由にご記入ください)

問19. 食品の安全性に関する情報が同世代に伝わるにはどうしたらよいか、アイデアがあれば記載してください。

(自由にご記入ください)

以上となります。ご協力ありがとうございました。

令和8年3月発行

シニア層を中心とした食品安全に関する意識調査

報告書

編集・発行 東京都健康安全研究センター
企画調整部 健康危機管理情報課 食品医薬品情報担当
〒169-0073
東京都新宿区百人町 3-24-1
電話 03 (3363) 3472

調査委託 株式会社 工業市場研究所
〒105-0003
東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル
電話 03 (6459) 0265